上幌内2遺跡

-厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 15-

2017.3

厚真町教育委員会

カラー図版1

1．遺跡周辺空撮　SW→

2．遺跡上空　W→

カラー図版2

1. ⅢGP-01(前)･02(奥)完掘 N→

2. ⅢGP-01(奥)･02(前)完掘 S→

3. ⅢGP-01東西断面 N→

4. ⅢGP-01東西断面拡大(1) N→

5. ⅢGP-01東西断面拡大(2) N→

6. ⅢGP-01南北断面 W→

カラー図版3

1. ⅢGP-01完掘(1) N→

2. ⅢGP-01完掘(2) S→

3. ⅢGP-01漆丸盆出土状態 SW→

カラー図版4

1．ⅢGP-02完掘　NE→

2．ⅢGP-02副葬品出土状態　SE→

カラー図版5

1．ⅢGP-03検出（Ⅲa層） NE→

2．ⅢGP-03完掘 NE→

カラー図版6

1. ⅢGP-04完掘　S→

2. ⅢGP-04副葬品出土状態(1)　SE→

3. ⅢGP-04副葬品出土状態(2)　NW→

4. ⅢGP-05完掘(1)　S→

5. ⅢGP-05副葬品出土状態(1)　SW→

6. ⅢGP-05副葬品出土状態(2)　S→

カラー図版7

1．ⅢGP-05和鏡出土状態　S→

2．ⅢGP-05完掘(2）S→

3．ⅢGP-05刀子･黒曜石出土状態　E→

カラー図版8

1．ⅤF-01検出　NE→

2．ⅤPB-03検出　E→

3．TP-06完掘　NE→

カラー図版9

1．ⅢGP-01出土副葬品　刀剣類（処理前）

2．ⅢGP-01出土副葬品
漆椀塗膜片

3．ⅢGP-01出土副葬品　漆丸盆塗膜片

カラー図版10

1．ⅢGP-02出土副葬品

2．ⅢGP-02出土副葬品　柄部

カラー図版11

1．ⅢGP-02出土副葬品　出土状態方向

2．ⅢGP-02出土副葬品　刀装具

カラー図版12

1．ⅢGP-04出土副葬品　小刀

2．ⅢGP-04出土副葬品　銅製鍍金刀装具(栗形・目貫)

カラー図版13

1．Ⅲ GP-05出土副葬品　腕輪

2．Ⅲ GP-05出土副葬品　腕輪付着織物痕

3．Ⅲ GP-05出土副葬品　腕輪捻り構造

カラー図版14

1．ⅢGP-05　首飾り及び周辺出土副葬品

2．ⅢGP-05出土副葬品　首飾り裏面

カラー図版15

1．ⅢGP-05出土副葬品　ガラス玉

2．ⅢGP-05出土副葬品　毛皮製品

3．ⅢGP-05出土副葬品　黒曜石転礫

カラー図版16

1．ⅢGP-05出土副葬品　和鏡（秋草双鳥文鏡　12世紀中葉）

2．ⅢGP-03出土副葬品　刀剣類（処理前）

序　文

厚真町は、胆振・日高地区屈指の豊かな水田地帯を有する大いなる田園都市であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源として流れ、農作物への恩恵を授ける大切な河川でもあります。この母なる厚真川と豊かな“ふるさと厚真”を更なる発展へと進めるために、農業用水の確保と治水対策を主な柱とした多目的ダム「厚幌ダム」が平成26年10月に本体着工されました。

さて本書はこの厚幌ダム建設に先駆けて沈み行く地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として平成26・28年度に発掘調査された上幌内２遺跡の調査報告書であります。約800年前と400年前の土坑墓が合わせて５基見つかっており、副葬品も刀剣類をはじめ和鏡や首飾りなど様々な資料が見つかっています。特に和鏡は町内初例となり先住民族であるアイヌ民族の歴史を探るうえでも大変貴重な資料と思われます。

また、縄文時代においても、竪穴式住居跡一軒やシカ猟の落とし穴26基が見つかっています。

今後は、これらの貴重な埋蔵文化財を地域の教育的資源、文化的財産として広く普及、活用を推し進めてまいりたいと思う所存でございます。また本書が広く埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係諸氏ならびに関係機関に、真に厚く感謝申し上げる次第であります。

平成２９年３月

厚真町教育委員会
教育長　遠藤秀明

例　言

1. 本書は、平成 26・28 年度に行った厚幌ダム建設事業に伴い発掘調査された上幌内２遺跡（登載番号：J-13-91）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部の委託を厚真町教育委員会が受託した。
3. 調査・整理（分担）は以下の体制で行った。

調査担当者：奈良雅法・乾　哲也

調査補助員：宮崎美奈子・服部一雄　　事務員：浅野愛子　脇田幹王　宮崎和幸

測量技能作業員：海津孝之・大山眞由美・山戸大知

整備技能作業員：松本　稔・細木也寸志・柳瀬一行　　写図工：畑嶋　朝江

発掘作業員 40 名　　整理作業員 19 名

奈良：Ⅲ・Ⅴ層遺構図面作成・Ⅲ・Ⅴ層土器復元・拓影・金属製品実測・遺構写真図版作成

宮崎：Ⅲ・Ⅴ層礫石器実測・遺物写真図版作成

服部：Ⅴ層剥片石器実測校正

乾・宮塚義人（(有)宮塚文化財研究所）：各遺構調査・図面等作成指導・渉外

4. 本書の編集は乾・宮塚の協力を得て奈良が行い、各節の執筆は、文末に記す。
5. 関連諸科学の同定分析については、以下の機関および個人に依頼した。
   - AMS 法 ^{14}C 年代測定：株式会社 加速器分析研究所
   - 動物遺存体同定：千歳市埋蔵文化財センター 高橋　理
   - 炭化種子同定：Project Seeds 考古植物研究会 椿坂恭代
   - 黒曜石原産地分析：株式会社 第四紀研究所 井上 巌
   - 石器石材同定：アースサイエンス株式会社 加藤孝幸・米島真由子
   - 人骨同定：札幌医科大学　松村博文　北海道文教大学　白幡知尋
   - 金属製品・有機質分析：公益財団法人　元興寺文化財研究所
6. 本書のカラー写真の一部・出土遺物の写真撮影：有限会社 写真事務所クリーク 佐藤雅彦
7. 剥片石器実測・写真：株式会社 シン技術コンサルに委託。
8. 復元土器実測の一部、礫石器実測委託写真撮影：株式会社 トラスト技研に委託。
9. 金属製品の保存処理（土坑墓以外）：公益財団法人 岩手文化振興事業団
10. 金属製品の保存処理前調査（土坑墓）：公益財団法人 元興寺文化財研究所
11. 土坑墓の出土副葬品実測の一部：公益財団法人 元興寺文化財研究所
12. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会が保管している。
13. 調査・報告にあたって下記の機関および個人より御指導御協力を頂き、記して感謝申し上げます。

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課、北海道胆振総合振興局、胆振総合振興局室蘭建設管理部厚幌ダム建設事務所、公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター、公益社団法人北海道アイヌ協会、厚真アイヌ協会、苫小牧アイヌ協会、むかわアイヌ協会、白老アイヌ協会、札幌学院大学人文学部、苫小牧駒澤大学、伊達市噴火湾文化研究所、千歳市埋蔵文化財センター、苫小牧市美術博物館、平取町沙流川歴史館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、恵庭市教育委員会、新ひだか町教育委員会、寿都町教育委員会、日高町教育委員会、余市町教育委員会、厚真町幌内自治会、(株)佐々木重機工業

愛場和人、青野友哉、赤井文人、赤石慎三、天方博章、天野哲也、阿部明義、阿部一司、飯村 均、石川 朗、
石橋孝夫、伊藤昭和、乾 芳宏、臼杵 勲、右代啓視、内田和典、及川真紀、大沼忠春、岡田路明、小川康和、
長田佳宏、小野寺聡、小野哲也、織田 登、笠原 興、加藤 忠、川内谷 修、菊池俊彦、北沢 実、工藤研治、
熊木俊朗、越田賢一郎、斉藤大朋、佐藤一夫、佐藤幸雄、澤田一憲、澤田 健、澤田利明、杉浦重信、
鈴木将太、鈴木琢也、鈴木 信、瀬川拓郎、田口 尚、田才雅彦、竹内 渉、塚本敏夫、鶴丸俊明、中田裕香、
長町章弘、中村和之、西脇対名夫、羽柴直人、福井淳一、藤原秀樹、三浦正人、養島栄紀、宗像公司、
村木二郎、村本周三、森岡健治、八重樫忠郎、藪中剛司、山原敏朗、山口博之、柳原敏昭、吉田正明

凡 例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号を用いた。なお、層位がこれらの略号に付加している。

〔遺構〕 住居：H 住居跡に付属する柱穴：HP 住居跡に付属する土坑：PT 土坑墓：GP 土坑：P
Ｔピット：TP 焼土：F 杭穴：KP

〔遺物〕 土器：P（擦文土器：SP 続縄文土器：ZP 縄文土器：JP） 剥片石器：FT 礫石器：ST 礫：S
ﾌﾚｲｸ・ﾁｯﾌﾟ（黒曜石・頁岩）：FC ﾌﾚｲｸ・ﾁｯﾌﾟ（緑色泥岩・片岩）：SFC 石製品：SP
炭化種子：SD 骨角器：BBP 金属製品：IP 銅製品：BP 錫製品：Sn ガラス製品：GP
漆製品：Jp 土製品：CP

〔遺物等集中〕 土器片集中：PB 礫集中：SB 獣骨集中：BB ﾌﾚｲｸ・ﾁｯﾌﾟ集中：FCB

2. 地層等について下記の略号を用いた。

〔堆積土〕 樽前 a 砂質降下火山灰：Ta-a 駒ヶ岳 c2 砂質降下火山灰：Ko-c2 樽前 b 降下軽石：Ta-b
有珠 b 降下火山灰：Us-b 白頭山-苫小牧火山灰：B-Tm 樽前 c 砂質降下軽石：Ta-c
樽前 d1 細礫質降下スコリア：Ta-d1 樽前 d2 中礫質降下軽石：Ta-d2.p 恵庭岳 a 降下軽石：En-a
黄褐色粘土質シルト（いわゆるローム）：L 撹乱：KR

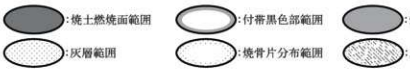
〔色調〕 小山・竹原編著（2005）『新版 標準土色帳』に従った。

〔注記〕 土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また、混入土については（ ）内に粒径（単位：mm）、状態を記載した。
混入土の比率
A ＋ B：A と B が同量比混じる A−B：A を主体に B が多量に混じる
A ＝ B：A を主体に B が少量 A≡B：A を主体に B が微量
φ：粒径（単位・mm） ↓：以下 （状態）：斑状に混じる・均一に混じる

〔層位〕 標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や風倒木撹乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また、一覧表中には下記の略号を用いている。
U：上位 M：中位 L：下位

〔Ｔピット〕第Ⅲ章第４節のＴピット堆積図には以下のトーンを用いた。

〔焼土・獣骨集中〕　被熱による土壌赤色化の度合い等の表現に以下のトーンを用いた。



3. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中スケールに縮尺を明記している。

基本土層：１/40　遺構周辺図：1/100、1/40　住居跡：1/50　住居跡に付属する柱穴その他の付属遺構：1/20　土坑墓：1/50、1/40、1/20、1/10、1/5　土坑：1/40　Ｔピット：１/40　焼土：1/20

獣骨集中：1/40、1/20　集中遺物出土状態：1/200、1/80、1/20、1/10　土器実測図：1/3

土器拓影図：1/3　剥片石器・黒曜石転礫実測図：1/2　礫石器・石製品実測図：1/4、1/3

木製品実測図：1/3　金属製品実測図：1/4、1/3、1/2　ガラス玉・骨製品実測図：1/2

漆製品実測図：1/3　獣毛製品実測図：1/2

4. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いている。

〔線種〕－－－－－－：オーバーハング・根跡・倒木痕　　━━━：トレンチ

━・━・━：撹乱・トレンチによる遺構推定

5. 土器・石器の挿図および写真図版の番号に後続する枝番号は同一個体表記である。

6. 遺物実測図中に以下の略号を用いている。

〔断面〕　∨――――∨：たたき痕　　|――――|：剥片石器 微細剥離 ／ 礫石器 擦り痕・滑沢面

〔平面〕　　:滑沢・転礫面範囲　　:被熱による赤色化/付着物範囲

7. 一覧表中の石材、材質については、宮崎が肉眼観察で分類した。下記の凡例は第Ⅳ章で報告された石材同定結果の凡例と過年度の報告石材を合わせたものである。

また、頁岩・泥岩の分類については、粒度による基準ではなく、破断面等の肉眼観察によるものである。

Aga.：メノウ　Bl-Sch.：青色片岩　Bla-Sch.：黒色片岩　Bs.：玄武岩　Cha.：チャート　Con.：礫岩

Gr-Sch.：緑色片岩　Gr-Mud.：緑色泥岩　Mud.：泥岩　Obs.：黒曜石　Qu.：石英　Sa.：砂岩

Ser.：蛇紋岩　Sh.：頁岩　Tu.：凝灰岩

Ag.：銀　B.：骨　Cray.：粘土　Cu.：銅　GP.：ガラス　Irn.：鉄　Jp.：漆　Sn.：錫　W.：木材

本 文 目 次

カラー
1-1　遺跡周辺空撮
1-2　遺跡上空
2-1　ⅢGP-01(前)・02(奥)完掘
2-2　ⅢGP-01(奥)・02(前)完掘
2-3　ⅢGP-01 東西断面
2-4　ⅢGP-01 東西断面拡大(1)
2-5　ⅢGP-01 東西断面拡大(2)
2-6　ⅢGP-01 南北断面
3-1　ⅢGP-01 完掘(1)
3-2　ⅢGP-01 完掘(2)
3-3　ⅢGP-01 漆丸盆出土状態
4-1　ⅢGP-02 完掘
4-2　ⅢGP-02 副葬品出土状態
5-1　ⅢGP-03 検出(Ⅲa 層)
5-2　ⅢGP-03 完掘
6-1　ⅢGP-04 完掘
6-2　ⅢGP-04 副葬品出土状態(1)
6-3　ⅢGP-04 副葬品出土状態(2)
6-4　ⅢGP-05 完掘(1)
6-5　ⅢGP-05 副葬品出土状態(1)
6-6　ⅢGP-05 副葬品出土状態(2)
7-1　ⅢGP-05 和鏡出土状態
7-2　ⅢGP-05 完掘(2)
7-3　ⅢGP-05 刀子・黒曜石出土状態
8-1　VF-01 検出
8-2　VPB-03 検出
8-3　TP-06 完掘
9-1　ⅢGP-01 出土副葬品　刀剣類
9-2　ⅢGP-01 出土副葬品　漆椀塗膜片
9-3　ⅢGP-01 出土副葬品　漆丸盆塗膜片
10-1　ⅢGP-02 出土副葬品
10-2　ⅢGP-02 出土副葬品　柄部
11-1　ⅢGP-02 出土副葬品　出土状態方向
11-2　ⅢGP-02 出土副葬品　刀装具
12-1　ⅢGP-04 出土副葬品　小刀
12-2　ⅢGP-04 出土副葬品　銅製鍍金刀装具
13-1　ⅢGP-05 出土副葬品　腕輪
13-2　ⅢGP-05 出土副葬品　腕輪付着織物痕
13-3　ⅢGP-05 出土副葬品　腕輪捻り構造
14-1　ⅢGP-05　首飾り及び周辺出土副葬品
14-2　ⅢGP-05 出土副葬品　首飾り裏面
15-1　ⅢGP-05 出土副葬品　ガラス玉
15-2　ⅢGP-05 出土副葬品　毛皮製品
15-3　ⅢGP-05 出土副葬品　黒曜石転礫
16-1　ⅢGP-05 出土副葬品　和鏡
16-2　ⅢGP-03 出土副葬品　刀剣類
序　文
例　言
凡　例

第Ⅰ章　調査の概要
第１節　調査要項と体制 …… 1
1．調査要項 …… 1
2．調査体制 …… 1
第２節　調査に至る経緯 …… 1
1．厚幌ダム建設事業 …… 1
2．発掘調査までの経緯 …… 2
第３節　調査の方法 …… 4
1．発掘区の設定 …… 4
2．グリッド設定 …… 4
3．包含層及び遺構調査の方法 …… 6
4．整理作業 …… 7
第４節　遺物の分類 …… 8
1．土器 …… 8
2．剥片石器 …… 10
3．礫石器 …… 10
4．刀剣類 …… 11
第５節　調査結果の概要 …… 12
1．擦文～アイヌ文化期 …… 12

2. 縄文時代 …… 13
第６節　遺跡の位置 …… 16
1. 厚真町の概要 …… 16
2. 遺跡の位置と周辺の環境 …… 19
3. 調査区内の地形と地質 …… 21

第Ⅱ章　Ⅲ層の調査

第１節　土坑墓 …… 33
第２節　集中区 …… 67
第３節　焼土・獣骨集中 …… 77
1. 焼土 …… 77
2. 獣骨集中 …… 79
第４節　土坑 …… 79
第５節　集中出土遺物 …… 80
1. 土器集中 …… 80
2. 礫集中 …… 82
第６節　Ⅲ層包含層出土遺物 …… 88
1. 土器 …… 88
2. 礫石器 …… 90
3. 金属製品 …… 90

第Ⅲ章　Ⅴ層の調査

第１節　住居跡 …… 106
第２節　焼土 …… 110
第３節　土坑 …… 114
第４節　Ｔピット …… 118
第５節　集中出土遺物 …… 132
1. 土器集中 …… 132
2. 礫集中 …… 141
3. 剥片集中 …… 142
4. 獣骨集中 …… 149
第６節　Ⅴ層包含層出土遺物 …… 149
1. 土器・土製品 …… 149
2. 剥片石器 …… 156
3. 礫石器・石製品 …… 159
第７節　まとめ …… 168

第Ⅳ章　自然科学的分析

第１節　上幌内２遺跡における
放射性炭素年代(AMS 測定) …… 180
第２節　上幌内２遺跡より出土した
人骨について …… 186
第３節　厚真町上幌内２遺跡の動物 …… 198
第４節　厚真町上幌内２遺跡から検出された
植物遺体 …… 205
第５節　上幌内２遺跡出土の黒曜石原産地分析 …… 215
第６節　上幌内２遺跡石材同定 …… 219
第７節　上幌内２遺跡出土金属製品等の分析 …… 222
引用・参考文献 …… 242
報告書抄録 …… 311
奥　付

写真図版

図版 …… 247

挿図目次

Ⅰ章

図Ⅰ-1　厚幌ダム建設事業関連
埋蔵文化財包蔵地位置図 …… 3
図Ⅰ-2　グリッド設定及び試掘坑位置図 …… 5
図Ⅰ-3　グリッド区分図 …… 6
図Ⅰ-4　厚真町内遺跡分布図 …… 14
図Ⅰ-5　周辺の遺跡と地形面区分 …… 22
図Ⅰ-6　トレンチ及び段丘柱状位置図 …… 23
図Ⅰ-7　地形面区分図 …… 23
図Ⅰ-8　基本土層柱状図 …… 25
図Ⅰ-9　南北ライン土層断面図(1) …… 26
図Ⅰ-10　南北ライン土層断面図(2) …… 27
図Ⅰ-11　BN 東西ライン土層断面図 …… 28

図Ⅰ-12　BF 東西ライン土層断面図(1) …… 29
図Ⅰ-13　BF 東西ライン土層断面(2)
及び段丘横断面図 …… 30

Ⅱ章

図Ⅱ-1　Ⅲ層遺構配置図 …… 32
図Ⅱ-2　ⅢGP-01･02･04･05 周辺地形測量図 …… 34
図Ⅱ-3　ⅢGP-01 平面及び断面図 …… 35
図Ⅱ-4　ⅢGP-01 出土遺物(1) …… 39
図Ⅱ-5　ⅢGP-01 出土遺物(2) …… 40
図Ⅱ-6　ⅢGP-02 平面及び断面図 …… 43
図Ⅱ-7　ⅢGP-02 主体部平面図 …… 45
図Ⅱ-8　ⅢGP-02 出土遺物(1) …… 46
図Ⅱ-9　ⅢGP-02 出土遺物(2) …… 47
図Ⅱ-10　ⅢGP-02 出土遺物(3) …… 48
図Ⅱ-11　ⅢGP-04 平面及び断面図 …… 50
図Ⅱ-12　ⅢGP-04 出土遺物(1) …… 51
図Ⅱ-13　ⅢGP-04 出土遺物(2) …… 52
図Ⅱ-14　ⅢGP-05 主体部平面及び断面図 …… 54
図Ⅱ-15　ⅢGP-05 出土遺物(1) …… 57
図Ⅱ-16　ⅢGP-05 出土遺物(2) …… 58
図Ⅱ-17　ⅢGP-05 出土遺物(3) …… 59
図Ⅱ-18　ⅢGP-05 出土遺物(4) …… 60
図Ⅱ-19　ⅢGP-05 出土遺物(5) …… 61
図Ⅱ-20　ⅢGP-03 周辺地形測量図 …… 63
図Ⅱ-21　ⅢGP-03 平面及び断面図 …… 64
図Ⅱ-22　ⅢGP-03 出土遺物(1) …… 65
図Ⅱ-23　ⅢGP-03 出土遺物(2) …… 66
図Ⅱ-24　集中区１平面図･焼土平面及び断面図 … 69
図Ⅱ-25　集中区１関連遺構 …… 70
図Ⅱ-26　集中区１出土遺物 …… 71
図Ⅱ-27　集中区２平面及び断面図 …… 73
図Ⅱ-28　集中区２出土遺物(1) …… 74
図Ⅱ-29　集中区２出土遺物(2) …… 75
図Ⅱ-30　集中区２出土遺物(3) …… 76
図Ⅱ-31　焼土平面及び断面図 …… 78
図Ⅱ-32　ⅢBB･ⅢP 平面及び断面図 …… 79
図Ⅱ-33　ⅢPB-01･02 平面及び断面･垂直分布図 … 83
図Ⅱ-34　ⅢPB-04 平面及び垂直分布図 …… 84
図Ⅱ-35　ⅢPB-05･06･ⅢSB-02･03
平面及び垂直分布図 …… 85
図Ⅱ-36　ⅢPB 出土遺物(1) …… 86
図Ⅱ-37　ⅢPB 出土遺物(2)･ⅢSB 出土遺物 …… 87
図Ⅱ-38　Ⅲ層包含層出土土器 …… 89
図Ⅱ-39　Ⅲ層土器接合線図 …… 91
図Ⅱ-40　Ⅲ層包含層出土遺物 …… 92

Ⅲ章

図Ⅲ-1　Ⅴ層遺構配置図 …… 107
図Ⅲ-2　VH-01 平面及び断面図及び
付属遺構 …… 109
図Ⅲ-3　VH-01 出土遺物 …… 110
図Ⅲ-4　焼土平面及び断面図･遺物接合線図 … 112
図Ⅲ-5　VF-01･TP 出土遺物 …… 113
図Ⅲ-6　VP-01～06 平面及び断面図 …… 116
図Ⅲ-7　VP-07～12 平面及び断面図 …… 117
図Ⅲ-8　VP-13～15 平面及び断面図 …… 118
図Ⅲ-9　TP-01～03 平面及び断面図 …… 121
図Ⅲ-10　TP-04･05 平面及び断面図 …… 122
図Ⅲ-11　TP-06･07 平面及び断面図 …… 123
図Ⅲ-12　TP-08～10 平面及び断面図 …… 124
図Ⅲ-13　TP-11～13 平面及び断面図 …… 125
図Ⅲ-14　TP-14･15 平面及び断面図 …… 126
図Ⅲ-15　TP-16～18 平面及び断面図 …… 127
図Ⅲ-16　TP-19 平面及び断面図 …… 128
図Ⅲ-17　TP-20･21 平面及び断面図 …… 129
図Ⅲ-18　TP-22～24 平面及び断面図 …… 130
図Ⅲ-19　TP-25･27 平面及び断面図 …… 131
図Ⅲ-20　VPB-01～03 平面図及び垂直分布図 … 137
図Ⅲ-21　VPB-04～06 平面図 …… 138
図Ⅲ-22　VPB-07～10 平面図 …… 139
図Ⅲ-23　VPB-11～13 平面図 …… 140

図Ⅲ-24　VSB-01・02 平面及び断面図 …… 142
図Ⅲ-25　VPB-01 出土遺物 …… 143
図Ⅲ-26　VPB-02・03 出土遺物 …… 144
図Ⅲ-27　VPB-04・05 出土土器 …… 145
図Ⅲ-28　VPB-06～09 出土遺物 …… 146
図Ⅲ-29　VPB-10～13 出土土器 …… 147
図Ⅲ-30　礫集中出土遺物 …… 148
図Ⅲ-31　VFCB-01～04・VBB-02～04 平面図 … 150
図Ⅲ-32　包含層出土土器(1) …… 152
図Ⅲ-33　包含層出土土器(2)・土製品 …… 153
図Ⅲ-34　Ⅴ層遺物接合線図 …… 154
図Ⅲ-35　VF-01 周辺遺物分布及び接合線図 … 155
図Ⅲ-36　包含層出土剥片石器(1) …… 158
図Ⅲ-37　包含層出土剥片石器(2) …… 159
図Ⅲ-38　包含層出土礫石器(1) …… 162
図Ⅲ-39　包含層出土礫石器(2) …… 163
図Ⅲ-40　包含層出土礫石器(3) …… 164
図Ⅲ-41　包含層出土礫石器(4) …… 165
図Ⅲ-42　包含層出土礫石器(5) …… 166
図Ⅲ-43　包含層出土礫石器(6)・石製品 …… 167

挿表目次

Ⅰ章

表Ⅰ-1　上幌内２遺跡試掘坑・遺構・遺物出土一覧表 …… 6
表Ⅰ-2　上幌内２遺跡概要一覧表 …… 13
表Ⅰ-3　上幌内２遺跡出土遺物一覧表 …… 13
表Ⅰ-4　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1) …… 15
表Ⅰ-5　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2) …… 16

Ⅱ章

表Ⅱ-1　アイヌ文化・擦文文化期遺構群一覧表 … 93
表Ⅱ-2　ⅢGP 属性表 …… 93
表Ⅱ-3　ⅢGP 出土遺物属性表(1)～(3) …… 94
表Ⅱ-4　ⅢF・ⅢBB 属性表 …… 96
表Ⅱ-5　ⅢP 属性表 …… 96
表Ⅱ-6　ⅢPB・ⅢSB 属性表 …… 96
表Ⅱ-7　集中区出土土器属性表 …… 97
表Ⅱ-8　集中区出土遺物属性表 …… 97
表Ⅱ-9　集中区出土礫属性表 …… 98
表Ⅱ-10　ⅢPB 出土土器属性表 …… 103
表Ⅱ-11　ⅢPB・ⅢSB 出土遺物属性表 …… 103
表Ⅱ-12　ⅢSB 出土礫属性表 …… 104
表Ⅱ-13　Ⅲ層包含層出土土器属性表 …… 105
表Ⅱ-14　Ⅲ層包含層出土遺物属性表 …… 105

Ⅲ章

表Ⅲ-1　縄文時代遺構群一覧表 …… 171
表Ⅲ-2　Ⅶ属性表 …… 171
表Ⅲ-3　Ⅶ-01 付属遺構属性表 …… 171
表Ⅲ-4　Ⅶ-01 柱穴属性表 …… 171
表Ⅲ-5　Ⅶ出土土器属性表 …… 172
表Ⅲ-6　Ⅶ-01 出土石器属性表 …… 172
表Ⅲ-7　VF 属性表 …… 172
表Ⅲ-8　VP 属性表 …… 172
表Ⅲ-9　VF-01 出土土器属性表 …… 173
表Ⅲ-10　Tピット属性表 …… 173
表Ⅲ-11　VPB・VSB・VFCB・VBB 属性表 …… 174
表Ⅲ-12　VPB・VFCB 出土土器属性表(1)・(2) … 174
表Ⅲ-13　VF・TP・VPB・VSB・VFCB 出土遺物属性表 …… 176
表Ⅲ-14　包含層出土土器属性表(1)・(2) …… 176
表Ⅲ-15　包含層出土土製品属性表 …… 178
表Ⅲ-16　包含層出土剥片石器属性表 …… 178
表Ⅲ-17　包含層出土礫石器・石製品属性表 …… 179

写真図版目次

図版 1-1　BK-31 南北断面……247
図版 1-2　BI-31 南北断面……247
図版 1-3　BF-29 東西断面……247
図版 2-1　ⅢGP-01(前)・02(奥)検出……248
図版 2-2　ⅢGP-01 完掘……248
図版 2-3　ⅢGP-01 主体部完掘……248
図版 3-1　ⅢGP-01 日本刀出土位置確認……249
図版 3-2　ⅢGP-01 東西断面(西側)……249
図版 3-3　ⅢGP-01 造成部北側断面……249
図版 3-4　ⅢGP-01 造成部南側断面……249
図版 3-5　ⅢGP-01 造成部完掘……249
図版 4-1　ⅢGP-02 完掘……250
図版 4-2　ⅢGP-02 主体部完掘……250
図版 4-3　ⅢGP-02 歯列出土状態……250
図版 4-4　ⅢGP-02 副葬品出土状態……250
図版 5-1　ⅢGP-02 南北断面(1)……251
図版 5-2　ⅢGP-02 南北断面(2)……251
図版 5-3　ⅢGP-02 東西断面……251
図版 5-4　ⅢGP-02 造成部北側断面……251
図版 5-5　ⅢGP-02 造成部東側断面……251
図版 5-6　ⅢGP-02 造成部西側断面……251
図版 5-7　ⅢGP-02 造成部断面……251
図版 5-8　ⅢGP-02 造成部断面北側拡大……251
図版 5-9　ⅢGP-02 掘り上げ土出土擦文土器…251
図版 6-1　ⅢGP-03 完掘（近景）……252
図版 6-2　ⅢGP-03 完掘……252
図版 6-3　ⅢGP-03 造成部完掘……252
図版 7-1　ⅢGP-03 主体部完掘……253
図版 7-2　ⅢGP-03 東西断面……253
図版 7-3　ⅢGP-03 南北断面(1)……253
図版 7-4　ⅢGP-03 南北断面(2)……253
図版 7-5　ⅢGP-03 南北断面(3)……253
図版 7-6　ⅢGP-03 墓標穴断面(1)……253
図版 7-7　ⅢGP-03 墓標穴断面(2)……253
図版 7-8　ⅢGP-03 墓標穴完掘……253
図版 8-1　ⅢGP-04(前)・ⅢGP-01(奥)完掘……254
図版 8-2　ⅢGP-04 完掘……254
図版 8-3　ⅢGP-04 東西断面(1)……254
図版 8-4　ⅢGP-04 東西断面(2)……254
図版 8-5　ⅢGP-04 造成部完掘……254
図版 8-6　ⅢGP-04 副葬品出土状態……254
図版 9-1　ⅢGP-05 検出……255
図版 9-2　ⅢGP-05 完掘……255
図版 9-3　ⅢGP-05 東西断面……255
図版 9-4　ⅢGP-05 副葬品出土状態……255
図版 9-5　ⅢGP-05 腕輪出土状態……255
図版 9-6　ⅢGP-05 黒曜石転礫出土状態……255
図版 10-1　集中区１検出……256
図版 10-2　集中区１遺物出土状態……256
図版 10-3　ⅢF-01(中)・02(右)・03(左)検出……256
図版 10-4　ⅢF-01 断面……256
図版 10-5　ⅢF-03 断面……256
図版 11-1　ⅢSB-01 出土状態……257
図版 11-2　ⅢPB-03 出土状態……257
図版 11-3　集中区２調査終了状態……257
図版 11-4　集中区２遺物出土状態(1)……257
図版 11-5　集中区２遺物出土状態(2)……257
図版 12-1　集中区２遺物出土状態(3)……258
図版 12-2　集中区２遺物出土状態(4)……258
図版 12-3　集中区２遺物出土状態(5)……258
図版 12-4　集中区２遺物出土状態(6)……258
図版 12-5　集中区２刀子出土状態……258
図版 12-6　集中区２①ライン断面……258
図版 12-7　集中区２②ライン断面……258
図版 12-8　集中区２③ライン断面……258
図版 13-1　ⅢF-04 検出……259
図版 13-2　ⅢF-04 断面……259
図版 13-3　ⅢF-05 検出……259
図版 13-4　ⅢF-05 断面……259
図版 13-5　ⅢF-06 検出……259
図版 13-6　ⅢF-06 灰層および被熱層検出……259

図版 13-7　ⅢF-06 断面…… 259
図版 13-8　ⅢF-07(右)・08(左)検出…… 259
図版 14-1　ⅢF-07 断面…… 260
図版 14-2　ⅢF-08 断面…… 260
図版 14-3　ⅢP-01 完掘…… 260
図版 14-4　ⅢP-01 断面…… 260
図版 14-5　ⅢBB-01 検出…… 260
図版 14-6　ⅢPB-01 検出…… 260
図版 14-7　ⅢPB-02 検出…… 260
図版 14-8　ⅢPB-02 鍬先出土状態…… 260
図版 15-1　ⅢPB-04 検出(1)…… 261
図版 15-2　ⅢPB-04 検出(2)…… 261
図版 15-3　ⅢPB-05 検出(1) …… 261
図版 15-4　ⅢPB-05 検出(2) …… 261
図版 15-5　ⅢPB-06 検出(1) …… 261
図版 15-6　ⅢPB-06 検出(2)…… 261
図版 15-7　ⅢSB-02 検出…… 261
図版 15-8　ⅢSB-03 検出…… 261
図版 16-1　VH-01 完掘…… 262
図版 16-2　VH-01 東西断面…… 262
図版 16-3　VH-01 南北断面…… 262
図版 17-1　VH-01､HF01 検出…… 263
図版 17-2　VH-01､HF01 断面…… 263
図版 17-3　VH-01､HP01 完掘…… 263
図版 17-4　VH-01､HP01 断面…… 263
図版 17-5　VH-01､HP02 完掘…… 263
図版 17-6　VH-01､HP02 断面…… 263
図版 17-7　VH-01､HP03 完掘…… 263
図版 17-8　VH-01､HP03 断面…… 263
図版 17-9　VH-01､HP05 完掘…… 263
図版 17-10　VH-01､HP05 断面…… 263
図版 17-11　VH-01､HP06 完掘…… 263
図版 17-12　VH-01､HP06 断面…… 263
図版 17-13　VH-01､HP07 完掘…… 263
図版 17-14　VH-01､HP07 断面…… 263
図版 18-1　VP-01 完掘…… 264
図版 18-2　VP-01 断面…… 264
図版 18-3　VP-02 完掘…… 264
図版 18-4　VP-02 断面…… 264
図版 18-5　VP-03 完掘…… 264
図版 18-6　VP-03 断面…… 264
図版 18-7　VP-04 完掘…… 264
図版 18-8　VP-05 完掘…… 264
図版 18-9　VP-04 断面…… 264
図版 19-1　VP-05 断面…… 265
図版 19-2　VP-06 完掘…… 265
図版 19-3　VP-06 断面…… 265
図版 19-4　VP-07 完掘…… 265
図版 19-5　VP-08 完掘…… 265
図版 19-6　VP-07 断面…… 265
図版 19-7　VP-08 断面…… 265
図版 19-8　VP-09 完掘…… 265
図版 19-9　VP-10 完掘…… 265
図版 19-10　VP-09 断面…… 265
図版 20-1　VP-10 断面…… 266
図版 20-2　VP-11 完掘…… 266
図版 20-3　VP-12 完掘…… 266
図版 20-4　VP-11 断面…… 266
図版 20-5　VP-12 断面…… 266
図版 20-6　VP-13 完掘…… 266
図版 20-7　VP-13 断面…… 266
図版 20-8　VP-14 完掘…… 266
図版 20-9　VP-14 断面…… 266
図版 21-1　VP-15 完掘…… 267
図版 21-2　VP-15 断面…… 267
図版 21-3　VF-01 検出…… 267
図版 21-4　VF-01 断面…… 267
図版 21-5　VF-02 検出…… 267
図版 21-6　VF-02 断面…… 267
図版 21-7　VBB-03 検出…… 267
図版 21-8　VBB-04 検出…… 267
図版 22-1　TP-01 完掘…… 268
図版 22-2　TP-01 断面…… 268
図版 22-3　TP-01､KP01･02 断面…… 268
図版 22-4　TP-01､KP05･06 断面…… 268
図版 22-5　TP-02(右)･03(左)完掘 …… 268

図版 22-6　TP-02 断面……268
図版 22-7　TP-03 断面……268
図版 23-1　TP-04 完掘……269
図版 23-2　TP-05 完掘……269
図版 23-3　TP-04 断面……269
図版 23-4　TP-05 断面……269
図版 23-5　TP-05.KP02 完掘……269
図版 23-6　TP-05.KP02 断面……269
図版 23-7　TP-05.KP05(左)・06(右)完掘……269
図版 23-8　TP-05.KP05(左)・06(右)断面……269
図版 23-9　TP-06 完掘……269
図版 23-10　TP-06 断面……269
図版 24-1　TP-06.KP01(左)・02(右)完掘……270
図版 24-2　TP-06.KP01(左)・02(右)断面……270
図版 24-3　TP-07 完掘……270
図版 24-4　TP-07 断面……270
図版 24-5　TP-07.KP01 断面……270
図版 24-6　TP-07.KP02 断面……270
図版 24-7　TP-08 完掘……270
図版 24-8　TP-08 断面……270
図版 25-1　TP-09 完掘……271
図版 25-2　TP-09 断面……271
図版 25-3　TP-09.KP02 完掘……271
図版 25-4　TP-09.KP02 断面……271
図版 25-5　TP-10 完掘……271
図版 25-6　TP-10 断面……271
図版 25-7　TP-11 完掘……271
図版 25-8　TP-11 断面……271
図版 26-1　TP-11.KP01 完掘……272
図版 26-2　TP-11.KP01 断面……272
図版 26-3　TP-12(前)・VP-08(奥)完掘……272
図版 26-4　TP-12 断面……272
図版 26-5　TP-13 完掘……272
図版 26-6　TP-13 断面……272
図版 26-7　TP-13.KP02(右)・04(左)完掘……272
図版 26-8　TP-13.KP02(右)・04(左)断面……272
図版 27-1　TP-14 完掘……273
図版 27-2　TP-14 断面……273
図版 27-3　TP-14.KP03(左)・04(中)
・05(右)断面……273
図版 27-4　TP-15 完掘……273
図版 27-5　TP-15 断面……273
図版 27-6　TP-15.KP01 断面(逆茂木あり)……273
図版 28-1　TP-16 完掘……274
図版 28-2　TP-16 断面……274
図版 28-3　TP-16.KP01～04 完掘……274
図版 28-4　TP-16.KP01～04 断面……274
図版 28-5　TP-17 完掘……274
図版 28-6　TP-17 断面……274
図版 28-7　TP-17.KP05 完掘……274
図版 28-8　TP-17.KP05 断面……274
図版 29-1　TP-18 完掘……275
図版 29-2　TP-18 断面……275
図版 29-3　TP-18.KP03 完掘……275
図版 29-4　TP-18.KP03 断面……275
図版 29-5　TP-19 完掘……275
図版 29-6　TP-19 断面……275
図版 29-7　TP-19.KP02(左)・03(中)
・04(右)完掘……275
図版 30-1　TP-20 完掘……276
図版 30-2　TP-20 断面……276
図版 30-3　TP-20.KP02(左)・03(右)完掘……276
図版 30-4　TP-21 完掘……276
図版 30-5　TP-21 断面……276
図版 30-6　TP-22 完掘……276
図版 30-7　TP-22 断面……276
図版 30-8　TP-22.KP01 完掘……276
図版 30-9　TP-23 完掘……276
図版 30-10　TP-23 断面……276
図版 30-11　TP-23.KP01 完掘……276
図版 31-1　TP-24 完掘……277
図版 31-2　TP-24 断面……277
図版 31-3　TP-24.KP01(右)・02(中)
・03(左)完掘……277
図版 31-4　TP-24.KP01(右)・02(中)
・03(左)断面……277

図版 31-5　TP-24.KP05(右)・06(左)完掘 …… 277
図版 31-6　TP-25 完掘 …… 277
図版 31-7　TP-25 断面 …… 277
図版 31-8　TP-27 完掘 …… 277
図版 31-9　TP-27 断面 …… 277
図版 32-1　VPB-01 出土状態(1) …… 278
図版 32-2　VPB-01 出土状態(2) …… 278
図版 32-3　VPB-02 出土状態 …… 278
図版 32-4　VPB-04 出土状態(1) …… 278
図版 32-5　VPB-04 出土状態(2) …… 278
図版 32-6　VPB-05 出土状態 …… 278
図版 32-7　VPB-06 出土状態 …… 278
図版 32-8　VPB-07 出土状態 …… 278
図版 33-1　VPB-08 出土状態(1) …… 279
図版 33-2　VPB-08 出土状態(2) …… 279
図版 33-3　VPB-09 出土状態 …… 279
図版 33-4　VPB-10 出土状態(1) …… 279
図版 33-5　VPB-10 出土状態(2) …… 279
図版 33-6　VPB-11 出土状態 …… 279
図版 33-7　VPB-12 出土状態 …… 279
図版 33-8　VPB-13 出土状態 …… 279
図版 34-1　VSB-01 出土状態 …… 280
図版 34-2　VSB-01(VP-16)断面 …… 280
図版 34-3　VP-16 完掘 …… 280
図版 34-4　VSB-02 出土状態 …… 280
図版 34-5　VSB-02(VP-17)断面 …… 280
図版 34-6　VP-17 完掘 …… 280
図版 34-7　VFCB-01 出土状態 …… 280
図版 34-8　VFCB-02 出土状態 …… 280
図版 35-1　VFCB-03 出土状態 …… 281
図版 35-2　VFCB-04 出土状態 …… 281
図版 35-3　調査状況(1) …… 281
図版 35-4　調査状況(2) …… 281
図版 35-5　調査状況(3) …… 281
図版 35-6　調査状況(4) …… 281
図版 35-7　カムイノミ・イチャルパ …… 281
図版 36　ⅢGP-01 出土遺物(1) …… 282
図版 37-1　ⅢGP-01 出土遺物(2) …… 283
図版 37-2　ⅢGP-02 出土遺物(1) …… 283
図版 38　ⅢGP-02 出土遺物(2) …… 284
図版 39　ⅢGP-02 出土遺物(3) …… 285
図版 40　ⅢGP-04 出土遺物(1) …… 286
図版 41-1　ⅢGP-04 出土遺物(2) …… 287
図版 41-2　ⅢGP-05 出土遺物(1) …… 287
図版 42　ⅢGP-05 出土遺物(2) …… 288
図版 43　ⅢGP-05 出土遺物(3) …… 289
図版 44　ⅢGP-05 出土遺物(4) …… 290
図版 45　ⅢGP-03 出土遺物(1) …… 291
図版 46　ⅢGP-03 出土遺物(2) …… 292
図版 47　集中区１出土遺物 …… 293
図版 48　集中区２出土遺物(1) …… 294
図版 49-1　集中区２出土遺物(2) …… 295
図版 49-2　ⅢPB 出土遺物(1) …… 295
図版 50　ⅢPB 出土遺物(2) …… 296
図版 51-1　ⅢSB 出土遺物 …… 297
図版 51-2　Ⅲ層包含層出土土器 …… 297
図版 52　Ⅲ層包含層出土遺物 …… 298
図版 53-1　VH-01 出土遺物 …… 299
図版 53-2　VF-01 出土土器 …… 299
図版 54-1　VF-01・TP 出土遺物 …… 300
図版 54-2　VPB-01 出土遺物 …… 300
図版 55　VPB-02・03 出土遺物 …… 301
図版 56　VPB-04～07 出土土器 …… 302
図版 57　VPB-08・09 出土遺物 …… 303
図版 58-1　VPB-10～13 出土土器 …… 304
図版 58-2　集中出土遺物 …… 304
図版 59　縄文時代包含層出土土器(1) …… 305
図版 60-1　縄文時代包含層出土土器(2)・
　土製品 …… 306
図版 60-2　縄文時代包含層出土剥片石器(1) … 306
図版 61　縄文時代包含層出土剥片石器(2) … 307
図版 62　縄文時代包含層出土礫石器(1) …… 308
図版 63　縄文時代包含層出土礫石器(2) …… 309
図版 64　縄文時代包含層出土礫石器(3) …… 310

第Ⅰ章 調査の概要

第1節　調査要項と体制

1．調査要項

事 業 名：厚幌ダム建設事業　埋蔵文化財発掘調査　その2
委 託 者：北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部
受 託 者：厚真町教育委員会
遺 跡 名：上幌内2遺跡（J－13－91）
調査面積：7,443㎡（発掘調査範囲：3,007㎡　遺構確認範囲：4,436㎡）平成26年度
　　50㎡（遺構確認範囲：50㎡）平成28年度
　　合計　7,493㎡
所 在 地：北海道勇払郡厚真町字幌内374-2・3、375-1ほか
受託期間：平成26年4月9日～平成27年3月27日
　　平成28年4月7日～平成29年3月24日
発掘期間：平成26年5月13日～平成26年10月31日
　　平成28年8月18日～10月31日（電柱部分調査　50㎡）
整理期間：平成26年11月1日～平成29年3月24日

2．調査体制

厚真町教育委員会　教育長　兵頭利彦（平成28年12月2日まで）
厚真町教育委員会　教育長　遠藤秀明（平成28年12月7日から）
生涯学習課社会教育グループ
参事　橋本欣也　主幹　斎藤雪美（平成27年度まで）主幹　宮下 桂（平成28年度から）
主査　乾 哲也（学芸員）　主任　奈良智法（学芸員）
嘱託職員
調査補助員　宮崎美奈子　服部一雄
事務員　浅野愛子　脇田幹王　宮崎和幸
臨時職員　測量技能作業員　海津孝之　大山眞由美　山戸大知
　　整備技能作業員　松本 稔　細木也寸志　柳瀬一行
　　発掘作業員　40名　　整理作業員19名　　（奈良）

第2節　調査に至る経緯

1．厚幌ダム建設事業

町内を縦貫する厚真川中・下流域には約3,000haもの水田地帯が広がっている。このため、春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。

昭和46（1971）年には、現河口より上流38km地点に農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは洪水調整機能が不十分で、昭和48・50・56年には洪水が発生した。近年においては平成12年春の融雪期と平成13年秋に、家屋や農地に被害を及ぼす洪水、平成

18･21･23 年にも一部が冠水する事態が発生している。また昭和 59･60･63 年には深刻な水不足にも見舞われており、平成 19 年は幼穂形成期の水不足により深水灌漑が行えなかったため低温障害を受け、作況指数が極端に低い年となった。平成 26 年春にも渇水となり、水田への引水ができず作付を断念する農家もあり、厚真町の基幹産業である農業、豊かな穀倉地帯を築くうえで、治水や農業灌漑などを目的とする新たなダム建設は町民の悲願として陳情されてきた。さらには市街地への人口集中の進行による住宅街や苫小牧東港入港船舶への水道用水の需要が急増し、取水可能量は限界に達していることから、新たな上水道水源確保が急務となっている。

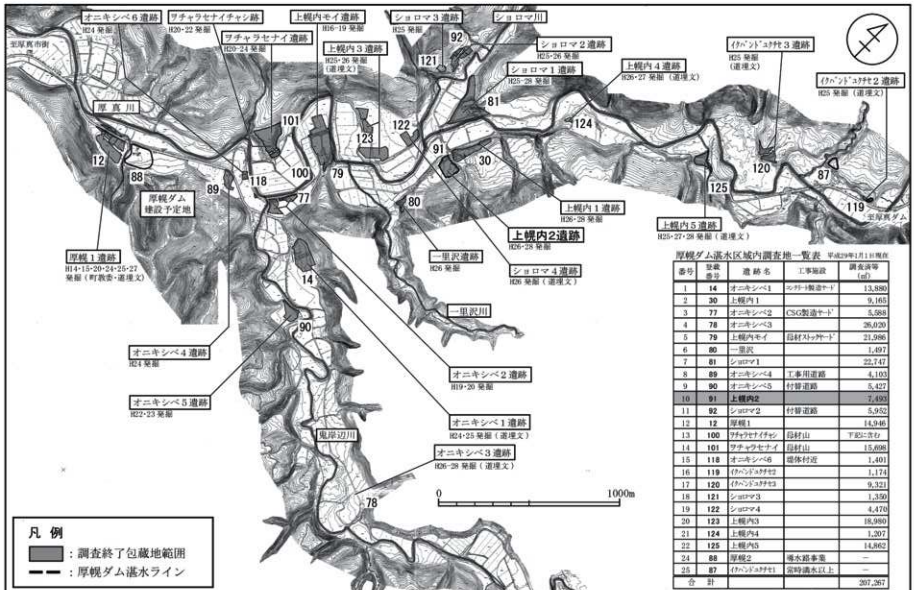
これらの状況を踏まえた治水等の抜本的な改善策として、昭和 52 年に北海道室蘭土木現業所（現北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部、以下、室建管）により厚幌ダム建設事業の予備調査が着手され、昭和 61 年に実施設計である「厚真川総合開発事業計画調査」の着手が決まった。平成 7（1995）年に北海道と厚真町との間で「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持の多目的ダムとして「厚幌ダム」の建設着工が決定された。また同年には地元厚真町内に厚幌ダム建設事務所（以下、ダム事務所）が開設され、その後、環境アセスメント等も実施されている。近年ではダム事業に関連して、道道切替工事や町内各地区の農業経営体育成基盤整備事業、農業用水路再編対策事業（厚幌導水路建設）が展開され、営農の効率化が促進されている。厚幌ダムの本格着工の一つとして、平成 14 年度からの湛水区域内用地買収とともに、一般道道上幌内早来停車場線の切替工事に着手し、北進平取線としてむかわ町穂別まで開通の計画である。また平成 24 年度からは付随する町道や林道の切替工事も着手されている。

厚幌ダム本体は 31.4㎞の地点に堤体を建設する計画で、規模は提体長 516m、高さ 47.2mのダムである。貯水は常時湛水面標高 85.4m、最深湛水面標高 88.1mであり、総貯水量は 47,400 千㎥、現在の厚真ダムのおおよそ 4.7 倍の貯水量となり、多方面にわたって絶大な効果波及がある。平成 26 年 10 月にダム堤体敷きの掘削が始まり本体着工に至っている。

２．発掘調査までの経緯

厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて平成 12 年 7 月 6 日にダム事務所より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書（室土厚幌第 158 号）が厚真町教育委員会（以下、町教委）を経て北海道教育委員会（以下、道教委）へ提出された。事前協議区域は最深湛水面標高 88.1m以下の区域と道道切替路線や湛水区域外の残土置き場など合計約 315,700 ㎡に及ぶ。厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について道教委と町教委で協議した結果、試掘調査までは道教委が行い、発掘調査は町教委と北海道室蘭土木現業所（現室蘭建設管理部）で委託契約を締結し、町教委が実施することとなった。調査は平成 14 年度の厚幌１遺跡から始まり、平成 28 年 10 月で終了し、整理業務も含めた事業完了は平成 29 年度の予定である。

湛水地域内については、平成 13 年 10 月に所在確認調査が行われ、周知の遺跡（オニキシベ１遺跡、上幌内１遺跡）を含め 16 ヵ所、面積 235,500 ㎡の要試掘調査の回答がされた（平成 13 年 11 月 16 日付け教文第 4532 号）。以後、追加箇所や範囲拡張もあるが平成 19 年度までに 8 回、18 地点の試掘調査が実施され、14 遺跡、約 143,000 ㎡の要発掘･要遺構確認調査地点が確認された。しかし、これまでの発掘調査成果から河岸段丘の低位面にも埋蔵文化財包蔵地が広



厚幌ダム湛水区域内調査地一覧表　平成29年1月1日現在

番号	登録番号	遺跡名	工事施設	調査面積(㎡)
1	14	オニキシベ1	コンクリ製造ヤード	13,880
2	30	上幌内1		9,165
3	77	オニキシベ2	CSG製造ヤード	5,068
4	78	オニキシベ3		26,029
5	79	上幌内モイ	骨材ストックヤード	21,986
6	80	一里沢		1,497
7	81	ショロマ1		22,747
8	89	オニキシベ4	工事用道路	4,103
9	90	オニキシベ5	付替道路	5,427
10	91	上幌内2		2,495
11	92	ショロマ2	付替道路	5,932
12	12	厚幌1		14,946
13	100	ワチャラセナイチャシ	骨材山	下記に含む
14	101	ワチャラセナイ	骨材山	15,606
15	118	オニキシベ6	堤体付近	1,401
16	119	イカンソコタケセ1		1,174
17	120	イカンソコタケセ3		9,321
18	121	ショロマ3		1,350
19	122	ショロマ4		4,470
20	123	上幌内3		18,980
21	124	上幌内4		1,207
22	125	上幌内5		14,862
24	88	厚幌2	導水路事業	—
25	87	イカンソコタケセ2	常時満水以上	—
合　計				207,267

図Ⅰ-1　厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地位置図

がること等、この地区における遺跡の立地パターンが判明してきており、建設工事中の不時発見を避けるため、新たな視点での再試掘調査の必要性が町教委やダム事務所等から望まれていた。これを受け道教委は平成 21 年 5 月に湛水地域内の所在確認踏査を行い、要試掘調査地点 10 ヵ所を回答した（平成 21 年 6 月 11 日付け教文ス第 928 号）。このうち 8 地点については 7･8 月に試掘踏査を実施し 6 ヵ所の包蔵地が発見された（平成 21 年 9 月 10 日付け教文ス第 1940 号）。更に平成 21 年 12 月にも試掘調査が実施され新たに 1 ヵ所が追加された（平成 22 年 1 月 5 日付け教文ス第 3145 号）。平成 29 年 1 月現在で全ての発掘調査が終了し、総調査面積は要発掘面積、要遺構確認調査合わせて 207,267 ㎡となる（図Ⅰ-1）。調査面積に関しては各遺跡に部分的な拡張が伴い最終面積は予定面積と異なる。

上幌内２遺跡は、平成 15 年 11 月 14 日付 教文第 4962 号で要発掘回答され登載された。試掘調査は 23 ヵ所行い、主に西側の№4･8･10 からⅢ層の遺物が出土し、№8 の集石は集中区 1 のⅢSB-01 であった。（奈良）

第３節　調査の方法

１．発掘区の設定

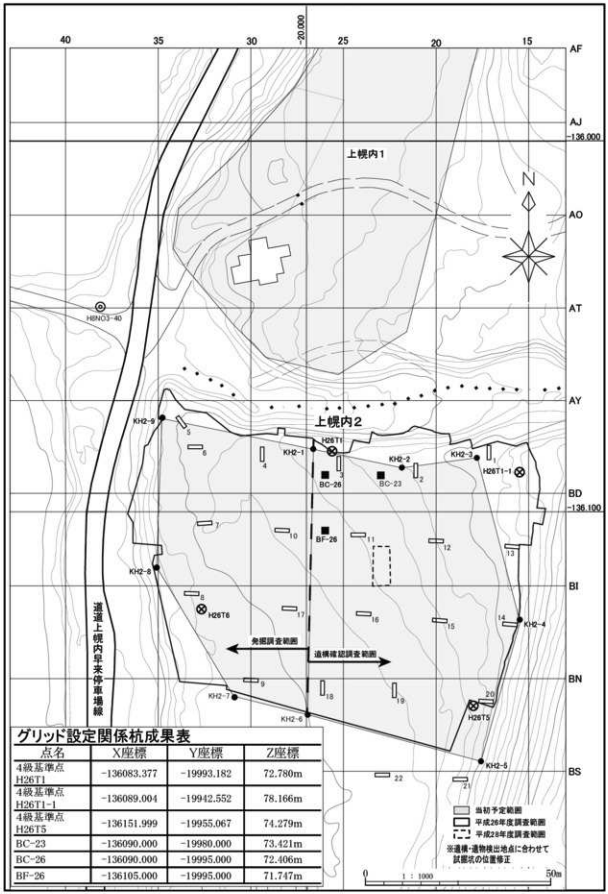
上幌内２遺跡の発掘調査範囲は、ダム水没地域内であることから遺跡の全面が調査対象となっており、微地形等で若干の変更が生じるものの、道教委の試掘調査によって回答された「要発掘範囲」に基づいている。調査対象となる遺物包含層は、樽前ｂテフラ下層のⅢ層黒色土層と樽前ｃテフラ下層のⅤ層黒色土層の２枚である。

当初計画では 27 ライン付近を境界として（図Ⅰ-2）発掘調査区 2,450 ㎡、遺構確認調査区 3,890 ㎡の合計 6,340 ㎡であった。しかし、発掘調査区の西側段丘縁辺部と遺構確認調査の北側斜面、東側段丘崖裾に包含層が残存し遺物の広がりを確認したため、事業者に了解を得て拡張を行っている。平成 26 年度は発掘調査区が 3,007 ㎡、遺構確認調査区が 4,436 ㎡の 7,443 ㎡である。平成 28 年度は北電柱及び支柱撤去後の調査となったため 50 ㎡の遺構確認調査区で合計 7,493 ㎡となった。（奈良）

２．グリッド設定

平成 26 年度の発掘調査区は、当遺跡以外に小沢を挟んで 20m 北側に上幌内 1 遺跡があるため、2 遺跡をまとめて世界測地系公共座標のグリッド網で設定した。但し、いずれのグリッド網も公共座標 5m 単位での設定であるためグリッド方眼は一致している。グリッド網は包蔵地可能性範囲を含めた段丘面全体を網羅するため、北東方向に図面上での基点を設けた。基点は図示していないが A-01 杭（世界平面直角座標系第Ⅹ Ⅱ 系 X=－135,820.0　Y=-19,870.0）に設定し、南北 100m×東西 115m の範囲を 5m 四方の方眼で区分した。各グリッド起点も北東角を原点とした。

グリッド名称は、南北の Y 軸を A･B…Y･Z･AA･AB…のアルファベット列で、東西の X 軸ラインを 1･2･3…のアラビア数字列とした。なお、Ⅴ層調査における剥片類と礫の出土位置記録の際に、5m 四方のグリッドを 2.5m 四方に 4 分割した中グリッドを設定した。さらに報告書の遺構図中に位置関係を示すため、5m グリッドを 1m 四方に 25 分割した小グリッド定義した。



グリッド設定関係杭成果表

点名	X座標	Y座標	Z座標
4級基準点 H26T1	-136083.377	-19993.182	72.780m
4級基準点 H26T1-1	-136089.004	-19942.552	78.166m
4級基準点 H26T5	-136151.999	-19955.067	74.279m
BC-23	-136090.000	-19980.000	73.421m
BC-26	-136090.000	-19995.000	72.406m
BF-26	-136105.000	-19995.000	71.747m

図Ⅰ-2　グリッド設定及び試掘坑位置図

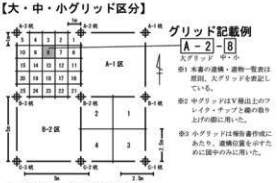
表Ⅰ-1　上幌内2遺跡試掘坑・遺構・遺物出土一覧表

トレンチNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Ⅲ層	－	－	－	○	－	－	－	礫集中	－	○	－	－
Ⅴ層	－	－	－	○	－	－	－	－	－	○	－	－
トレンチNo.	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
Ⅲ層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
Ⅴ層	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

現地での測量は、厚幌ダム建設事業の３級基準点を与点とするトータルステーション４級基準点測量とし、発掘調査区境界杭及びグリッド設置を（有）幅田測量設計が行った。現地におけるＺ座標もグリッド杭設定の際の基準杭や遺物取り上げ時の機会点杭に移設している。（乾）

３．包含層及び遺構調査の方法

調査の準備段階として、境界杭を基に発掘調査範囲と遺構確認範囲に分けピンポールを設置した。4 月下旬から調査員と作業員立会のもと西側の発掘調査区をバックホーにより表土層、撹乱層、樽前ｂテフラの除去を行った。この時切り株については抜根を行わず周囲の除去のみ行っている。平成 26 年度は５月 13 日より作業員を投入し、樹根の処理と撹乱層や火山灰の人力除去作業を剣先、ジョレンを用いて行った。上層黒色土のⅢ層上面などの調査着手面を検出し、同時にグリッド杭打設を測量技能作業員が中心となって行った。この時点で現地表面では確認できなかった竪穴状遺成の窪みを検出している。また、この面において削平範囲の平面記録を行い、調査区内の地形図作成のため 50cmピッチでＺ座標単点を記録し、等高線図作成ソフトで処理した地形図を作成した。アイヌ墓と考えられる窪みについては、詳細図作成のため別途２㎝コンター図を作成している。



図Ⅰ-3　グリッド区分図

包含層調査は調査区を南北に縦断する 31 ライン、東西に横断する BF･BN ライン（発掘調査区のみ）に調査終了面のⅧ層まで達するトレンチを掘開し、遺跡内の堆積状態の確認・実測を行っている。上層黒色土Ⅲａ層及びⅢｂ層は移植ゴテで厚さ 1～2cm での掘削調査を行った。Ⅲｃ層は一部に続縄文文化期の遺物を確認したのみであったためジョレンで掘削し、樽前ｃテフラ上で柱穴の有無を確認して終了した。樽前ｃテフラの除去はⅤ層黒色土と隣接する部分を人力で除去し、プライマリーな状態で残存している範囲はバックホーと人力併用で除去作業を行った。

Ⅴ層調査はアイヌ墓周囲を台状に残して、概ね 5cm を目安に１回の掘削深度とし、可能な限り分層した層位面を揃えて調査している。発掘調査区を終える前に、並行して遺構確認調査範囲北側半分の耕作土除去作業を行った。この時点で大部分がⅧ層まで削平されていたが、北側斜面と東側段丘崖には包含層が残存していたことから、それぞれ発掘調査区同様地形測量を行い、人力で調査している。更に北側調査を終える直前に南側の残りを除去し、合計３段階で調査を進めた。

上層黒色土Ⅲ層については包含層掘開中に焼骨片や灰層、土器片や礫などを一定の範囲で集中的に検出確認した際に、堆積状態観察のためのベルトを設定してから、範囲確定の精査を行

った。これにより遺構に被覆する層厚の記録も可能であり、層位から帰属時期を推定できる条件となった。アイヌ墓については竪穴状遺構を含めたベルト設定を行い、封土等の層位確認を行っている。土坑や柱穴などの遺構については、Ⅲc 層～Ⅳ層（樽前 c テフラ）上面を確認面とし、遺物包含層の主体であるⅢb 層調査終了後にこれらの遺構検出作業を行った。

下層黒色土Ⅴ層の遺構調査では、楕円形タイプＴピットの掘り上げ土と推測できるⅥ・Ⅷ層を基調とする層がＶb 層上位でいくつか認められ、輪郭を記録した後ベルトを設定して周囲を掘り下げた。殆どの土坑やＴピットなどはⅥ層上面を確認面とし、ジョレンで遺構平面形の検出確認作業を行った。記録図化は、完掘後に光波式トータルステーションを用いて平面形及びエレベーションを記録し、堆積状態については半截状態で調査員が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積状態の実測を行った。遺物出土状態等の微細図については、土器片や礫などの輪郭をトータルステーションで記録し、縮尺 1/5 や 1/10 でプリントした輪郭図を下地に測量技能作業員が作成した。これらの図化は(株)シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を用いている。各調査経過の写真記録は調査員が 35mm 一眼レフデジタルカメラで撮影した。平成 28 年度においては北電柱及び支柱撤去の際立会を行い、完全に撤去した後に重機で表土を及び耕作土の除去を行った。耕作土はⅧ層まで達していたためジョレンで精査し遺構確認を行って調査終了とした。

出土遺物は全点に遺物番号を付与した。取り上げについては調査員による層位確認のうえ、トータルステーションによる 3 次元座標のデータ取得を行うと同時に、手簿（日付･グリッド･層位･遺物名等）の記載も行い、データ入力ミスの補完を行った。Ⅴ層のフレイク･チップに関してはトータルステーションによる位置記録を行わず、層位を記録しながら 2.5m四方の中グリッドもしくは遺構単位で取り上げている。

Ⅲ層及びⅤ層の礫集中や焼土については、調査時に各担当者が土壌サンプルを回収し、発掘現場付近に設置したビニールハウス内で乾燥した後にフローテーション作業をで行っている。なお、フローテーションや遺物水洗、調査区内の散水等で用いる作業用水は、井戸を掘削し独自に確保している。

4．整理作業

出土遺物の一次整理は、発掘調査段階から遺物水洗、調査区遺構名や層位、種別等の台帳確認作業、注記作業を行った。11 月からの整理業務は本郷地区の整理事務所で行った。

遺構図等の実測図編集やトレース図作成については、パソコンでのデジタル編集(Os Windows Adobe IllustratorCS6)で行った。出土遺物の写真撮影は写真事務所クリークに委託し、パソコン(Os Windows Adobe PhotshopCS6)での背景の切抜き作業等を行っている。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集･版組みも上記のソフトウェアで行い、本文の Word 文書と合わせて印刷所へデジタル入稿した。

遺物の収納保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、それ以外のものは分類および調査区遺構毎にコンテナに収納し、金属製品は軽舞遺跡調査整理事務所の特別収蔵室に、それ以外は軽舞遺跡調査整理事務所敷地内（旧軽舞小学校）に収蔵している。　（奈良）

第４節　遺物の分類

1. 土 器

縄文時代早期から擦文文化期までの土器をローマ数字で群別し、アルファベットとアラビア数字で類別した。

第Ⅰ群土器　縄文時代早期に属する土器。

A類　貝殻文・条痕文土器。

B類　早期後半の東釧路式土器群。

B1 類　東釧路Ⅱ式に相当するもの。

B2 類　東釧路Ⅲ式、コッタロ式に相当するもの。

B3 類　中茶路式に相当するもの。

B4 類　東釧路Ⅳ式に相当するもの。

第Ⅱ群土器　縄文時代前期に属する土器。

A類　縄文尖底・丸底土器群。

A1 類　美沢３式、綱文式土器に相当するもの。

A2 類　トビノ式、静内中野式に相当するもの。

B類　円筒下層式系土器群。

B1 類　円筒下層ａ式ないしはｂ式に相当するもの。

B2 類　円筒下層ｃ式ないしはｄ式に相当するもの。所謂フゴッペ貝塚式土器も含める。

B3 類　植苗式ないしは大麻Ｖ式に相当するもの。便宜的に宮本式の一群である横走沈線文上に刺突文を施す土器も含める。

B4 類　シュブノツナイ式に相当するもの。

B5 類　胎土に蛇紋岩を含む土器。

第Ⅲ群土器　縄文時代中期に属する土器。

A類　中期前半の円筒上層式系土器群。

A1 類　円筒上層ａ式またはｂ式に相当するもの。

A2 類　サイペ沢Ⅵ・Ⅶａ・ｂ式、厚真１式に相当するもの。

B類　中期後半から末葉の土器群。

B1 類　萩ヶ岡１・２式、天神山式に相当するもの。

B2 類　柏木川式に相当するもの。

B3 類　北筒式に相当するもの。

第Ⅳ群土器　縄文時代後期に属する土器。

A類　後期初頭の土器群。

A1 類ａ種　余市式古段階。円形刺突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多段の羽状構成の土器。

A1 類ｂ種　Ⅳ群Ａ１類ａ土器に併存する沈線文系の土器。非在地系。

A1 類ｃ種　天祐寺式に相当するもの。Ⅳ群Ａ１類ａ種土器に併存する。非在地系。

A2 類　余市式新段階。タプコプ式古段階。階段状の器表面や斜め下方からの刺突文や縄端圧痕文が施される土器。

B類　後期前葉の土器群。

B1 類　タプコプ式新段階。縦位の棒状貼付帯縄線文または地文縄文のみが施されているもの。

B2 類　手稲砂山式に相当するもの。

B3 類　入江式、大津７群、白坂３式土器に相当するもの。

C類　後期中葉の土器群。

C1 類　ウサクマイＣ式に相当するもの。

C2 類　手稲式に相当するもの。

C3 類　ホッケマ式に相当するもの。

D類　後期後葉の土器群。

D1 類　堂林式、御殿山式に相当するもの。

第Ⅴ群　縄文時代晩期に属する土器群。

A類　晩期前葉の土器群。

A1 類　爪形文や刺突文を施すもの。

A2 類　大洞Ｂ･ＢＣ式土器に相当するもの。

B類　晩期中葉の土器群。

B1 類　縄線文や円弧文を施すもの。美々３式、

ママチⅠ・Ⅱ群に相当するもの。
B2類　大洞C1・C2式土器に相当するもの。
C類　晩期後葉の土器群。
C1類　ママチⅢ・Ⅳ・Ⅴ群に相当するもの。
C2類　大洞A・A´式土器に相当するもの。

第Ⅵ群土器　続縄文文化期に属する土器群。

A1類　砂沢式・二枚橋式に並存する在地の土器。
a:札幌市H37遺跡 丘珠空港地点相当のもの。
b:いわゆる沙見式相当。縄線文が施され、地文に帯縄文発達以前の土器。
A2類　砂沢式・二枚橋式に並存する搬入系土器。
a:砂沢式土器。　b:二枚橋式土器。
B1類　アヨロ2類土器並行の土器。
a:アヨロ2類a相当の土器。
b:アヨロ2類b相当の土器。
B2類　アヨロ3類相当の土器。
C1類　江別太1～3式土器。
C2類　後北B式土器。
C3類　後北C_1式土器。
C4類　後北C_2-D式土器。
D1類　宇津内Ⅱa式土器。
D2類　宇津内Ⅱb式土器。
E1類　北大Ⅰ式土器。
E2類　北大Ⅱ式土器。

第Ⅶ群土器　擦文文化期に属する土器群。

A北大Ⅲ式相当
B擦文土器（甕形）
B1:擦文「前期」に相当するもの。
主として胴部上半に横走沈線のみを施す一群。
B1a:軽い段により頸部を形成した無文もしくは数条の横走沈線を廻らすもの。
B1b:多条の横走沈線を施すものもの。
B2:擦文「中期」に相当するもの。
主として口縁部文様帯が未形成もしくは単調な刻みのみの一群。
B2a:横走沈線を地文とし、刻文を重ねるもの。
B2b:刻文のみのもの。
B2c:無文のもの。
B3:擦文「後期」に相当するもの。
主として口縁部文様帯を形成した一群。
B3a:横走沈線を地文とするもの。
B3b:綾杉文主体のもの。
B3c:斜位、あるいは縦位の沈線で鋸歯状文、「X」字状文等を施すもの。
B3d:胴部文様帯を3段以上に区画した上でⅦB3a～cの文様要素を施したもの。
B3e:無文のもの。
B3f:口縁部文様帯に数条の沈線を廻らせたもの。
C擦文土器（坏形）
C1:台部を有さないもの。
C2:平底の低い台部を有するもの。
C3:平底の高台部を有するもの。
C4:上げ底の高台部を有するもの。
C4a:口縁部に沈線を有するもの。
C4b:体部に刻文を施すもの。
D擦文土器（鉢形・壺形）
Eロクロ成形土器
E1:甕形
E2:壺形
E3:鉢形
E4:坏形
E4a:軟質で内面黒色処理を施さないもの。
E4b:軟質で内面黒色処理を施すもの。
E4c:硬質で酸化炎焼成のもの。
E4d:硬質で還元炎焼成のもの。

2. 剥片石器

ポイント類

長軸４㎝を境に石鏃と石槍・石銛とを区分した。

A「石鏃」
- 1細身で薄手のもの。
- 2無茎のもの。
- 3明瞭な茎部をもつもの。
- 4不明瞭な茎部を持つもの。
- 5片岩製で周縁のみに調整加工を施すもの。
  続縄文時代に特徴的なもの。

B「石槍」・「石銛」
- 1明瞭な茎部をもつもの。
  - a茎部端が平ら。　b茎部端が尖る
  - c茎部端部付近につまみのあるもの。
- 2不明瞭な茎部をもつもの。

C欠損品・未製品

石 錐

A　剥片の一部に機能部を作出したもの。
B　柄と機能部の区別が明瞭なもの。
C　柄と機能部の区別が不明瞭で幅広なもの。
D　柄と機能部の区別が不明瞭で幅広でないもの。
- 1　平面形が棒状のもの。
- 2　平面形が紡錘形のもの。

E　他石器からの転用品と思われるもの。

ナイフ・スクレイパー類

縁辺に刃部が作出されたもののうち、素材の１辺に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているもの。

A「つまみ付きナイフ」
- 1素材の周縁にのみ加工を施したもの。
- 2素材の片面全体に加工を施したもの。
- 3素材の両面全体に加工を施したもの。

B　素材端部に刃部が形成されているもの。
- 1「ラウンド・スクレイパー」
- 2「エンド・スクレイパー」

C　素材端部に刃部が形成されていないもの。
- 1「サイド・スクレイパー」
  - a原石・転石面無。　b原石・転石面有。
- 2「コンケイブ・スクレイパー」
  - a原石・転石面無。　b原石・転石面有。
- 3「抉入石器」

D　続縄文時代に伴う「ナイフ状石器」

E　欠損品
- a原石・転石面無。　b原石・転石面有。

両面調整石器

大型、木葉形で刃部調整が見られないもの。

ＲＦ･ＵＦ

一側縁の長さの半分以下の調整痕をもつものをRF、使用による細かな剥離が見られるものを UFとした。

ピエス・エスキーユ

黒曜石製で両極に剪断面をもつもの。

石核

剥片を剥離した母核。

火打石

メノウ、チャート、石英（水晶）を石材とし縁辺部等に微細剥離が観察できるもの。

3. 礫石器

石 斧

A磨製石斧

B未製品１：剥離・敲打により完成品近くまで整形されているもの。

C未製品２：礫皮を残し、擦り切り・剥離・敲打により素材礫形状が不明瞭なもの。

D未製品３：剥離・敲打が部分的に施され、素材礫の形状を大きく残すもの。

たたき石

敲打痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。

I　平面形が縦長のもの。
- A　扁平のもの。
  - 1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
  - 2　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕

を有するもの。
3　1・2が並存するもの。
B　棒状または角柱状のもの。
1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
2　素材礫の側縁の稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
3　1・2が並存するもの。
Ⅱ　平面形が方形～不整形で幅広のもの。
A　扁平のもの。
1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
2　素材礫の側縁の稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
3　1・2が並存するもの。
B　棒状または角柱状のもの。
1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
2　素材礫の側縁の稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
3　1・2が並存するもの。
Ⅲ　平面形が円～楕円形のもの。
A　扁平のもの。
B　球形または棒状のもの。
Ⅳ　破片で上記に分類不可のもの。
Ⅴ　すり石と複合するもの。

すり石
A　断面三角形の礫の稜に擦り面のあるもの。
B　断面楕円形の礫の側縁に擦り面のあるもの。
C　扁平な礫の側縁に擦り面があるもの。
D　北海道式石冠。
E　その他。
F　たたき石と併用するもの。

砥石
使用面に一定方向の擦痕等を有するもの。

滑沢面のある礫
素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。
線条痕はほとんど観察できない。

線条痕のある礫
肉眼観察において、明瞭な線条痕があるもの。

石皿・台石
（便宜的に）素材礫の重量が 900ｇ以上で、礫の平坦面に方向が不揃いな擦痕や敲打痕があるもの。

加工痕のある礫
何らかの目的で、素材礫の一部に剥離が施されるもので、剥離加圧（打点）部分に潰打面が形成されず、側面観が稜線状となるもの。

4. 刀剣類

擦文からアイヌ文化期にかけて出土した刀剣類の呼称について下記の基準を定め報告している。刀姿による分類に至っては多種にわたるが、最小限の分類で記載する。

太刀：　反りが深いもの。刃長は定めていない。
日本刀：　反りが浅く、刃長が 60ｃｍ以上のもの。鉦が見られる。
腰刀・蝦夷太刀：　刃長が 30ｃｍ以上 60ｃｍ未満のもの。
小刀（しょうとう）：　刃長が 15ｃｍ以上 30ｃｍ未満のもの。
刀子：　刃長が 15ｃｍ未満のもの。目釘穴がないもの。

第５節　調査結果の概要

１．擦文～アイヌ文化期

上幌内２遺跡のⅢ層調査では、樽前ｂテフラの直下では殆ど遺物が出土しておらず、1～3 cm程度掘り下げると土坑墓の掘り上げ土や焼土、土器集中などを検出した。

帰属層位については、概ね土坑墓がⅢb層上位からⅢb層中位で掘り上げ土を確認できる。焼土、土器集中についてはⅢb層中位から下位にかけて検出しており、Ⅲ層の調査としてまとめて報告している。遺構、遺物の帰属時期については層位的に判断できるものについては、個別記載で述べる。

今回の調査は発掘調査範囲と遺構確認調査範囲に分かれており（図Ⅰ-2）、おおよそ27ラインから西側と北側斜面、東側段丘崖裾は樽前ｂテフラ下位の黒色土から残存しているが、東側緩斜面はⅥ層・Ⅶ層（樽前ｄテフラ）まで削平されている。

遺構は主に西側と北側斜面、東側段丘崖裾に分布しており、土坑墓５基、集中区２ヵ所（遺構、遺物が密に分布する範囲）、焼土８ヵ所、土坑１基、土器集中６ヵ所、礫集中３ヵ所、獣骨集中１ヵ所を検出している。

特筆すべき遺構は土坑墓が挙げられ、西側段丘縁辺部に４基、その南側平坦部に１基の合計５基検出している。土坑墓の帰属時期については、西側段丘縁辺部に並ぶ４基（ⅢGP-01・02・04・05）が黒色土を2～3 cm、南側平坦部の１基（ⅢGP-03）は約１cm被覆しており、いずれもTa-bテフラ直下ではないことから、中世アイヌ文化期と考えられる。詳細については第Ⅱ章で述べるが、これら中世アイヌ墓は検出層位から、ⅢGP-01・02・04・05が古く、ⅢGP-03が新しいと思われ、造成部の形態、頭位方向、墓標穴の有無、科学的分析（第Ⅳ章第１節）から肯定できる。

副葬品については鉄製品を中心に139点出土しており、豊富な金属製品等が厚真川の上流域にもたらされたことがわかる貴重な資料となっている。中でもⅢGP-05からは和鏡が１点出土しており、背文から「秋草双鳥文鏡」と判明し、12世紀中葉の資料と判断され（国立歴史民俗博物館　村木氏のご教示による）、道内のアイヌ墓出土の和鏡では最古級の事例となる。

その他、擦文文化期では集中区が２ヵ所検出され、うち集中区２とした地点は遺構確認範囲の北側斜面から遺物がまとまって出土し、遺構確認範囲には同時期の遺構が分布していたことが示唆される。擦文土器については、検出層位において殆どがB-Tm上位のⅢb層中位から下位で、文様構成も馬蹄形押捺が付されるものや、複段構成が認められ後期前葉が主体と考えられる。

擦文文化期と中世アイヌ文化期の新旧関係については、検出層位で判断して各時期に帰属させているが、直接重複する遺構は認められない。しかし、ⅢGP-02の掘り上げ土から擦文土器の坏が２点、ⅢGP-03の造成範囲周辺から礫が僅かに出土していることから、土坑墓は擦文文化期より新しく、中世段階と判断できる。

遺物の分布については西側発掘調査区で、Ⅲa層～Ⅲb層中位は殆ど出土していない。こうした分布状態から、上幌内２遺跡は中世アイヌ段階では墓域として利用されていた可能性も考えられる。また、上幌内１遺跡は小沢を挟んで北側に位置し、中世段階の平地式住居跡も検出していることから関連性を考える必要性がある。

2. 縄文時代

上幌内２遺跡の縄文時代は、樽前ｃテフラ下位のＶ層から出土する遺構・遺物で、今回の調査では縄文時代早期後葉から後期末葉までの土器が出土している。調査範囲はⅢ層と同じく、西側の発掘区と東側の遺構確認調査範囲に分かれ、遺構は竪穴式住居跡１軒、土坑17基、焼土２ヵ所、Ｔピット26基、土器集中13ヵ所、礫集中２ヵ所、フレイク・チップ集中４ヵ所、獣骨集中３ヵ所検出している。

遺構の分布については、東側段丘崖裾から竪穴式住居跡や土坑、Ｔピット、土器集中も検出しており、調査区全体に認められる。削平を受けていない範囲については、樽前ｃテフラ除去後に、住居跡やＴピットの窪みが明瞭に確認され、Ｔピットについては掘り上げ土を伴うものが６基検出され、いずれも楕円形で杭穴を有するタイプである。

発掘調査区の分布については、北西側先端付近に、Ｖｂ層上位から焼骨片を伴う焼土（ＶＦ-01）と周囲に堂林式土器がまとまって出土しており、後期後半は段丘北西端部を意識して利用していたことがわかる。ＶＦ-01から回収した焼骨片について、動物遺存体の同定を行ったところ、イノシシが検出され（第Ⅳ章第３節）、過年度に報告した町内のオニキシベ６遺跡（厚真町2014e）、朝日遺跡（道埋文2015）と共通する結果となる。また、ＶＦ-01周辺の堂林式土器の土器集中（ＶＰＢ-03）の土器片と同一レベルで、赤井川産と思われる黒曜石原石が３点、その他、Ｖｂ層上位のフレイク・チップ集中（ＶＦＣＢ-04）、包含層から４点出土している。原石は殆どが両面に岩層面が残る板状の素材で、長軸３～６㎝、厚さ１㎝前後で当該期の特徴の一つとして挙げられる。

この他、前期前半の加茂川式や中期中葉の天神山式土器なども、同じ段丘北西側先端付近から出土しており、遺跡内においても合流点に面し、利用価値が高かった地点と言える。

（奈良）

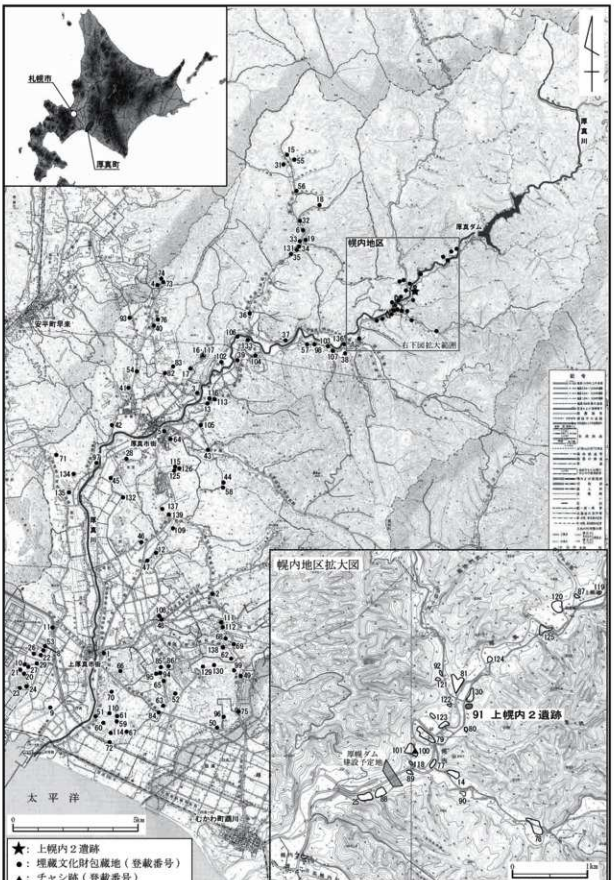
表Ⅰ-2　上幌内2遺跡概要一覧表

項目	Ⅲ層 続縄・擦文・アイヌ文化期	Ⅴ層 縄文時代	備考
発掘調査面積(㎡)	7493㎡		
住居跡	－	1	
集中区	2	－	
土坑墓	5	－	
土坑	1	17	
焼土	8(3)	2	
Tピット	－	26	
土器集中	6(1)	13	
礫集中	3(1)	2	
フレイク・チップ集中	－	4	
獣骨集中	1	3	

※（ ）の数字は住居跡または集中区に含まれる遺構

表Ⅰ-3　上幌内2遺跡出土遺物一覧表

層位	細分類															合計
	土器	剥片石器	礫石器	石斧石器群関片	石製品	剥片類	礫	鉄製品	骨製品	土製品	漆製品	繊維品	ガラス製品	その他		
Ⅲ層	1,185	4	34	2	－	106	1,743	85	30	－	11	4	19	1		3,224
Ⅴ層	3,399	223	228	84	2	15,138	2,841	－	－	3	－	－	－	1		21,919
KR	－	1	－	－	－	11	－	－	－	－	－	－	－	－		12
表採	－	1	1	－	－	3	29	－	－	－	－	－	－	－		34
合計	4,584	229	263	86	2	15,258	4,613	85	30	3	11	4	19	2		25,189



図Ⅰ-4 厚真町内遺跡分布図（平成29年1月1日現在）

表Ⅰ-4　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1)

登載番号	種別	名称	時代	発掘調査年度
1	遺物包含地	上厚真遺跡	縄文中期、続縄文期、擦文期	
2	遺物包含地	軽舞遺跡	縄文中期、続縄文期	2012
3	遺物包含地	朝日遺跡	縄文中～晩期、続縄文期、擦文期、近代	
4	遺物包含地	幌里1遺跡	縄文中・晩期、続縄文期	
5	遺物包含地	新町遺跡	縄文早・中期、続縄文期、アイヌ期	
6	遺物包含地	高丘1遺跡	縄文中期・続縄文期、擦文期、アイヌ期	
7	遺物包含地	幌内1遺跡	縄文中・後期	
8	集落跡	共和遺跡	縄文晩期、続縄文期、擦文期	
9	遺物包含地	浜厚真遺跡	詳細不明	
10	遺穴遺構	厚真10遺跡	縄文中・晩期	
11	遺物包含地	厚真11遺跡	縄文時代	
12	遺物包含地	豊沢1遺跡	続縄文期	
13	遺物包含地	東和遺跡	縄文後期	
14	集落跡	オニキシベ1遺跡	縄文中・後期	2012,13
15	遺物包含地	高丘3遺跡	縄文中期	
16	チャシ跡	桜丘チャシ跡	中世アイヌ期	
17	遺物包含地	桜丘1遺跡	縄文晩期	
18	遺物包含地	高丘2遺跡	詳細不明	
19	集落跡	高丘10遺跡	詳細不明	
20	集落跡	厚真1遺跡	縄文中期	
21	遺穴遺構	厚真2遺跡	縄文中期	
22	遺穴遺構	厚真3遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期	
23	集落跡	厚真4遺跡	縄文中・後期、続縄文期、近代	2012,13
24	遺物包含地	厚真5遺跡	縄文時代、続縄文期	
25	集落跡	厚幌1遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、中・近世アイヌ期	2002,03,12,13,15
26	集落跡	厚真7遺跡	縄文早・中～晩期、続縄文期、擦文期	
27	集落跡	厚真8遺跡	縄文早・中～晩期、続縄文期	
28	遺穴遺構	美里2遺跡	縄文早・中期	
29	墳墓	厚真12遺跡	縄文早・後・晩期、擦文期	
30	集落跡	上幌内1遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2014,16
31	遺物包含地	高丘4遺跡	縄文時代	
32	遺物包含地	高丘5遺跡	縄文時代	
33	遺物包含地	高丘6遺跡	縄文時代	
34	遺物包含地	高丘7遺跡	縄文中期	
35	遺物包含地	高丘8遺跡	縄文時代	
36	遺物包含地	高丘9遺跡	続縄文期	
37	遺物包含地	富里1遺跡	縄文中・後・晩期、アイヌ期	2015,16
38	遺物包含地	幌内4遺跡	縄文中期?	
39	遺物包含地	チコマナイ遺跡	縄文時代	
40	遺物包含地	幌里2遺跡	縄文中期	
41	遺物包含地	本郷1遺跡	縄文中・晩期	
42	遺物包含地	本郷2遺跡	縄文後期	
43	遺物包含地	宇陸1遺跡	擦文期	
44	遺物包含地	宇陸2遺跡	縄文後期	
45	遺物包含地	美里1遺跡	縄文中期	
46	遺物包含地	豊沢2遺跡	擦文期	

登載番号	種別	名称	時代	発掘調査年度
47	遺物包含地	豊沢3遺跡	続縄文期	
48	遺物包含地	鯉沼1遺跡	詳細不明	
49	遺物包含地	鹿沼2遺跡	縄文中期	
50	遺物包含地	鹿沼1遺跡	縄文早期	
51	遺物包含地	厚和11遺跡	縄文中期、アイヌ期	
52	遺物包含地	鹿沼3遺跡	縄文中・晩期	
53	遺穴遺構	厚真13遺跡	縄文早期	
54	遺物包含地	本郷3遺跡	縄文時代	
55	遺物包含地	高丘11遺跡	縄文晩期	
56	遺物包含地	高丘12遺跡	縄文時代	
57	墳墓	幌内5遺跡	縄文前期、近世アイヌ期	
58	遺穴遺構	豊沢4遺跡	縄文早・後期	
59	遺物包含地	厚和2遺跡	縄文中期	
60	遺物包含地	厚和3遺跡	縄文後期	
61	遺物包含地	厚和4遺跡	縄文中期	
62	遺物包含地	鹿沼4遺跡	縄文時代	
63	遺物包含地	厚和5遺跡	縄文時代	
64	遺物包含地	新町2遺跡	縄文後期	
65	遺物包含地	鹿沼5遺跡	縄文後期	
66	遺物包含地	厚和6遺跡	縄文前期	
67	遺物包含地	浜厚真2遺跡	縄文早期	
68	遺穴遺構	鯉沼2遺跡	縄文時代	
69	遺物包含地	豊丘遺跡	縄文前期	
70	集落跡	厚和7遺跡	縄文後期	
71	集落跡	豊川1遺跡	縄文中・後期	
72	遺穴遺構	浜厚真3遺跡	縄文早期	2002
73	遺物包含地	ニタッポロ沢遺跡	縄文後・晩期	
74	遺物包含地	幌里神社遺跡	縄文時代	
75	遺穴遺構	入鹿別沼遺跡	縄文中期	
76	遺穴遺構	幌里3遺跡	縄文時代	
77	遺物包含地	オニキシベ2遺跡	縄文中・後期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2007,08
78	遺物包含地	オニキシベ3遺跡	縄文後期	2014-16
79	集落跡・墳墓	上幌内モイ遺跡	旧石器、縄文早・中～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2004-07
80	遺物包含地	一里沢遺跡	縄文時代、アイヌ期	2014
81	集落跡	ショロマ1遺跡	縄文前・後期、アイヌ期	2013-16
82	遺物包含地	東ニタッポロ1遺跡	縄文中・晩期	
83	遺物包含地	東ニタッポロ2遺跡	縄文中・晩期	
84	遺物包含地	浜厚真4遺跡	縄文中期	
85	集落跡	鯉沼3遺跡	縄文前～後期	
86	遺物包含地	鯉沼4遺跡	縄文後期	
87	遺物包含地	イクバンドュクチセ遺跡	縄文後期	
88	遺物包含地	厚幌2遺跡	縄文前期	2015,16
89	遺物包含地	オニキシベ4遺跡	縄文早・中～晩期	2012
90	遺物包含地	オニキシベ5遺跡	縄文中期・後期	
91	集落跡・墳墓	上幌内2遺跡	縄文時代、擦文期、アイヌ期	2014,16
92	遺物包含地	ショロマ2遺跡	縄文前～後期	2013,14
93	遺穴遺構	幌里4遺跡	縄文時代	
94	集落跡	厚和8遺跡	縄文中・後期	
95	遺物包含地	厚和9遺跡	縄文中期	
96	遺物包含地	鹿沼6遺跡	縄文時代	
97	遺物包含地	豊川2遺跡	続縄文期、擦文期	

表Ⅰ-5 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2)

登載番号	種別	名称	時代	発掘調査年度
98	遺物包含地	幌内6遺跡	縄文後期	2015
99	墳墓跡	鹿沼1遺跡	縄文早～晩期	
100	チャシ跡	ヲチャラセナイチャシ跡	中世アイヌ期	2011,12
101	墳墓跡	ヲチャラセナイ遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文、中世アイヌ期	2008-12
102	遺物包含地	吉野1遺跡	縄文中・晩期	
103	遺物包含地	幌内7遺跡	縄文晩期、擦文期	2008,15,17
104	墳墓跡	ニタップナイ遺跡	縄文前～晩期、続縄文期、擦文期、近世アイヌ期	2007,08
105	遺物包含地	宇隆3遺跡	縄文中期	
106	遺物包蔵地	富里2遺跡	縄文後・晩期、擦文期、近世アイヌ期	2009
107	遺物包蔵地	オコッコ1遺跡	縄文前～後期、擦文期	2015,16
108	遺物包含地	軽舞2遺跡	縄文前期、続縄文期	
109	遺物包蔵地	豊沢5遺跡	縄文後期	
110	遺物包含地	厚和10遺跡	縄文早・中・後期	
111	遺物包含地	豊丘2遺跡	縄文早期	
112	遺物包蔵地	豊丘3遺跡	縄文中期	
113	遺物包蔵地	東和2遺跡	縄文晩期	
114	遺物包含地	浜厚真5遺跡	縄文後期	
115	遺物包蔵地	豊沢6遺跡	縄文早・中・後期	
116	遺物包蔵地	東和3遺跡	縄文早期	
117	遺物包含地	桜丘2遺跡	縄文中期	
118	遺物包含地	オニキシベ6遺跡	縄文前～晩期、続縄文期、擦文期	2012
119	遺穴遺構	イクパンドュクチセ2遺跡	縄文後期	2013
120	遺物包含地	イクパンドュクチセ3遺跡	縄文中・後期、続縄文期	2013
121	遺物包含地	ショロマ3遺跡	続縄文期	2013
122	遺物包含地	ショロマ4遺跡	縄文時代	2014
123	遺物包含地	上幌内3遺跡	縄文中・後期、続縄文期？	2013,14
124	遺物包含地	上幌内4遺跡	縄文中期	2014-16
125	遺穴遺構	上幌内5遺跡	縄文時代	2009,2014-16
126	遺物包含地	豊沢7遺跡	縄文中・後期	
127	遺物包含地	豊沢8遺跡	縄文後期	
128	遺物包含地	ヲイカルマイ遺跡	続縄文期、擦文期、中・近世アイヌ期、近代	2011
129	遺物包含地	長沼1遺跡	縄文早期	
130	遺物包含地	長沼2遺跡	縄文中期	
131	遺物包含地	高丘13遺跡	縄文前期、擦文期	
132	遺物包含地	上野1遺跡	縄文中期	
133	遺物包含地	富里3遺跡	縄文中・晩期	2015
134	遺物包含地	豊川3遺跡	縄文晩期	
135	遺物包含地	三ヶ月沼遺跡	縄文晩期	
136	遺物包含地	幌内8遺跡	縄文前・中期	
137	遺物包含地	豊沢9遺跡	縄文時代	
138	遺穴遺構	鰐沼5遺跡	縄文時代	
139	遺物包含地	豊沢10遺跡	縄文晩期	

第６節　遺跡の位置

１．厚真町の概要

A　地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振総合振興局管内の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川流域に広がる、人口 4,664 人（平成 29 年２月末日現在）の農業の町である。町域の総面積は 404.61 千㎡で、流路 52.3㎞の二級河川厚真川水系と同入鹿別川右岸に広がり南北 32.5㎞、東西 17.3㎞と南北に長く、南部は約 6.5㎞にわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。

北部は夕張市や由仁町と接し、夕張山地南端域の標高 200～600ｍの山地が続き、町域総面積の約 70%を山林が占めている。東は夕張山地から続く低い山地を挟んでむかわ町と接し、北西は標高 100m前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯（以下、苫東）内で苫小牧市と接する。厚真の語源は３説ほどあるが、有力な説としてアイヌ語の「アットマム」（at-to-mam・向こうの湿地帯）で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという（厚真村 1956）。

町内は大きく５つの地区に分かれ、沿岸部の浜厚真地区、厚真川下流域の上厚真地区、中流域の厚真市街地周辺、中流から上流域の富里・幌内地区、むかわ町と接し、入鹿別川流域の鹿沼地区がある。

以下に厚真川中流域から本遺跡が所在する厚真川上流域にかけての概略を述べる。

厚真町の中心市街地は厚真川中流域にあり、鵡川、平取・穂別、早来、浜厚真方面への道道交差部に官公署や住宅地が形成されている。かつては町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展してきた。また、平成3年に日勝峠を含む「**石勝樹海ロード**」が全面開通する以前は札幌方面から厚真町市街地を通過し、日高・十勝へ抜けるルートともなっていた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追丘陵南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中流域から上流域にかけては、厚真川は頗美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。中流域最奥部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部でもあり、本流とシュルク川、幌内川の3河川の合流点である。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、明治44年から昭和24年まで早来駅とを結ぶ軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く。山地は標高400m以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜で壮年期地形の様相を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との1市2町の境界線付近、標高500m付近の夕張山地南域に源流部がある。

B　歴史的環境

(1)先史時代

厚真町内には現在139ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、後期旧石器時代から近現代の軌道跡やトーチカなどの第二次世界大戦時の戦争遺跡までの時期幅がある(図Ⅰ-4、表Ⅰ-4・5)。遺跡の分布傾向は開発行為の多寡に左右されるが、南部の苫東地区と北部の高丘・幌内地区にやや密集する傾向がある。他の市町村と異なる特徴として、これらの北部地区の遺跡は安平町安平地区や夕張市紅葉山地区、むかわ町豊田・穂別・稲里地区に抜ける山越えのルート上の遺跡と思われる。

時期的には上幌内モイ遺跡で後期旧石器(札滑型細石刃核等)のブロックが調査されている。縄文時代では浜厚真3遺跡で東釧路Ⅱ式土器がややまとまって出土している(道埋文2003)。後続する東釧路Ⅲ式やコッタロ式土器が多量に出土する早期後葉の遺跡は、厚真川中流域以南に分布しており、上流域の幌内地区では、散発的で極少量の遺物が出土しているに過ぎない。上流域では、中茶路式期以降が遺跡の増加傾向にあり、厚真川流域において縄文時代の人の拡散を考えると、海岸部から内陸部への進出が想定できる。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前半の静内中野式期で、厚幌2遺跡(88)、オコッコ1遺跡(107)、幌内5遺跡(57)、ニタップナイ遺跡(104)、鹿沼7遺跡(99)などでは多量の被熱礫や哺乳綱の焼骨片が出土しており、厚真町南部から北部に至るまで確認されている。この時期の遺跡は湧水地点に隣接する特徴的な立地で、鹿沼7遺跡や幌内5遺跡、ニタップナイ遺跡、オコッコ1遺跡では露頭や試掘、発掘調査で「盛土遺構」を伴うことが判明している。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北筒・余市式期で遺跡数がピークをとなる。縄文時代後期中葉から後葉にかけての遺跡数が激減し、晩期前葉に再び増加する傾向にある。続縄文文化期から擦文文化期前期にかけての遺跡数も少ない。この様な各時期における遺跡数の偏りは隣接する苫小牧市の傾向と一致している。しかし、厚真町内では白頭山苫小牧火山灰B-Tm降下(10世紀前葉)以降

の擦文中期以降に再び遺跡数が増加する点において、隣接する苫小牧市とは異なる様相を示している。アイヌ文化期についても、厚幌ダムや厚幌導水路建設事業に伴う発掘調査で13世紀以降17世紀中葉に至るまでの数多くの遺構・遺物が検出されており、中世アイヌ文化期の一様相の解明に期待が高まっている。

（2）町内における埋蔵文化財調査の概要

町内における埋蔵文化財の調査・研究・活用は、大正５年、現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を、教材として学校に保管する許可書が発行されたのが最初である（厚真村郷土研究会1956）。これ以降、現在に至るまでを大きく３期に別けることが可能である。

a. 厚真村郷土研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究（昭和20年代後半から40年代中頃）

元厚真村長 亀井喜久太郎氏が昭和28年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報での遺物紹介を行い、昭和31年には『厚真村古代史』を発刊した（厚真村郷土研究会1956）。また分布調査なども積極的に行い、埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「厚真村郷土研究会」の記載で始まるものが32遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残している。

b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模発掘「苫東調査」（昭和48年から昭和59年）

昭和48年から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、59年までの12年間で厚真町域では新規登載14遺跡、調査着手11遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。昭和51年調査の厚真１遺跡（苫小牧市教育委員会1986）では、この地域で初めてのＴピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真１式土器」（赤石1999）の標識遺跡でもある。厚真７遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居跡８軒、石狩川中流域を中心に分布する「丸のみ形石斧」も出土した（苫小牧市教育委員会1987）。共和遺跡では苫東地区内で唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居跡２軒を調査している（苫小牧市教育委員会1987）。

c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始（平成10年以降）

道教委による豊川１遺跡、鯉沼２遺跡などの調査が行われたほか、高規格道路日高自動車道の建設に伴う浜厚真３遺跡の調査では、187基のＴピットが検出されている（道埋文2003）。

平成12年にはダム事務所より厚幌ダム建設事業に係る事前協議書が提出されＡ・Ｂ調が開始された。発掘調査は平成14年から町教委により継続的に行われ、上幌内モイ遺跡、オニキシベ２･４･５･６遺跡、上幌内１･２遺跡、ショロマ１･２･３遺跡、厚幌１遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡など14遺跡の発掘調査を終えている。また平成24年度からは道埋文センターも本事業の調査に入り、平成28年度までの15年間で22ヵ所、205,951㎡の発掘調査を終了している。

平成15年には総延長24.5kmに及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が提出され、Ｂ調等は未了箇所があるものの、現在14遺跡での要発掘・工事立会調査地点が確認されている。平成19年度から発掘調査が開始され、厚真川下流域の豊沢５遺跡、中流域富里地区のニタップナイ遺跡、富里１･２･３遺跡、幌内地区の幌内５･６･７遺跡、オコッコ１遺跡や厚幌１･２遺跡で発掘調査を行った。これらの大規模開発に伴う発掘調査は、平成30年度までに整理業務を終え、ダム事業に係る一連の埋蔵文化財発掘調査業務を完了する予定となっている。

(3) 歴史時代

厚真町に係わる最初の記述は、1692(元禄5)年に書かれた『続々類従本蝦夷記』でシャクシャインの戦いにおいて「於多久見具印住處阿津摩ニテ討取ル」というものである(野澤1692)。その後、寛政年間(18世紀末)に八王子千人同心等数名の和人が浜厚真に移り住むが定住することはない。近世アツマ場所の産物としては、干鮭や椎茸、シナ縄が記されているが、詳細な記述はなく、紀行文や測量日誌に交通路であった勇払と鵡川間の厚真川河口周辺や千歳と日高間の富里地区の簡単な記述に留まっている。

内陸部まで詳述したものは、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』(松浦・吉田1962、松浦・高倉1985)で、1858(安政5)年6月に勇払から厚真川河口を経てトンニカ(現富里)にて2泊している。この時、町内にはアツマ(厚真河口)、キムンコタン(現厚和・厚和1遺跡)、シナイ(現新町・新町遺跡)、チケツヘ(現本郷)、トンニカ(現富里)、ニタツナイ(現富里・ニタップナイ遺跡周辺)の5ヵ所のコタンが記録されている。この中で比較的規模の大きいキムンコタンやトンニカコタンでは、栗、稗、隠元、蕪などの畑作が盛んで、漆器や刀剣類の宝物が多く、これまでの地域とは別格として記している。しかし直前に襲った厚真川の氾濫によって、畑地のほとんどが流されていることも記されており、かつてより洪水の多い河川であったことが伺える。上流部に関しては聞き取りによるもので、夕張方面への交通路やシカやワシ・タカ類の狩猟に関する記述がある。武四郎の日誌からは、上流域におけるこの時期の集落跡は存在せず、無人地帯となっていたことがわかり、中世アイヌ文化期から近世アイヌ文化期にかけて厚真川流域における社会・集落構造の変容が伺える。これらの記録以前のアイヌ文化期については、厚幌ダム水没地域内の発掘調査で確認された上幌内モイ遺跡、オニキシベ2遺跡、ヲチャラセナイチャシ跡、ヲチャラセナイ遺跡、ショロマ1遺跡、上幌内1・2・3遺跡のほか、厚幌導水路事業でも中流域の富里2遺跡、ニタップナイ遺跡等の調査が進められている。また、厚和1遺跡、幌内5遺跡では耕作地より近世アイヌ土坑墓が発見されている。

2．遺跡の位置と周辺の環境

A　地理的環境

遺跡の周辺地域を幌内市街地より厚真川上流域で現存する厚真ダムまでの範囲とし、この範囲は行政区画上、厚真町字幌内地番であるが、以後、便宜的に「厚幌地区」と称する。厚幌地区の中で比較的大きな支流である鬼岸辺川、ショロマ川がある。分水嶺を介して鬼岸辺川は東方の鵡川水系むかわ町豊田地区へ、ショロマ川は分水嶺を越えて石狩川水系夕張市滝之上地区へのルートが想定される。この他、ショロマ川との合流点より約4.8km上流、厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川も鵡川水系むかわ町穂別地区へのルートとして考えられる。厚幌地区は標高約150～250mの山頂に囲まれ、厚真川が浸食開析した谷状の地形で緩やかに傾斜する“線状”の地域となっており、遺跡群は流域に形成された河岸段丘上に立地している。厚真川流域の段丘面は上流～中流域まで発達し、厚真川上流域の上幌内モイ遺跡周辺の段丘面を標識としてT_0～T_5面に細分されている(出穂2006)。本流河川面との比高差や支笏、恵庭、樽前の各火山灰の堆積状態から離水時期がわかり、他地域よりも詳細に把握することができる。支流域まで含めた詳細な検討はされていないものの、概ね連動していると思われる。

本遺跡は夕張山地南端部、厚真川河口から約35.6km に位置し、厚真川の左岸に所在してい

る。本遺跡は東側に位置する標高約 145mの山稜を開析する沢によって扇状地形となり標高約67～77mの段丘面 T2 面を形成している。段丘面は北北東-南南西軸に幅約 269m、西側に約 100m形成され、約 135m西側に位置する厚真川との比高差は約 8mになる。周辺環境として厚真川とショロマ川の合流点を東側から一望でき、北西から南西にかけては広い段丘面が形成され日照条件も良い。

B　歴史的環境

厚幌地区には、後期旧石器時代から中近世アイヌ文化期までの時期にわたる 24 遺跡が所在する（図Ⅰ-1）。最上流のイクバンドユクチセ２遺跡（J-13-119）は厚真川の河口より約 37kmの地点にあるが、さらに約 1.5 km上流に位置する厚真ダム堤体付近にも遺跡が所在していたという。全ての調査が終了し本地区の特徴が見え始めており、時期的な特徴として縄文時代の遺跡は中茶路式期以降が主体であり、これ以前の東釧路系土器群や貝殻文系土器群はほぼ皆無に近い。また、中茶路式と東釧路Ⅳ土器がセットとなって出土し、これらに石英結晶粒を多量に含む富良野盆地系土器が伴う。これに対し、厚真川中下流域や苫小牧市苫東地区での試掘・発掘調査ではコッタロ式や東釧路Ⅲ式の集落跡が確認されており、厚真川流域においては海岸部から上流域への縄文文化の進入拡散が想定される。後続する縄文前期前半期も増加の傾向にあり遺跡や出土遺物が増える。縄文時代前期後葉の植苗式から円筒土器上層ａ式期にみられ、平成 20～24 年度にかけて発掘調査したヲチャラセナイ遺跡も当該期の集落跡である（町教委2013・2014）。また縄文時代後期初頭から前葉にかけての余市式土器群も各遺跡から出土しており、この時期の富良野盆地系土器も多く出土している。時期の偏りが見受けられると同時に富良野盆地系土器が伴う特徴も見逃せない。また擦文文化期中期後半以降、中世アイヌ文化期に至るまでの遺跡数も多い。この時期の遺跡は本遺跡のほか、厚幌１遺跡、上幌内モイ遺跡、オニキシベ２遺跡、上幌内 1・3 遺跡、ショロマ１遺跡などがあり、平成 20・22 年度にはヲチャラセナイチャシ跡も全面調査されている。しかし、17 世紀前葉以降のアイヌ文化期の遺跡数は極端に減少し、本地区での寛永通寶や煙管の出土例はない。厚幌１遺跡や上幌内モイ遺跡では1667 年降下の樽前ｂテフラを直接被覆する大木の根跡に伴うシカ送り場跡が確認されていることから、本地区は集落居住域から猟区域として位置づけを変えていった可能性が高い。

C　松浦武四郎の記録とアイヌ語地名

この地区でのアイヌ文化に係る記録としては、先述の松浦武四郎の記録が最も古い。本地区にはヲチャラセナイやカニシユウ（現一里沢遺跡）、ヲニケレベ(現鬼岸辺)、シヨウロマ（現ショロマ）、メルクンナイなどの多数の地名が記載されている。特徴としては、「ル」（路）の付く地名が多く、複数の山越えルートが想定される地域でもある。厚真川から鵡川水系へは厚真ダム左岸のメルクンナイ～鵡川水系穂別川支流のパンケオビラルカ川へ、鬼岸辺川～良樹ノ沢（ルーマキウシ）～鵡川～パンケルペシベ川～沙流川水系オサチナイ沢川へのルートが想定される。

シヨロマ（現ショロマ川）も厚真村史では「草ソテツの群生するところ」とあるが、ソ（滝）・ル（路）・マ（泳ぎ渡る）とも読み取れる。明治 29 年発行の地形図には「ショルマ」と記載されており、かつては滝瀬の中を馬車道として木材や木炭を運び出したこと、明治・大正期の夕張山地への熊狩の記録（厚真村史 1956）から、夕張川水系滝ノ上地区於兎牛（おそうし）へ

のルートが想定される。現在は「厚真川林道」で通り抜けることが可能である。

これらのルートは厚真川本流とオニキシベ川との合流点付近で１本となり、ヲチャラセナイチャシ跡は早来・千歳方面と鵡川流域、沙流川流域の日高方面、夕張方面への全てのルートが把握できる地点に立地している。人やモノの流れにおいて厚幌地区が重要な位置にあったことも容易に想定でき、考古学的にも縄文時代早期からの富良野盆地系土器や道東北地域の縄文土器、黒曜石原石、豊富な金属製品の出土などがその証拠ともなろう。

ショロマ川流域に関する武四郎の記述は「西岸川巾五六間、急流峨々たる山の間より落来るとかや。是滝川に成るより号るとかや。」と記され、この流域について「マタヤツチセ　是冬分鷲、熊等を取に来りし時の小屋」、「ソウ　滝に成て此処に落る。少し此辺より上一面の椴木立に成り」、「ベンケヤツチセ　是も狐師の立置処～中略～うしろはユウハリのソウホコマナイのうしろに当るとかや」と３つの地名等を書き記している。この記述からも夕張へのルートの他、鷲鷹、熊狐の地域でもあることが記されている。なお、ソウホコマナイは夕張市の草木舞沢川にあたり、夕張川との合流点には滝ノ上チャシ跡が所在している。

３．調査区内の地形と地質

Ａ　地形

発掘調査区は東側山体を開析する沢によって形成された扇状地形で、北東から南西に向かって傾斜している。この段丘面はⅢ層上面で標高約 67～77m、厚真川との比高差から上幌内モイ遺跡の T2 面に相当する。遺跡の調査範囲で 16～27 ライン付近にかけては、畑地削平のため部分的にⅧ層が露出しており、微地形についてはＴピットを用いた横断図を参考とした。また、本段丘面は全て樽前ｄテフラのフォールユニットによって覆われており、これ以降の大きな二次堆積層は認められない。段丘面は削平範囲も含め以下分けて記す。

①：削平を含む東側から続く傾斜範囲。Ｔピット横断図では TP-25 から TP-04 にかけて平均 4°で 29 ラインまでは比較的緩やかな傾斜を示す。樽前ｄテフラの層厚は平均 84cm で下層には粘土層が確認されており（TP-08・10～13・15・21・22・24・27）、樽前ｄテフラ降下以降は安定した地形であったことがわかる。遺構、遺物の分布は②の段丘崖裾で傾斜が緩くなった地点から西側に検出される。VH-01 の上層、樽前ｃテフラ直下にはⅥ層主体の黄褐色土、Ｖ層にⅧ層が混入する褐色土が見られ、一部地すべりと考えられるが地形を大きく改変するものではない。

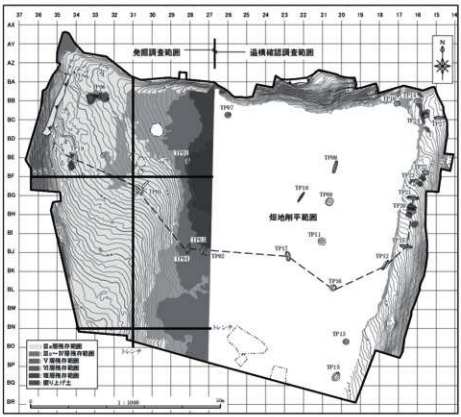
②：標高 72.5～77m 前後の段丘崖。概ね南北方向で崖面は西側を向く。

③：標高 68.5～71.2m 前後で断面図からの平均傾斜角は 3°となり、西側へ緩やかな傾斜を示す。縁辺部には中世アイヌ土坑墓が構築され、平坦にするため切土造成を行っている。漸移的に南へ傾斜する地形④と区分した。

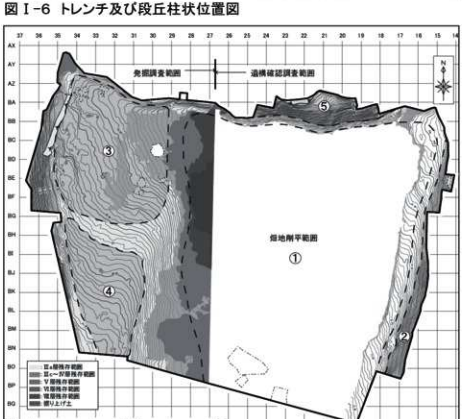
④：標高 66.9～68.5m 前後の南西側へ緩く傾斜する地形。東側は①から続く地形が標高 67.5m 付近まで最大傾斜が 8°で急傾斜となる。標高 67.3m 付近には中世アイヌ土坑墓が１基構築されている。

⑤：標高 69.5～74m の北側斜面。現在も小沢によって開析され対岸には上幌内１遺跡が立地する。この北側斜面は標高 73m 付近まで樽前ｄテフラを主体とする堆積層が認められるが、これ

図Ⅰ-5 周辺の遺跡と地形面区分



図Ⅰ-6　トレンチ及び段丘柱状位置図



図Ⅰ-7　地形面区分図

より下位は浸食崖となって、砂岩主体の河岸段丘礫層に樽前ｃテフラが直接被覆する。そのため、斜面は樽前ｃテフラ以降に安定して黒色土が発達し、擦文文化期の集中区２が形成された。なお、現河床は樽前ｂテフラを浸食しているため、河床下に黒色土は堆積していない。

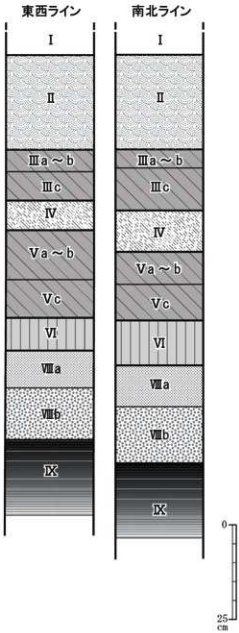
B　地質

東側の大部分は削平されているが、東側、南側壁面では近世アイヌ文化期に降下した近世火山噴出物、Ⅱａ層の樽前ａ（Ta-a　1739 年降下）、Ⅱｄ層の樽前ｂ（Ta-b　1667 年降下）が面的に堆積し、２層間にⅡｃ層の駒ヶ岳 C2（Ko-c2　1694 年降下）が不連続に狭在している。これらの近世アイヌ文化期の火山灰層は 25cm 前後の層厚で堆積している。近世火山噴出物の堆積層以下に遺物包含層となる黒色腐植土Ⅲ層が堆積し、Ⅴ層との間にⅣ層の樽前 ｃ テフラ（Ta-c･B.P.2500 年前後に降下）が堆積し、縄文時代晩期の鍵層となっている。さらにⅤ層･Ⅵ層の下に樽前ｄテフラ（Ta-d･B.P.8,000～9,000 年前後に降下）のⅧ層が堆積している。Ⅷ層はｄ1 とｄ2 が２層のユニットで堆積しており、樽前山起源の噴出物が計４層堆積している。

Ⅲ層はａ～ｃに細分されⅢａ層は 1cm 前後で Ta-b テフラを斑状に含む。Ⅲｂ層は 5cm 前後で厚さによって上位（ⅢbU）、中位（ⅢbM）、下位（ⅢbL）に区分を行い、およそⅢbU 層は中世アイヌ文化期の新段階、ⅢbM 層は中世アイヌ文化期の古段階、ⅢbL 層は擦文文化期後期に相当する。今回の調査ではⅢbU 層とⅢbM 層から中世アイヌ土坑墓を検出しており年代的な矛盾もない。これらは厚真町が平成 14 年度から行ってきた調査成果といえる。ⅢbL 層とⅢｃ層の間には白頭山苫小牧火山灰（B-Tm･10 世紀前半降下）が部分的に堆積している。Ⅲｃ層は７cm 前後である。Ta-c テフラは 10cm 前後で１層のフォールユニットからなる。

Ⅴ層もａ～ｃに細分され、Ⅴａ層は 2cm 前後、Ⅴｂ層は 20cm 前後でⅢ層と同じく上位（VbU）、中位（VbM）、下位（VbL）に区分している。主に中･後期の遺物が出土する。Ⅴｃ層は 10cm 前後で主に前期、Ⅵ層は漸移層で 14cm 前後堆積する早期の包含層である。これ以下は Ta-d1･2 のフォールユニットが発掘調査区全体を覆い、二次堆積は認められない。　（奈良）

〔上幌内２遺跡基本土層〕



０層 ： 撹乱・耕作土・盛土

Ⅰ層 ： 近現代表土　7.5YR3/1 黒褐色砂質土

Ⅱ層 ： 近世火山噴出物及び黒色砂質腐植土
- a ： 樽前ａテフラ（Ta-a）10YR6/4 にぶい黄橙色 砂質降下火山灰 1739 年降下。耕作により部分的に堆積。層厚 5cm 前後。
- b ： 黒色砂質腐植土層 10YR2/1 黒色 新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）の調査における０黒層相当。
- c ： 駒ケ岳 c2 テフラ（Ko-c2）10YR8/3 浅黄橙色 砂質降下火山灰 1694 年降下。Ⅱｂ層中において部分的に堆積している。
- d ： 樽前ｂテフラ（Ta-b）2.5YR7/3 淡黄色 細礫質降下軽石 1667 年降下。層厚 20cm 前後。

Ⅲ層 ： 黒色腐植土
新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）・苫小牧東部工業地帯の遺跡群の調査におけるⅠ黒層相当。
- a ： 砂質シルト 7.5YR2/1 黒色 Ⅱｄ層を斑状に含む。層厚 1cm 前後。やや赤味あり。近世初頭遺物包含層。
- b ： シルト 10YR1.7/1 黒色 やや粘性あり。層厚 5cm 前後。上位から中位が中近世アイヌ文化期遺物包含層。下位が擦文文化期包含層。Ⅲb 層とⅢc 層との層境に白頭山苫小牧火山灰（ B-Tm シルト質降下火山灰 10c 前半降下 ）が部分的に堆積する。
- c ： 砂質シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚 7cm 前後。続縄文～縄文晩期後半の包含層。

Ⅳ層 ： 樽前ｃテフラ（Ta-c）10YR6/6 明黄褐色 砂質降下軽石 B.P. 2,500 年前後降下。層厚 10cm 前後。１層のﾌｫｰﾙ･ｴﾆｯﾄ。

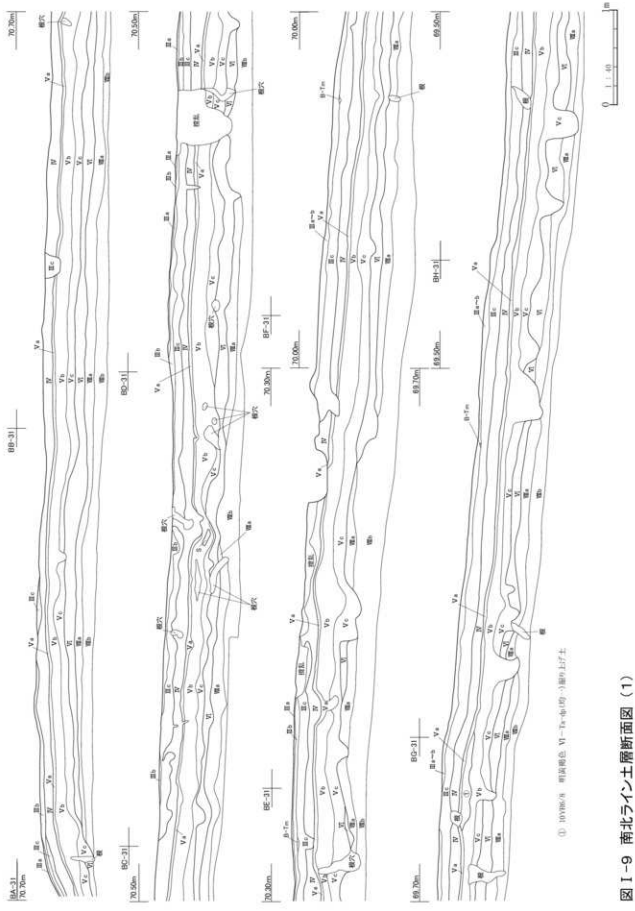
Ⅴ層 ： 黒色腐植土
新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）・苫小牧東部工業地帯の遺跡群の調査におけるⅡ黒層相当。
- a ： シルト 10YR3/2 黒褐色 層厚 2cm 前後。縄文晩期前半の遺物包含層。
- b ： シルト 10YR1.7/1 黒色 層厚 20cm 前後。縄文中・後期の遺物包含層。
- c ： シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚 10cm 前後。縄文前・中期の遺物包含層。

Ⅵ層 ： 漸移層 2.5YR4/6 赤褐色 暗褐色シルト。層厚 14cm 前後。縄文早期の遺物包含層。

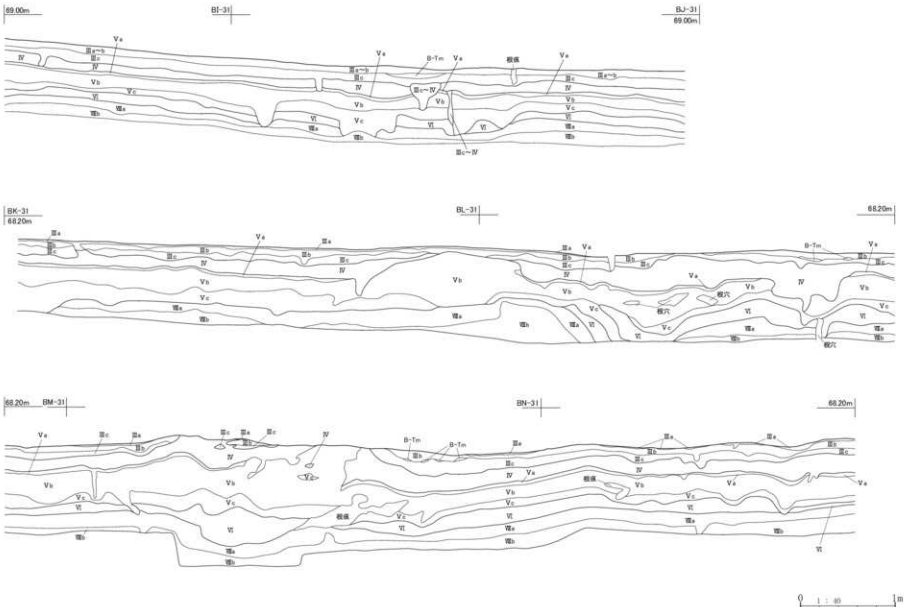
Ⅶ層 ： 樽前ｄテフラ B.P. 8,000 ～ 9,000 年前後降下。
- a ： 樽前 d1 テフラ（Ta-d1）5G4/1 暗緑灰色 細礫質降下スコリア（φ5↓）層厚 10cm 前後。
- b ： 樽前 d2 テフラ（Ta-d2）5YR4/8 赤褐色 中礫質降下スコリア層厚 100cm 前後。部分的に水成風化による粘土化も有る。

Ⅸ層 ： 河岸段丘基盤層　青灰色粘土質シルト層や礫－砂互層

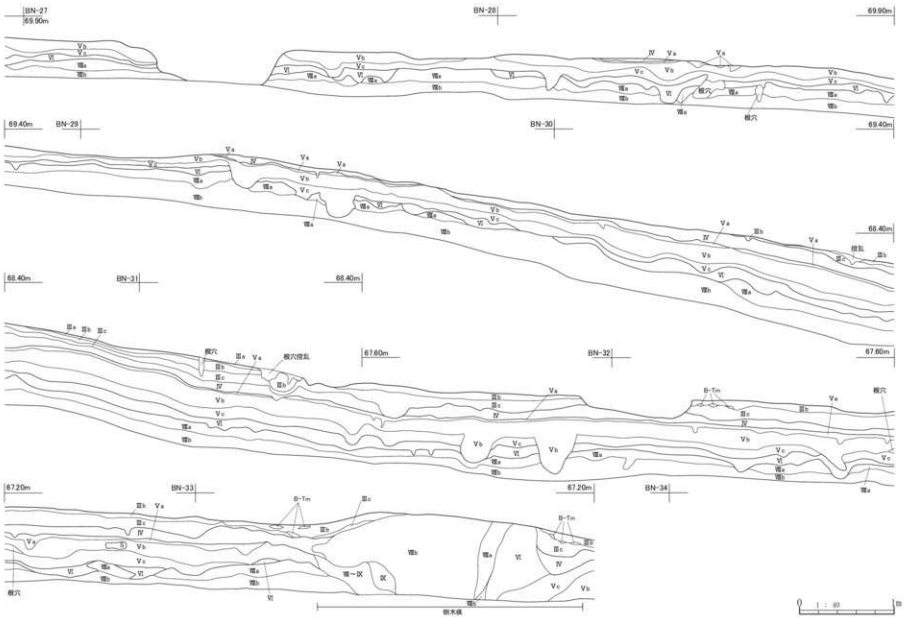
図Ⅰ-8 基本土層柱状図



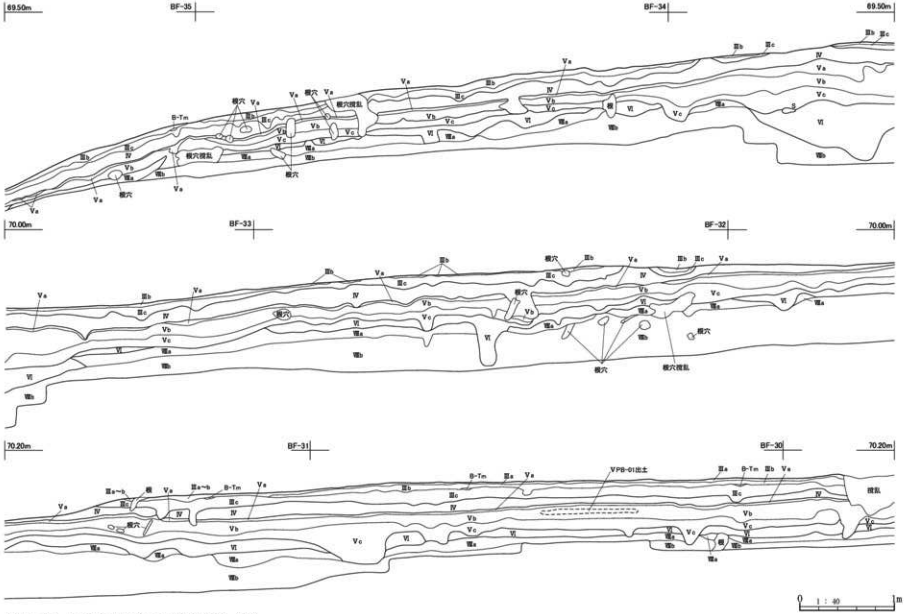
図Ⅰ-9　南北ライン土層断面図（1）



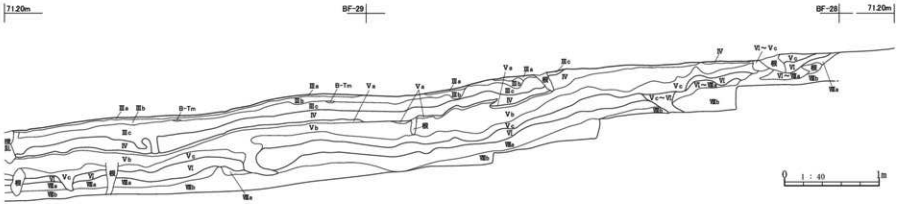
図Ⅰ-10 南北ライン土層断面図（2）

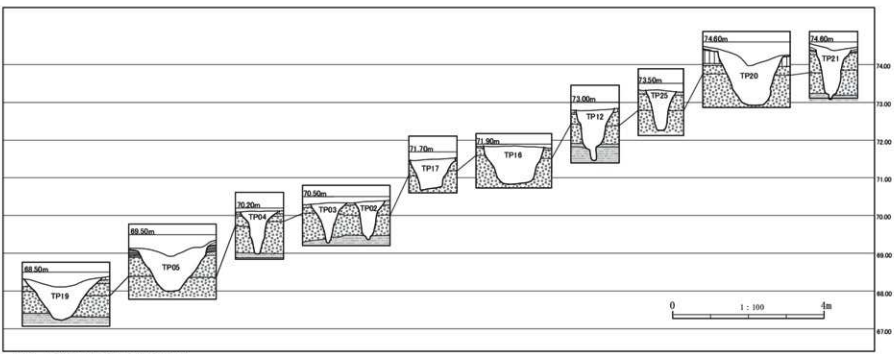


図Ⅰ-11 BN東西ライン土層断面図



図Ⅰ-12 BF 東西ライン土層断面図（1）





Tピットを用いた段丘横断面図

図Ⅰ-13 BF 東西ライン土層断面（2）及び段丘横断面図

第Ⅱ章　Ⅲ層の調査

本章の遺構及び遺物は、Ta-bテフラより下層の黒色腐植土層で検出したものである。厚真町の分層ではⅢ層に分けられ、本遺跡からは中世アイヌ文化期、擦文文化期の遺構及び遺物、続縄文時代の土器が1個体出土している。

発掘調査はおおよそ 27 ラインより東側を重機による遺構確認調査範囲、西側と北側斜面及び東側段丘崖裾を発掘調査とした。北側及び東側については、段丘崖裾で遺物の分布が途切れるまで拡張しており、最終的に図Ⅱ-1の調査範囲となった。

Ⅲ層はⅢa～Ⅲb層中位までをアイヌ文化期、Ⅲb層下位からⅢc層を擦文文化期から続縄文時代相当としてしている。しかし、Ⅲb層中位は擦文文化期から中世アイヌ文化期への移行期であるため明瞭な時期区分を設けられずⅢ層としてまとめて掲載する。調査の過程で時期区分が可能な遺構、遺物に関しては各節において記述する。

検出遺構は中世アイヌ墓5基、集中区2ヵ所、焼土8ヵ所（集中区の3ヵ所含む）、土坑1基、土器集中6ヵ所（集中区の1ヵ所含む）、礫集中3ヵ所（集中区の1ヵ所含む）、獣骨集中1ヵ所である。遺物は土器1,185点、礫石器33点、黒曜石転礫（4点）、フレイク・チップ106点、金属製品85点（81点）、骨製品（30点）、鍚製品（4点）、漆製品（破片を含む　11点）、ガラス玉（19点）、毛皮製品（1点）、礫1,743点、その他3点の合計3,224点出土している。遺物点数の（　）表記については中世アイヌ墓出土副葬品点数を示す。

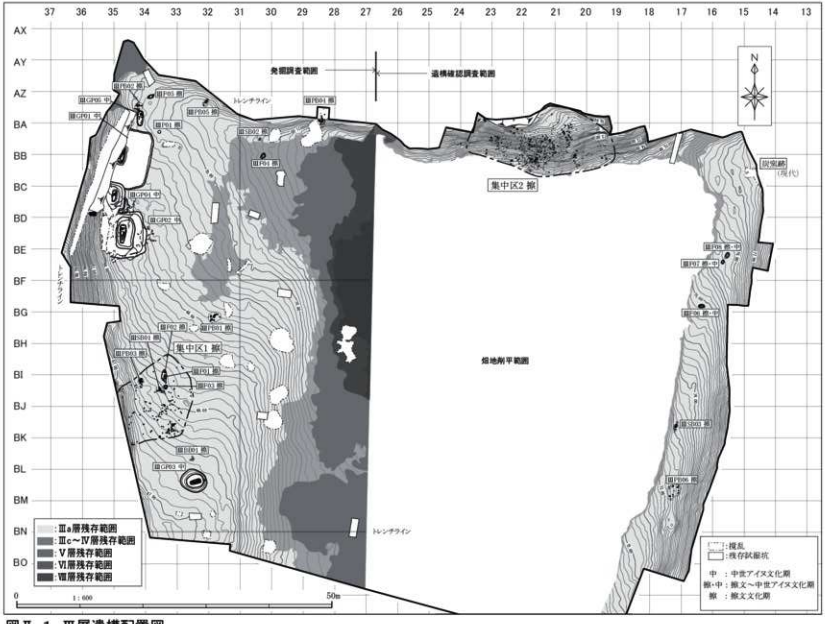
遺構分布については、中世アイヌ文化期の土坑墓が西側段丘縁辺部にまとまった分布を示す。擦文文化期は西側、北東側に集中区が、東側段丘崖裾には擦文から中世アイヌ文化期の焼土が認められる。このような分布から、遺構確認範囲にも当該期の遺構及び遺物が広がっていたと推定される。

今回の調査で特筆すべきものとしては中世アイヌ墓が挙げられ、西側段丘縁辺部に4基、南側平坦面に1基の合計5基検出している。これら土坑墓については、中世アイヌ墓としているが、封土を被覆する黒色土の厚さや副葬品、科学的分析から、中世アイヌ文化期の中でも古い時期と新しい時期に分けられる。中世段階にはこうした複数の土坑墓を検出しているが、Ⅲb層上位から中位にかけて他の遺構や遺物を殆ど検出していないため、生活空間とは異なる地点であったと思われる。

擦文文化期とアイヌ文化期の時間差については、ⅢGP-02 の掘り上げ土から擦文文化期後期前葉の高坏が出土しているため、土坑墓はこれ以降に構築したことが明らかとなる。

遺物については、包含層でⅢb層上位に45点、中位に316点、Ⅲb層下位に1,282点で中位から下位が主体的に出土している。擦文土器もⅢb層中位から下位にかけて出土している。

（奈良）



発掘調査範囲
遺構確認調査範囲
集中区2 掘
集中区1 掘
焼地削平範囲
トレンチライン
N
:Ⅲa層残存範囲
:Ⅲc～Ⅳ層残存範囲
:Ⅴ層残存範囲
:Ⅵ層残存範囲
:Ⅶ層残存範囲
:撹乱
:残存試掘坑
中 :中世アイヌ文化期
掘・中 :掘文～中世アイヌ文化期
掘 :掘文文化期
0
1:600
50m

図Ⅱ-1 Ⅲ層遺構配置図

第１節　土坑墓

本遺跡で検出した土坑墓は、標高約 68.1～69.8mの発掘区北西側段丘縁辺部に 4 基、標高約 67.3mの南側平坦面に 1 基の合計 5 基である。

土坑墓は火山灰除去中に西側の作業道切土法面から出土した日本刀と、段丘縁辺部の火山灰（Ta-b）より下層のⅢ層上面においての方形竪穴状造成面が複数あると想定された。造成跡は大･小あるものの BA～BE の段丘縁辺部に 3 ヵ所連続して認められ、うち 2 ヵ所（ⅢGP-01･02）は造成内のほぼ中央に長楕円形の窪みを検出した。火山灰除去を終了した時点では、南側にも円形の竪穴状造成が認められ、合計 3 基の土坑墓と考えていた。しかし、土坑墓の調査が進み全体を掘り下げ、周辺のトレンチ調査を行った結果、西側縁辺部から更に 2 基の土坑墓（ⅢGP-04･05）を検出した。今回検出した土坑墓のうち、一番北側のⅢGP-05 については、周辺に根痕の窪みが著しかったため竪穴状造成の有無については不明である。

人骨については、取り上げ後室内でクリーニングを行い、札幌医科大学で保管している。副葬品のうち取り上げ時の破損が危惧される資料については、（公財）北海道埋蔵文化財センターの田口尚氏に派遣指導のもと、一部ウレタンによる取り上げを行った。ウレタンによる土壌切り取りの副葬品については、（公財）元興寺文化財研究所に解体、保存処理の委託業務を締結し平成 26・27 年度で保存処理、分析等を行っている。

土坑墓の用語については、同町内のオニキシベ 2 遺跡と同様に記す。

遺構の用語：〔土坑墓〕遺構全体の総称　　〔主体部〕遺体を埋葬した土坑部分
〔封　土〕主体部を覆うマウンド　〔造成部〕造成して構築された主体部構築面
〔掘り上げ土〕造成時に周囲へ排出された土

ⅢGP-01（図Ⅱ-2～5　カラー図版 2･3･9　図版 2･3･36･37）

位置：BA･BB-33･34･BC-34･35･BB-35 区

規模：〔造成部〕950×(520)cm　〔主体部〕252×(84)×12cm

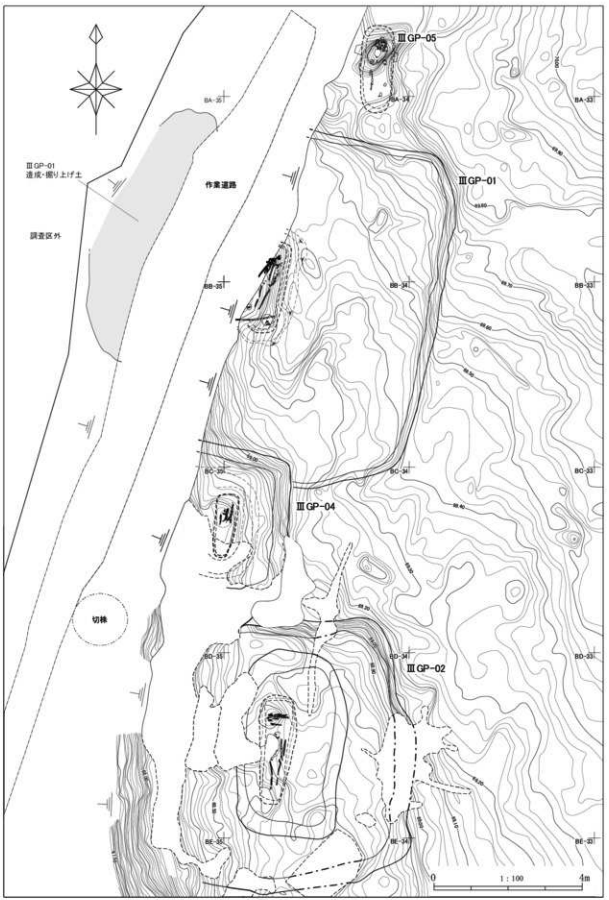
造成部平面形：方形　主体部平面形：隅丸長方形　長軸方向：N-20° E　頭位方向：北

検出層位：ⅢbM

確認・調査　火山灰除去時に西側作業道切土法面から日本刀 1 振を検出した。Ta-b テフラ除去の段階で、方形の竪穴状造成と長軸中心付近に楕円形の浅い窪みを確認したため土坑墓と想定できた。

調査は後述するⅢGP-02 の造成範囲を含め、AZ-33 から BE-33 区のおよそ 30×15mの範囲で 2cm コンターを記録した後、十字トレンチを設定し、造成及び主体部の断面確認を行った。短軸方向（東西）については、作業道を挟んで西側斜面にプライマリーな黒色土が堆積しており、掘り上げ土確認のため同軸で設定している。主体部については、トレンチで人骨及び副葬品の刀剣類が出土しており、この時点で頭位方向も北側であることを確認した。また、日本刀については、黒色土に刀幅の窪みと鉄錆が認められ、原位置付近と判断した。同位置に戻してトレンチ掘削を行ったところ、日本刀は頭蓋骨の直上に位置していることが判明し、写真撮影、微細図作成後取り上げている。

土坑墓の断面記録後に、造成範囲は掘り上げ土を残し、主体部は封土を掘削して人骨及び副



図Ⅱ-2　ⅢGP-01･02･04･05 周辺地形測量図

葬品の検出に努めた。人骨及び漆塗椀、漆塗丸盆など脆弱な副葬品にはバインダー17溶液を5%に希釈したものから塗布し、段階を追って30%の濃度までの硬化処理を行った。これまでの工程をⅢGP-02と並行し、2基同時に完掘写真撮影を行っている。副葬品取り上げ後、人骨は埋葬位置が分かるよう、微細図と照合しながら部位ごとに取り上げ、室内でクリーニングを行っている。また、漆塗丸盆については直径約30cmで現代の根も絡んでいることから、(公財)北海道埋蔵文化財センターの田口尚氏に依頼し、ウレタンによる土壌切り取りを行っている。

人骨、副葬品の取り上げ後、主体部及び造成範囲を構築面まで掘り下げ、平面の記録、完掘写真撮影をして調査終了とした。

造成部形態　平面は方形状で長軸は950cm、短軸は残存部分で520cm、西側段丘縁辺が開放され中心に主体部が構築される。切土されているが、斜面下にプライマリーな黒色土が堆積していることから、構築当時と地形的に大きな改変はないと思われる。このことから、土坑墓は意図的に段丘縁辺を選択して西側を開放する造成であったことがわかる。深さは12～14cmで、Vb層上位まで掘り込まれている。また、主体部は溝状の浅い窪みで囲われており、C-Dラインの南側(D側)では主体部坑底面より1段低い断面が認められる。このような段差を有する形態は、他の土坑墓にも共通する要素である。

主体部形態　西側を欠失しているが、概ね隅丸長方形を呈する。壁面は南北方向が緩やかで立ち上がりは不明瞭である。深さは東側の立ち上がりで22cmを図るが、南北ラインでは12cm程度で非常に浅い。長軸方向は概ね南北軸で、頭位方向は北側である。

堆積状態　西側斜面に堆積するE-Fラインの1～3層はⅢb層を主体としており、Ⅲc～Ⅴ層を含むことから、造成時の排土と考えられる。造成範囲内A～Dラインの1･2･4･5層はⅢc･Ⅳ層を多く含み、全体に被覆している。掘り上げ土は段丘上の造成範囲外には認められないため、排出していない土壌は一端造成内に置かれ、遺体埋葬後封土として主体部及び周辺に埋め戻されたと考えられる。3層は南側に認められ、Ⅳ層が混入していない。6･9･10層は北と東側に認められる堆積で、9･10層はTa-dを含むが、北側倒木痕の上げ土が混入したもので、土坑墓を深く掘り込んだ結果ではないと思われる。8層は遺体層で粘性が強く、7層は遺体を被覆する封土流入土で、主体部中央の遺体上位には殆ど堆積していない。

このような堆積状態から、主体部と溝、造成範囲は一度に掘り込まれ、一部は西側斜面に排出(E-Fの1～3層)され、一部は造成範囲内に仮置きされ、遺体安置後、溝を含めて埋め戻し封土としたと思われる。A-Bラインの2･6･10層と7･8層には僅かであるが層界が認められるため、造成範囲と主体部には境界が存在していた可能性がある。封土はⅢc層やTa-c(Ⅳ層)を主体とすることから、砂質に富み粘性、しまりが弱い特徴がある。このため風雨等により造成範囲が開く段丘崖や造成範囲内へ流出し、棺が露出状態に近かった可能性もある。また、棺による埋葬については、人骨の下顎が原位置から大きく移動している状態から、空隙環境(青野2007)であった可能性が高く、棺埋葬の可能性を肯定するものである。さらに、Ⅲ層上面において深く窪んでいることも空隙空間であったことに起因していると思われる。

墓標穴　主体部及び造成範囲内には認められない。

人骨･副葬品出土状態　遺体は仰臥伸展葬で頭位は北側、遺存状態は比較的良好で、頭蓋骨及び大腿骨が残る。下顎が東方向に大きく移動している。

副葬品は蝦夷太刀１振、刀子２本が胸部上に置かれ、骨鏃・中柄の束は刀子に挟まれるように出土している。刀子付近には柄部の装飾と思われる銀製の象嵌装飾品が２点出土している。足元には漆製品が副葬され、右足には漆塗椀の塗膜片が、左足には漆塗丸盆の塗膜片が出土している。頭部上の金属製品小破片は、刀剣類の錆と思われるが、細片であるため詳細は不明である。日本刀は推定位置から考えると、先述したように棺埋葬であるならば、棺の上に副葬された可能性が考えられる。

出土遺物　１は刃長が約62cm、反りが約2.6cmある平棟平造りの刀で、比較的鋭角なふくらが認められ日本刀に類すると思われる。鍔と鉗は鉄製で、鍔は左右がやや括れる。刀身には鞘木と思われる木質が付着するが判然としない。２は平棟平造りの蝦夷太刀としたものである。X線から両区であることがわかり、明瞭な樋が認められる。残存する柄木からは合わせ目等は認められない。３は刀子で刃部中央付近が緩やかに湾入することから使用による目減りと思われる。木質は鞘木の中程まで残存しており、茎には柄木装着前と思われる紐状の有機質が巻かれている。４は目釘孔を有するが刃長から刀子に分類している。３、４ともに棟側に明瞭な区を有するが、刃部側は認められない。５、６は円板状に加工された象嵌装飾製品で材質は銀。町内ではオニキシベ２遺跡の３号墓から出土した銀象嵌刀子の円板部分に類似する（町教委　2011図Ⅱ-30-7･8）。７は漆塗椀の塗膜片で僅かに高台と思われる段差が半円状に巡る。遺存状態が悪く、文様構成は不明。８は漆塗膜片が円形に残存し、径が約30cmあることから漆塗丸盆とした。遺物の形状を損なわないため現代の根も同時に取り上げ、保存処理、図化を行っている。漆膜は欠落している部分が多く高台のような厚みのある破片は認められない。文様は中央やや下方に黒色で紡錘形と直線が、根の上に菱形を描いているが全体の文様構成は不明。骨鏃・中柄に関しては遺存状態が非常に悪いため写真図版のみ掲載している。

時期　掘り上げ土に被覆する黒色土が、2～3㎝であるため中世の古いアイヌ文化期に帰属すると思わる。漆塗椀と漆塗丸盆の塗膜片で放射性炭素年代測定（以下AMS測定）を行ったところ13世紀末～14世紀初頭という結果を得ており現場所見と矛盾はない（第Ⅳ章第１節参照）。

性別・年齢　男性・熟年（第Ⅳ章第２節参照）。

ⅢGP-02（図Ⅱ-6～10　カラー図版2-1･2･4･10･11　図版4･5･37-2～39）

位置：BC-34･35･BD･BE-33～35区　規模：〔遺成部〕732×(484)cm

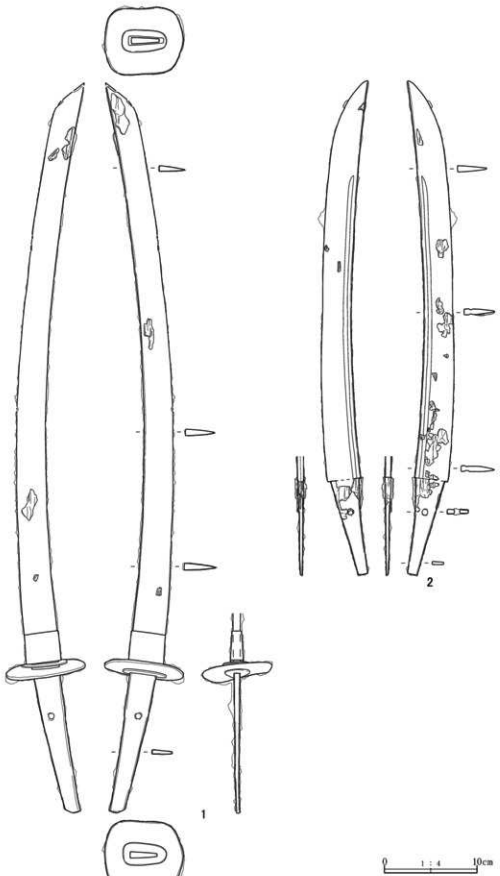
〔主体部〕294×100×38cm

造成部平面形：方形　主体部平面形：長台形　長軸方向：N-4°E　頭位方向：北

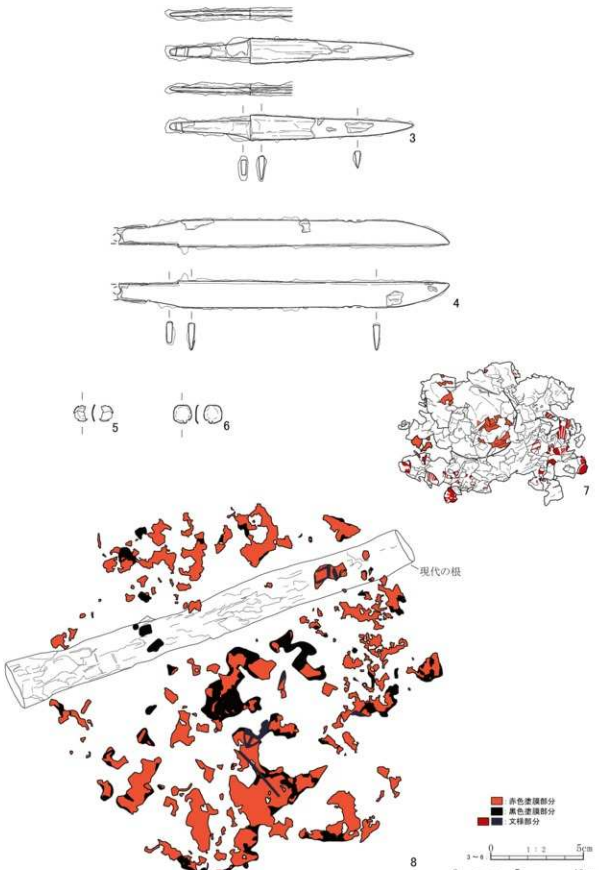
検出層位：ⅢbM･ⅢbL

確認・調査　ⅢGP-01を含めたコンター図の記録後、造成範囲中央付近に溝状の窪みを主体部と想定し十字トレンチを設定した。造成範囲においてはトレンチをⅣ層からⅤb層上位まで掘削し、掘り上げ土及び構築面の確認を行った。主体部については人骨及び副葬品を検出した時点で造成部分と合わせて断面写真、図の記録をした後、ベルトを外して面的に掘り下げている。この時、埋土中位から象嵌装飾銅製品が出土しているが、随時取り上げを行い遺体層まで掘り下げた。

人骨及び副葬品の有機質付着部分については、バインダー17を5%に希釈した溶液を塗布し、



図Ⅱ-4　ⅢGP-01出土遺物(1)



図Ⅱ-5　ⅢGP-01 出土遺物(2)

段階を追って30%の濃度まで硬化処理を行っている。主体部全体の人骨、副葬品の微細図を記録した後、完掘写真の撮影を行った。人骨については歯冠歯列及び大腿骨、脛骨が残存しており、土壌ごと取り上げた後室内でクリーニングを行った。

本遺構の副葬品については、遺体に添えた状態で出土する2振の太刀以外は北側にまとまり、刀剣類に有機質が多く認められたため、ⅢGP-01と同様にウレタンによる土壌切り取りを行っている。そのため、副葬品を台状に残した状態で造成部分の完掘を行い、平面の記録写真撮影を行った。ウレタンの取り上げによって調査終了としている。

造成部形態　平面は方形状で、根痕や倒木痕によって撹乱を受けているが長軸は732㎝、短軸は西側段丘縁辺部に向かって不明瞭となるが残存部分で484㎝を図る。西側段丘縁辺部は一部崩落などしているが、ⅢGP-01から続く地形であることから西側を開放した構築であったと思われる。

主体部周辺には1段低い段差が認められ階段状の構造となる。

主体部形態　短軸は北側が84㎝、南側が50㎝で南側に向かってすぼまる長台形を呈する。壁面は直立して立ち上がる。長軸は294㎝あるが、北側部分に副葬品スペースがあるため長大となっている。長軸方向はおおよそ南北軸である。

堆積状態　西側縁辺部は傾斜しているため主に東側がⅤc層まで切土造成され、Ⅲb・Ⅲc層主体の1～5・13層が主体部及び造成範囲に広く被覆している。17層はⅣ層主体で自然堆積層と考えられる。6～8・10・11層はⅤ層、Ⅶb層も混入することから、主体部掘削時の掘り上げ土を封土にしたと考えられる。9・12層は比較的粘性が強く遺体層である。14～16層はⅦb層を含み、主体部周囲の段差に堆積していることから、主体部底面付近の掘り上げ土と思われる。

墓標穴　墓標穴については、造成面及び主体部内を面的に掘り下げたが検出していない。

人骨・副葬品出土状態　遺体は仰臥伸展葬で歯冠歯列部分と大腿骨、脛骨から頭位方向は北側である。歯列は噛合せの状態であるため、土坑墓内は充填環境であったことが推測できる。

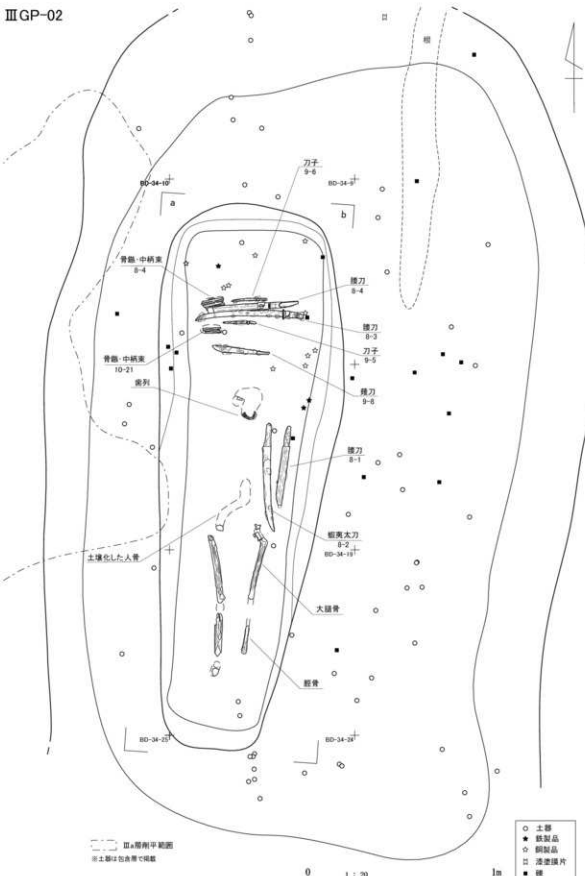
副葬品は遺体左側に沿って、2振の太刀が出土し、頭位北側には土坑墓長軸に対して直交する形で6本の刀剣類、骨鏃・中柄の束が2ヵ所出土する。こうした出土状態から土坑墓は頭位北側に副葬品を安置するスペースを設けていたことがわかる。骨鏃・中柄に関しては遺存状態が悪く先端方向を確認することが出来なかったが、刀剣類全て切先を西側に向けていることから同一方向と思われる。刀剣類の出土状態で、薙刀(図Ⅱ-9-8)と刀子(図Ⅱ-5)の間に約15㎝の無遺物空間が認められるが、断面観察でも有機物や遺物の痕跡は認められず、ウレタン切り取り後の裏面からの精査でも有機質等の検出は出来なかった。その他、埋土上位から鉤状製品(図Ⅱ-10-9・10)が出土しているが土坑墓に伴うかは不明。造成範囲内の1段低い地点には漆塗膜片が出土している。

出土遺物　1は両区の平棟平造りの腰刀。刃長は34.4㎝であるが身幅は3.6㎝と長さに比して厚い。全体に木質を残すが鞘表面は樹皮巻き痕が僅かに認められるだけである。目釘孔はX線では2ヵ所確認できる。2は両区の平棟平造りで樋が認められる蝦夷太刀である。鞘木表面には留具と思われる樹皮巻きの痕跡が3ヵ所認められる。更に木質を被覆する形で有機質の付着が認められるが詳細は不明。茎には木質の目釘が認められる。1、2は遺体に添えて副葬されていたため、部分的に人骨が付着している。3は切先部分に明瞭な変換点は認められないが、

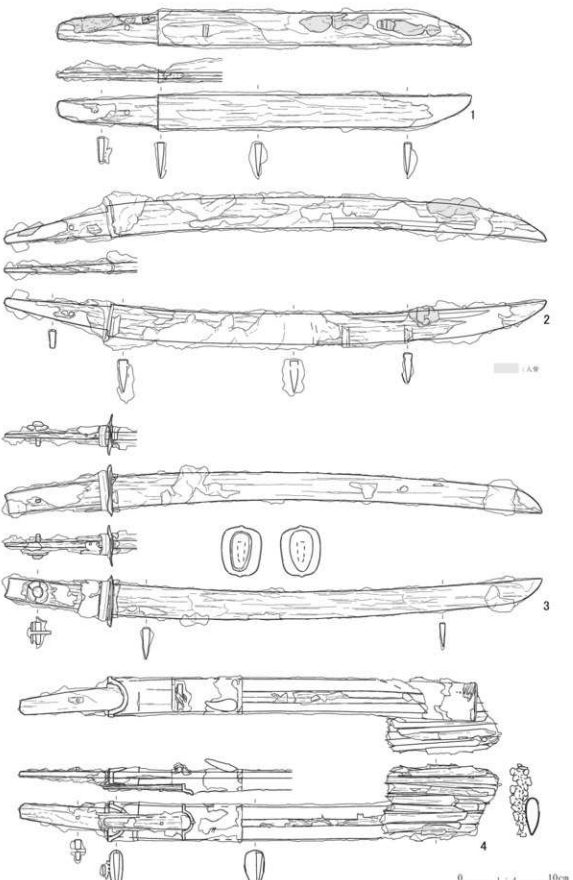
ふくらが観察できることから腰刀に分類した。鍔は薄く変形しており、鞘側の切羽は錆化して判然としないが鍔や縁金と同じ銅製と思われる。柄部には錫製の薄い板状製品が巻かれ、両端が2ヵ所ずつ柄木まで穿孔され刃部側には小さな釘がX線で認められる。この穿孔は柄木の中心にあり、合わせ目は偏って見られるため製作当初からのものとわかる。目貫は円形で座金は錫製、鋲は銅製である。4は刃長と残存する鞘の形態から腰刀に分類した。鞘が残存するため刀身形態は不明瞭であるがX線写真では両区の平棟平造りで反りは殆どない。鞘尻には骨鏃・中柄の束が28本付着している。佩表（表面）には錫製の鞘口が2ヵ所認められ、腰刀のほか目釘孔のある刀子がもう1点収まっている。刀子刀身はX線写真でも判然とせず、茎に比べ極端に刀身が短い可能性がある。断面中央部では腰刀が鞘の中で偏って収まる構造になっている。佩裏には刀子の鞘口反対側に銅製の返角と栗形が認められ、栗形には紐状の痕跡が残る。また、腰刀の鞘口との間には幅約1.5cmの浅い溝が確認できる。鞘は全体に漆が塗布され長軸中央ラインに幅約1.2cmの薄い板状の錫が装飾されている。鞘尻は錫製で先端に履かせた後、銅製の釘を1本打ち込んだ痕跡が認められる。5～7は刀子である。5は刃区が僅かに認められ鞘木表面には樹皮巻き痕が残る。刀身は切先に向かって細くなり、研ぎ減りの可能性がある。茎には目釘孔と幅1cm前後の有機質が少なくとも4巻き認められる。6は柄の表面に樹皮と思われる有機質が巻かれ刃部全体に鞘木が残る。茎はX線写真では端部に向かってやや反り、尖り気味となる。7は柄部の表面が側縁に一部見られる。刃部は中央で湾入しており、使用による目減りの可能性がある。また、木質表面に漆膜や板状錫製品が付着しているが、位置的に3、4に帰属するものと思われる。5～7の刀子は木質の鞘木、柄木が良好に残存し棟側に合わせ目が僅かに認められる。8は切先に向かって刃部幅が広くなり形状から薙刀に分類した。両区で目釘孔は刃部側に位置し、紐状のものが通った痕跡が認められる。本資料は茎から切先にかけて大きく湾曲している。管見の限りでは道内に類例を見ない。9、10は銅状製品で同一個体であるが接合しないため個々に掲載する。9は柄部で紐が巻きつけられている。10は先端部で明瞭な逆刺が認められる。11～20は象嵌装飾銅製品で形状は13、19、20が縁辺ないため不明だがほぼ円形を呈する。規模は大きく3つに分けられ、大は径約40mm（11、12）、中は径25～27mm（14～17）、小は径が約10mm（18）である。厚さは16が1mm、それ以外は0.5mmと非常に薄い造りである。12は表面に繊維が付着しており、分析の結果2種類以上の平織布を縫い合わせたことが観察できる。また、11、17は表面に擦痕が認められる。材質は14が分析の結果青銅製（第Ⅳ章第7節を参照）であるが、16のように目視で金銅製と確認できるものもある。これら象嵌装飾製品は町内のオニキシベ2遺跡3号墓に出土する矢筒や刀子のトンビ部分と思われる（町教委 2011 図Ⅱ-30・32）。21は骨鏃・中柄が12本まとまっている。全て両端を欠失しているため詳細は不明であるが裏面に鏃身部が僅かに認められるため骨鏃を含んでいることがわかる。素材は先述したⅢGP-02の骨鏃・中柄束と同じくシカの中手中足骨である。

時期 掘り上げ土に被覆する黒色土が、2～3cmであるため中世段階でも古いアイヌ文化期に帰属すると思われる。構築面から出土した漆塗膜片でAMS測定を行った結果13世紀末～14世紀の年代を得ている（第Ⅳ章第1節参照）。

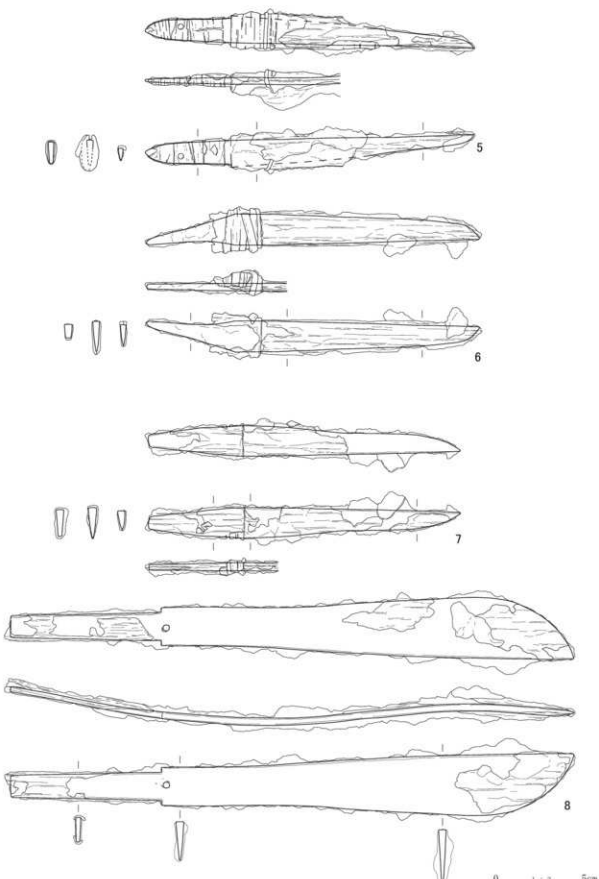
性別・年齢 男性・壮年（第Ⅳ章第2節参照）。



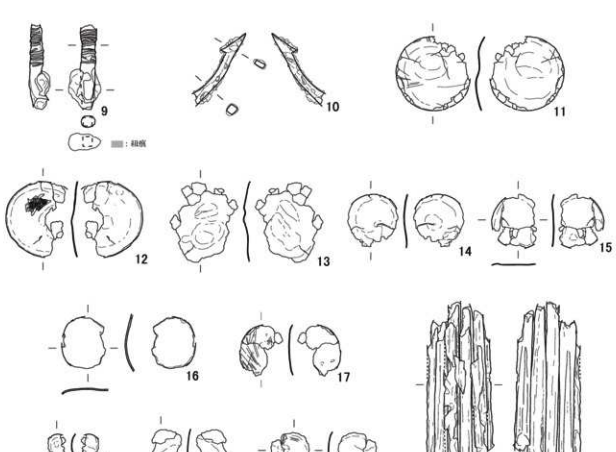
図Ⅱ-7　ⅢGP-02 主体部平面図



図Ⅱ-8　ⅢGP-02 出土遺物（1）



図Ⅱ-9　ⅢGP-02 出土遺物(2)



図Ⅱ-10　ⅢGP-02 出土遺物(3)

ⅢGP-04（図Ⅱ-11～13　カラー図版 6-1～3・12　図版 8・40・41-1）

位置：BB・BC-34・35 区　規模：〔造成部〕(420)×(230)cm　〔主体部〕173×59×38cm

造成部平面形：方形　主体部平面形：長台形　長軸方向：N-10° E　頭位方向：北

検出層位：ⅢbM

確認・調査　ⅢGP-01 と 02 の間に検出した。本遺構については当初は竪穴状造成を倒木痕による撹乱と判断していたが、トレンチを設定し掘り下げたところ、深さ 40 cm地点から金属製品が出土した。このため土坑墓であることが想定され、断面観察のため半截したところ、刀剣類が坑底面から出土した。造成範囲と合わせた断面記録後に全体を副葬品及び歯冠歯列検出面まで掘り下げた。

刀剣類については、全体に有機質が残存し樹皮巻状の痕跡も認められたため、(公財)北海道埋蔵文化財センター田口氏のご教示によりパラロイド B72（以下　B72）をアセトンで 5%に希釈した溶液を塗布し、段階的に 10%の濃度まで引き上げ歯冠歯列も同様に硬化処理を行った。

人骨及び副葬品と造成範囲の精査後に出土状態写真を撮影、微細図等の平面記録、遺物の取

り上げを行った。人骨東側に位置する小刀と刀子については互いに密着し、個別の取り上げは難しいため、ウレタンによる土壌切り取りを行っている。

調査は、主体部周囲の1段低い面を完掘して、写真撮影、平面記録を行って終了した。

造成部形態　南側は倒木及びⅢb層の削平により大半を欠失しており、ⅢGP-02との重複関係は不明である。北側はⅢGP-01と接しており、断面による新旧関係は不明であるが、微地形から読み取るとⅢGP-04が新しいと考えられる。

平面形は残存部分で420×230㎝の方形状となり、他の土坑墓と同様に西側の一辺を開放する構築である。立ち上がりについては、北・東側で緩やかに認められるが、根による影響などにより明瞭な掘り込みは確認できていない。また、主体部周囲には階段状の段差が設けられ、東側が30㎝と深く掘り込まれていることから、斜面をより平坦にするため、切土造成していたことが分かる。

主体部形態　短軸は北側が64㎝、南側が36㎝で南側に向かってすぼまる長台形を呈している。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、南北と東側に段差を設けている。主体部規模は173×59㎝で深さは西側の壁面で38㎝を図る。段丘縁辺部に構築される中で最も小規模である。

堆積状態　1・2・7層はⅢ層を主体にⅤ層を含むことから、Ⅴ層まで造成した掘り上げ土で一部は斜面へ排出し（7層）、残りは封土としている（1・2層）。8・9層はⅤ層主体で、Ⅲ層を含むことから、造成範囲内の掘り上げ土である。3層は1・2層と同様に封土であるが、Ⅴ・Ⅵ層にⅦb層を多く含み、遺体に直接被覆する。5層はⅦb層のため主体部掘削時の掘り上げ土と思われる。4・6・8層はⅦb層を含み、主体部周囲に認められる。

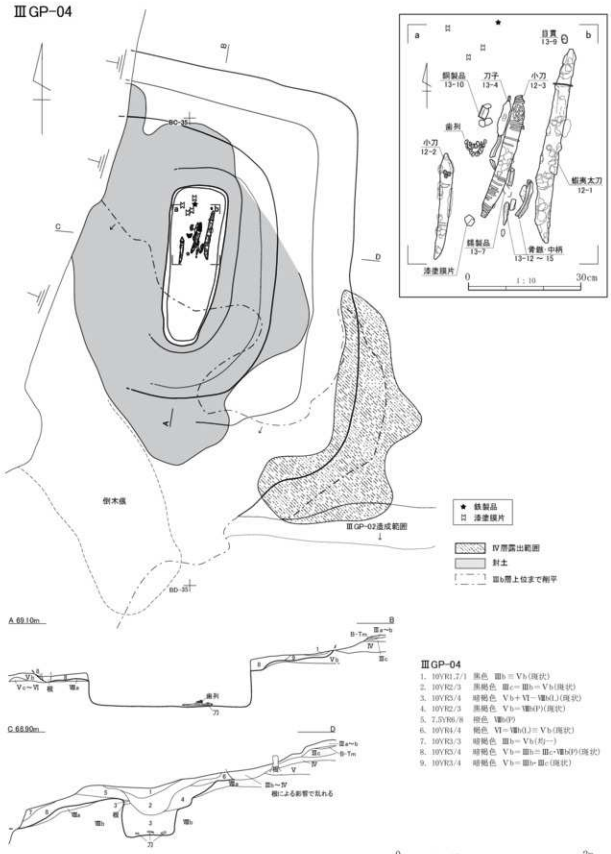
以上の堆積から、最初に竪穴状造成は主体部周囲の段差まで整地を行い、一部は周囲に排出している（7～9層）。その後、主体部を坑底面まで掘削した掘り上げ土は、遺体を安置した後、墓坑埋土の3層、次に造成面に堆積する1・2・4～8層を封土にしたと考えられる。また、歯冠歯列がほぼ噛合せの状態であること、主体部の窪みが不明瞭であったことからも充填環境であったことが推測される。

墓標穴　墓標穴については、造成部床面からジョレン精査を繰り返したが検出していない。主体部及び造成範囲内には認められない。

人骨・副葬品出土状態　遺体の遺存状態はほぼ噛合せの状態の歯冠歯列のみで、出土位置から頭位は北側と推測できる。

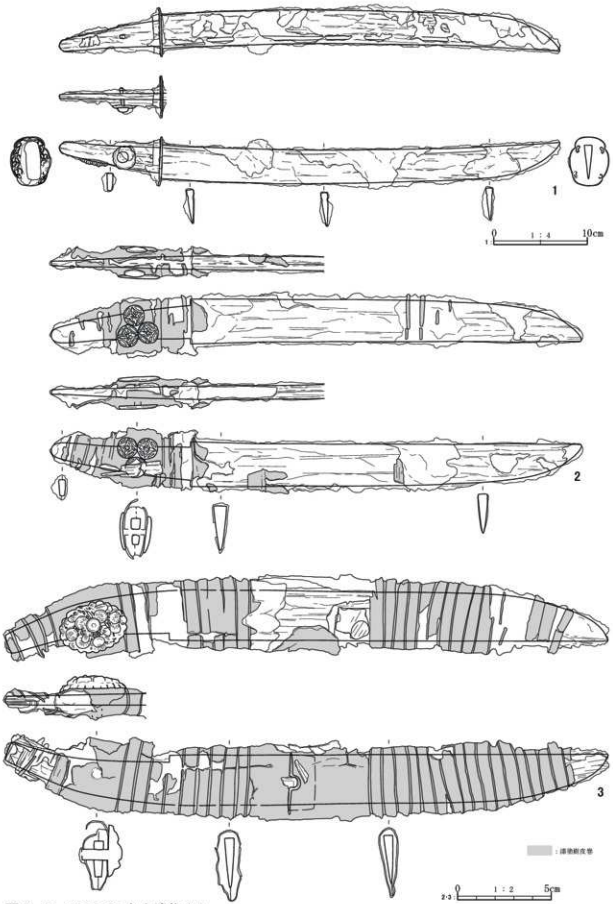
副葬品は頭部右側に小刀1本、左側に刀子、小刀、鍔製品、骨鏃、蝦夷太刀の順で目貫、刀装具なども刀剣類付近の墓坑底の同一レベルで出土している。また、主体部北側と小刀鞘付近に比較的大きな漆塗膜片が認められるが、鞘の一部を構成していたものかは判別できない。足元には副葬品は認められず全て頭骨付近に集約されている。

出土遺物　1は樋のある平棟平造りの蝦夷太刀である。鍔は銅製で鞘側に文様と四隅に猪の目調の透かしが施される。縁金と思われる膨らみは認められるが材質は不明。目貫は八弁の座金に円形の鋲（銅製）が打ち込まれる。2、3は鞘全体に樹皮を巻いた後、漆を塗布した小刀である（第Ⅳ章第7節）。2は両区で平棟平造り、切先はやや丸みを帯びる。目貫は銅製で文様は円形の七宝基調を三つ盛り構成に配したもので、両面同じ形状である。柄部の表面は比較的良好に残存しており、目貫は樹皮巻き後に装着されている。なお、表面（下側）の目貫に被覆す

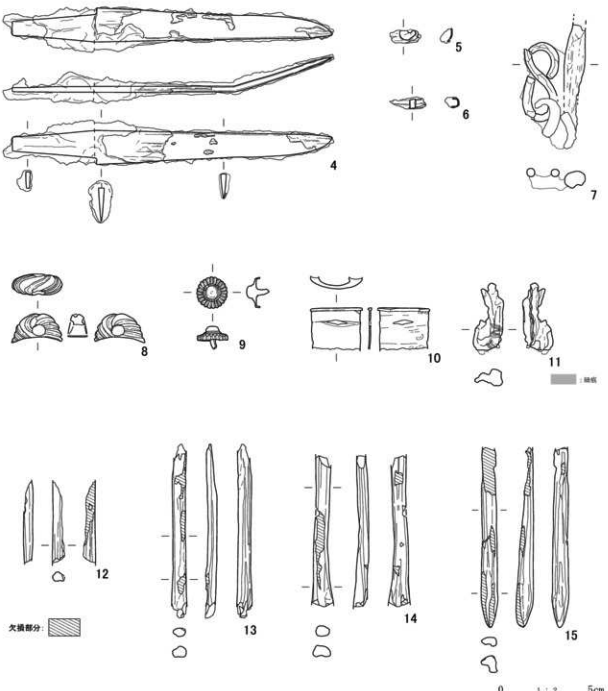


ⅢGP-04
1. 10YR1.7/1 黒色 Ⅲb＝Vb(現状)
2. 10YR2/3 黒褐色 Ⅲc～Ⅲb＝Vb1(現状)
3. 10YR3/4 暗褐色 Vb＋Ⅵ～Ⅶb(L)(現状)
4. 10YR2/3 黒褐色 Vb～Ⅶb(P)(現状)
5. 7.5YR6/8 橙色 Ⅶb(P)
6. 10YR3/4 暗色 Ⅵ～Ⅶb(L)＝Vb(現状)
7. 10YR3/3 暗褐色 Ⅲb～Vb(均一)
8. 10YR3/4 暗褐色 Vb～Ⅲb＝Ⅲc～Ⅶb(P)(現状)
9. 10YR3/4 暗褐色 Vb～Ⅲb～Ⅲc(現状)

図Ⅱ-11 ⅢGP-04平面及び断面図



図Ⅱ-12　ⅢGP-04 出土遺物（1）



図Ⅱ-13 ⅢGP-04 出土遺物(2)

る有機質は詳細不明。3 は棟区（刃区は不明瞭）の平棟平造りでほぼ全体に樹皮巻きが残存する。目貫は鉄製の鋲に金銅製で菊花の意匠である。表面（下側）の中央には銅製の鞘口？があり、これを幅広の樹皮で巻いていたと思われる。こうした資料は後述する図Ⅱ-13-10 にある刀装具としたものに類似する。X 線写真では鞘口内に金属製品が確認できないため、有機質の製品が納められている可能性がある。裏面には鞘木を直角状に切り込み、銅板を嵌め込んだ象嵌が認められる。この銅板は凸になる円形部分に顕著な擦痕が認められることから、嵌め込むため形状を平滑にしていたものと考えられる。2、3 は樹皮巻きや象嵌といったアイヌ民族特有の

技術を色濃く残している資料と思われる。3の茎表面には糸巻き状の痕跡が一部認められる。4は刀子で刀身の中程から折れ曲がっている。刃区は角区と思われるが錆のため判然としない。切先や刀身部に鞘木の一部を観察できるが柄を覆う有機質については不明である。5、6は木質に象嵌を施した柄木の一部と思われる。5が円形、6が方形を呈する。いずれも銀製。7は「S」字状を呈する錫製の耳飾（ニンカリ）である。遺存状態が非常に悪く土壌に付着したままで、隣に材質不明の骨製品が付着している。X線写真では下位にもう1個体認められるが形状は判然としない。町内のオニキシベ2遺跡の1･3号墓（町教委 2011）、ヲチャラセナイ遺跡の2号墓（町教委 2014b）で出土しており、本来は「Ω」状の形態と思われる。8は銅製（鍍金）の栗形で半円状を呈する。中央に貫通孔があり螺旋状に細工が施される。町内の上幌内モイ遺跡から類似する出土資料（町教委 2007 図Ⅱ-20-10）は骨製品であり、オリジナルから模倣や伝承という可能性が考えられる。9は同じく銅製（鍍金）の目貫、花弁状の座金で鉄との間に付着有機物が認められ、分析の結果、絹の可能性が高い（第Ⅳ章第7節）。10は銅製の飾り金具で半円状に湾曲し、中央やや上に不整形な孔と段差が認められる。11は釣針で少なくとも3本以上まとまっており、糸も観察できる。12～15は骨鏃･中柄で遺存状態は不良であるが面取りを確認でき、13は鏃身部と思われる変換点と断面形から骨鏃の可能性が高い。ⅢGP-02と同じくシカの中手中足骨を素材としている。

時期　掘り上げ土より上層のプライマリーな黒色土層厚は不明であるが、頭位方向や、造成形態からⅢGP-01･02とほぼ同じ時期に属すると思われる。土坑墓より検出した漆膜片2点（1点は6804の小刀付着の漆膜）のAMS測定の結果も13世紀末～14世紀の結果を得ている。詳細な新旧関係では先述したように、微地形からⅢGP-01よりは新しいものと思われる。

性別･年齢　女性･9才±24ヶ月（第Ⅳ章第2節参照）。

ⅢGP-05（図Ⅱ-14～19　カラー図版6-4～6･7･13～15･16-1　図版9･41-2･42～44）

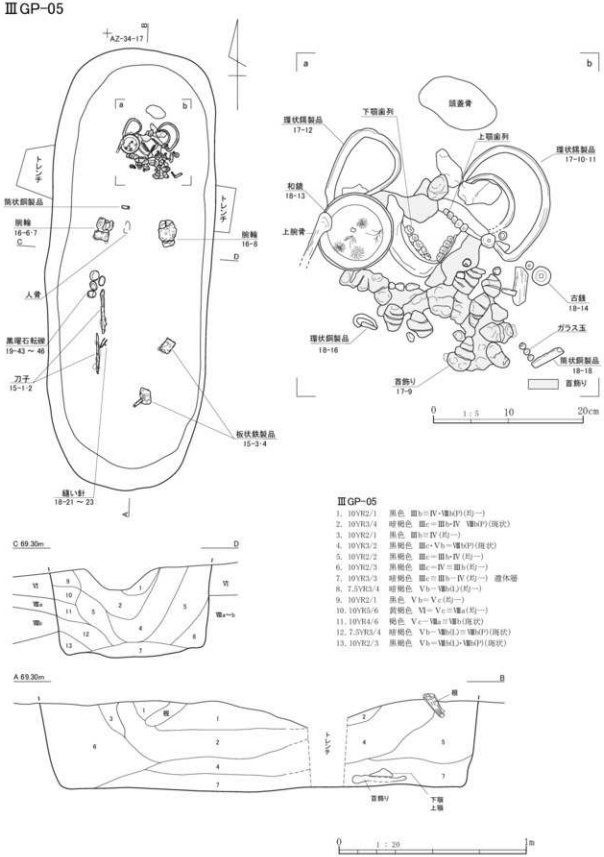
位置：AZ･BA-34区　規模：〔造成部〕－　〔主体部〕234×87×45cm

造成部平面形：不明　主体部平面形：楕円形　長軸方向：N-4° W　頭位方向：北

検出層位：Ⅵ(縄文時代調査時に検出)

確認・調査　ⅢGP-05を検出したAZ･BA-34区付近は、Ⅲa層段階で現代の木根が多く、竪穴状遺成も認められなかったため、包含層調査で掘り下げていた。後に主体部と判明した地点は、Ⅳ層除去時に大きな窪みを認めたが、縄文時代起源の焼骨片が混入していたため倒木等の撹乱と判断していた。そのため、本遺構は縄文時代の遺構確認トレンチで検出している。

遺構確認のため窪みの短軸中央付近を掘り下げたところ、坑底面直上に金属製品が出土した。壁面の立ち上がりと合わせて土坑墓と判断し、長軸ベルト(南北)の設定後、4分割で副葬品検出レベルまで掘り下げ、断面確認を行った。ベルト除去後、人骨及び副葬品の精査を行った。全体の完掘写真及び平面、微細図等の記録を行った後、中央から南側の遺物を取り上げた。北側の頭部付近については、副葬されていた和鏡の防腐効果により下顎の遺存状態が良好であったため、北海道文教大学准教授、白幡知尋氏に現場段階で人骨の状態確認をして頂き、上顎などはこの時点で取り上げを行っている。下顎については他の副葬品と癒着しているため後日引き渡しとなった。北側の副葬品については、和鏡、ガラス玉、銅製品などは取り上げたが錫製



図Ⅱ-14 ⅢGP-05主体部平面及び断面図

品や鉄製首飾りなど現地での取り上げが困難な資料は、座標の記録を行い、B72で30%の濃度まで硬化処理を行い、土壌ごと切り離し室内で補強を行った。調査は遺物取り上げ後、周囲の墓標穴を確認して終了とした。

造成部形態　不明。

主体部形態　長軸234㎝、短軸87㎝の楕円形を呈する。深さは45㎝、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。Ⅵ層で検出したため他の土坑墓に見られる階段状の構築は認められない。

堆積状態　1～6層はⅢb・Ⅲc主体で、Ⅳ・Ⅴ層を含む。殆どⅧ層を含まないことから、主体部上位の土を最後に封土としている。7層はⅢc層主体でⅢb、Ⅳ層を均一に含む遺体層である。C-Dラインでは8～13層がⅧ層を斑状に含み、埋め戻されたものとわかる。9・10層はⅤ層を含むことから、2・5層と分層したが同様の封土と思われる。

主体部の窪みは顕著で、下顎も原位置からやや移動しているため、空隙環境の可能性も考えられるが、断面では棺等の層界は認められない。

墓標穴　頭位方向を複数回精査したが検出には至らなかった。

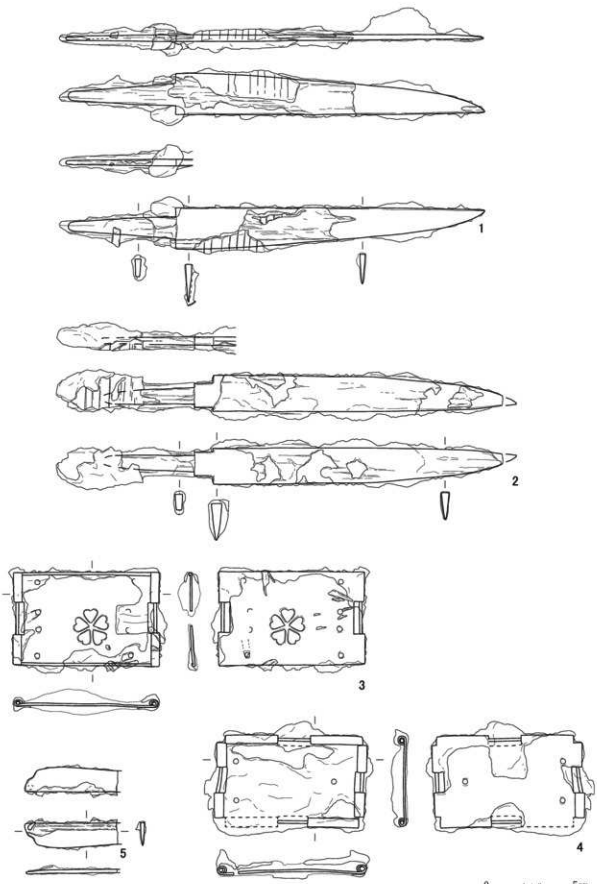
人骨・副葬品出土状態　人骨の遺存状態は頭蓋骨の下顎、上顎が良好で、胸部、下半身は痕跡がほぼ認められない。下顎については、右頬辺りに和鏡が出土しており、その防腐効果によって非常に残りが良い。歯列は上顎も左方向に大きく傾く。和鏡の上には右上腕骨の一部が重なっていることから、移動したものと思われる。

副葬品は下顎右頬付近に和鏡、耳部付近に環状鋲製品が左右1対認められ、1つは2重となっている。この他、首を廻るように鉄製の鎖状製品2連と首飾り、周辺にガラス玉、円筒状銅製品、古銭が認められる。鉄製の首飾りは、表面に凹凸が見られ、室内でクリーニングした結果コイル状装飾品を連ねたものであった（図Ⅱ-17-9）。ガラス玉も古銭や銅製品と共に首飾りの構成を成し、被葬者は2連の首飾りを装着した状態で埋葬されていたと思われる。和鏡と下顎の間には毛皮製品とした有機質が認められ、一部は下顎に付着していたが遺存状態が悪く詳細は不明。和鏡と毛皮製品の関係については和鏡上位に有機質の痕跡が目視できない事から下に敷いていた、又は首から肩にかけてまとまっていた服飾品の可能性もある。これら2点が首飾りの構成に含まれるかは判然としない。

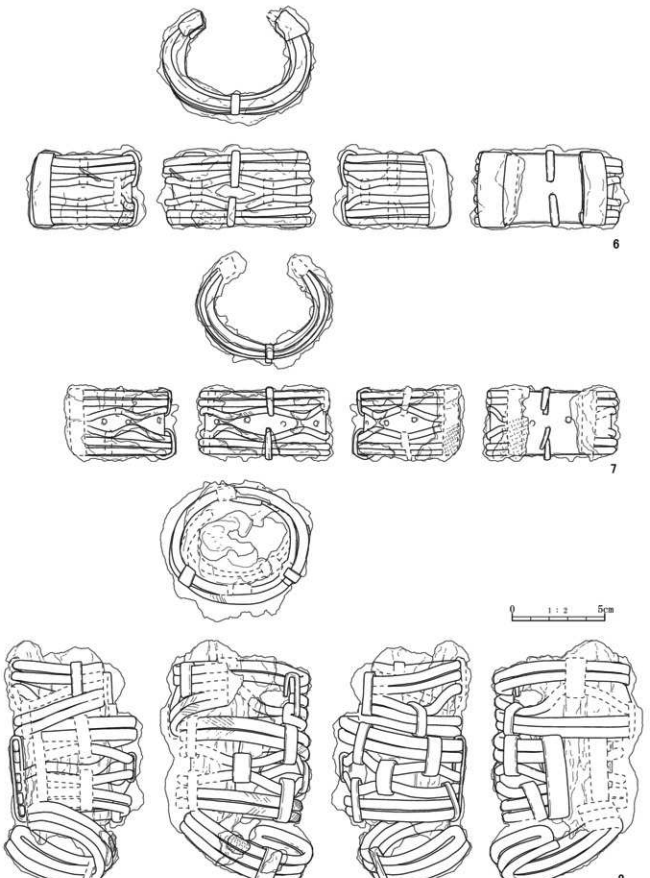
土坑墓中央付近には鉄製の腕輪が2個1対で出土し、左側には橈骨、尺骨が認められ、両腕を体幹側面に下げた装着状態であったことが分かる。右腕の腕輪南側には黒曜石の転礫が4点出土し、うち1点は打ち欠きが認められる。黒曜石を副葬する事例としては、町内で上幌内モイ遺跡のⅢGP-03（町教委 2007）、オニキシベ2遺跡のⅢGP-04（町教委 2011）が挙げられる。その南側には刀子が2本縦列し、南側の刀子付近には縫い針が出土し1本は倒立していた。出土位置は腕輪との関係から大腿骨から脛骨にあたり、縦方向に並ぶことから、右足に添えて副葬したものと思われる。その他、左足付近に2枚の板状鉄製品と木質と釘が付着する板状鉄製品が出土する。本遺構については、和鏡や首飾り、縫い針などから女性的な副葬品が多く同定結果と矛盾しない。

出土遺物　1は両区の刀子で刃部は切先に向かって直線気味。鞘木の表面には樹皮巻きの痕跡が見られる。柄木と鞘木には段差が認められ幅2cm程の縁があった可能性がある。柄木の中心付近には銀製と思われる装飾品が付着している。2は2段の両区が認められる刀子である。

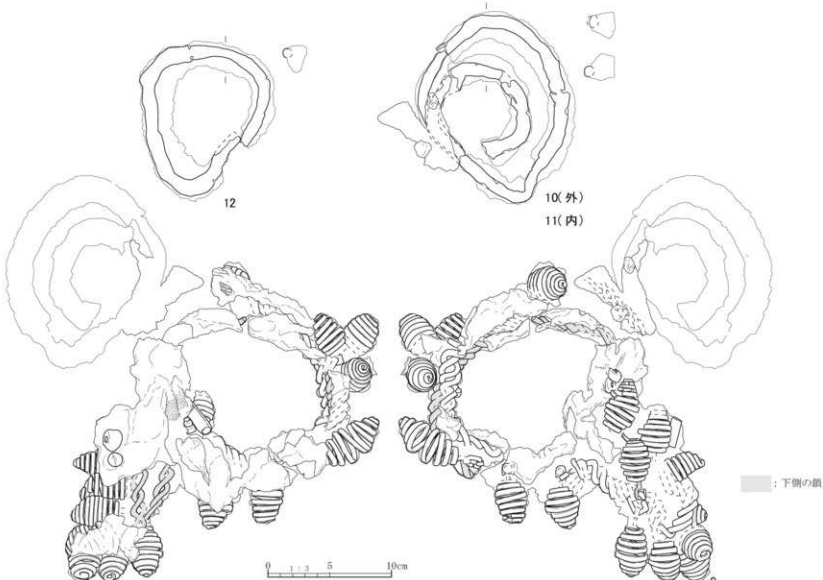
切先は欠損しており茎形状は不明瞭。柄木の表面には樹皮巻きの痕跡が見られ、その上に更に別の有機質が付着する。1、2 ともに合わせ目が確認できる。3、4 は板状鉄製品で 3 は短軸の 2 辺に、4 は 4 辺に細い棒状の鉄を縁辺部から巻き込んでいる。3 の長辺は棒を巻き込んでいないため折り返しているのみで中央やや右下寄りに猪の目調の透かしがある。穿孔は縁辺付近に見られるが 3 の方が多く X 線では紐痕が僅かに認められる。いずれも錆膨れが著しく有機質に覆われていた可能性がある。5 は不明な板状鉄製品。1 辺が薄く刃部のような形状を示し、棟側は平坦。端部に釘が認められ木質は表面に明瞭、裏面は有機質が付着している。青森県などで古代から中世にかけて出土例がある苧引金や穂摘具の可能性がある。6～8 は腕輪（テクンカニ）で 6、7 は右、8 は左腕の装着であった。腕輪の構造は鉄線に捻りを加え、表面が螺旋状になったものを袋状に湾曲させ留具で固定している。1 個の単位は 6 本が主体である。いずれも 1 本 1 本に捻りが認められるが、有機質に覆われているため顕著な部分しか図示していない。6、7 は内側に帯状の鉄板が 1 枚認められ、これに捻った棒状鉄製品を巡らせている。端部は帯状の鉄板で束ねて固定している。モチーフは 2～3 本を留具でまとめて波状を描いている。破線の留具は X 線と目視で推定できる箇所である。7 は帯状の鉄板に穿孔が認められ幾つかは留具が入り込み裏面は曲げて留めている。6 は表面、7 は裏面の端部に、後述する 8 にも織物痕が残る（カラー13-2）。8 は上段（5 本）、中段（6 本）、下段（3 本）の 3 つで構成されている。内側に鉄板はなく留具のみで作出している。下段の 3 本のうち 1 本は折り曲げて 2 段にしていると思われる。装着した状態であったため内側には人骨が付着し、裏面は錆のため不明瞭となる。町内の事例ではオニキシベ 2 遺跡のⅢGP-01（町教委 2011　図Ⅱ-18-10･11）から 2 点出土している。9 は鉄製の首飾りでコイル状装飾品が 18 個連なる。首飾りは二連の鎖で構成されているように見えるが、太さや捻れ間隔に大きな違いは認められず、一連の鎖を 2 重にして巻いている可能性も考えられる。コイル状装飾品は基部が鉤状になっており、鎖に環状（方形）の金具で互いを固定している。首飾りの表面（右側）にはガラス玉 2 個、筒状銅製品 1 個、裏面にはガラス玉 4 個、筒状銅製品 1 個、円形有孔銅製品 1 個が付着している。こうした状態からコイル状装飾品を連ねた首飾りとガラス玉、銅製品、古銭で連ねた首飾りを一緒に装着していたことがわかる。裏面には織物痕が見られ材質は不明であるが、位置的に服の襟元と思われる。10～12 は錫製環状製品で首飾りの左右に副葬されていた。10 と 11 は 2 重に認められるが、結接部は首飾りの鎖部分に付着しており構造は不明。12 は単体であるがいずれも遺存状態が悪い。材質は錫鉛合金。13 は和鏡で 12 世紀中葉の秋草双鳥文鏡（国立歴史民俗博物館 村木二郎氏のご教示）。背文は菊、すすきと 2 羽の鳥（尾長鳥？）が同一方向にはばたいている構図。紐に意匠はなく花弁状の房が巡り、単圏で器厚は 1～2mm と非常に薄い。背文左側の縁には内側から外側に向かってやや傾斜する形で、径約 2mm の穿孔が認められる。この穿孔は内側から外側に向かっており、これに伴うめくれが僅かに認められる。また、背文の下側がやや歪な形状を示しているため、湯口の可能性も考えられる。鏡面は組紐と布状の有機物が部分的に残存しており、基本的に組紐の上に布が重なる。その他、毛髪の痕跡も一部認められたため図示している。また、背文も鏡本来の錆（黒い光沢）とは異なる錆（深緑）が認められ、有機物が付着していた可能性がある。背文には一部シカと思われる獣毛も検出されている（第Ⅳ章第 7 節）。14、15 は古銭で 14 は熙寧元寶（初鋳 1068）、15 は元豊通寶（初鋳 1078）。16 は切羽と思わ



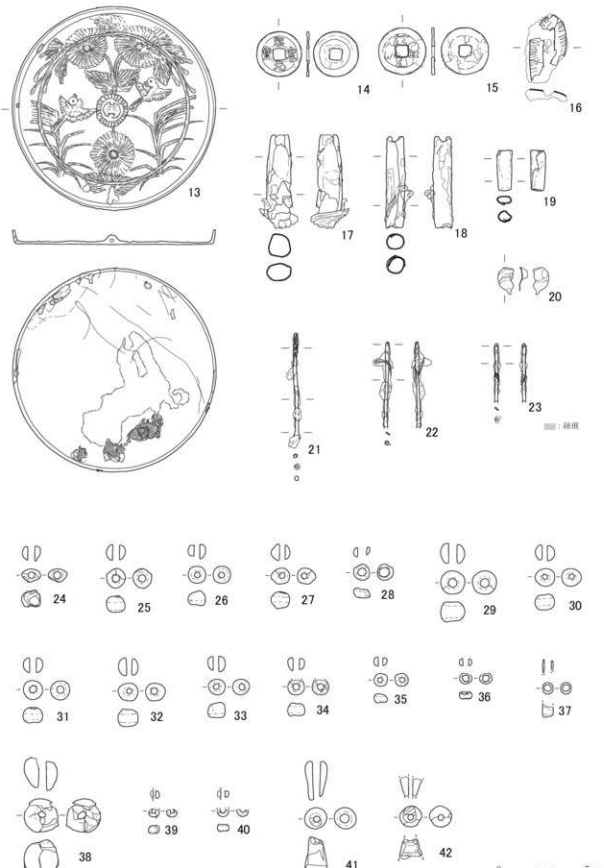
図Ⅱ-15　ⅢGP-05 出土遺物(1)



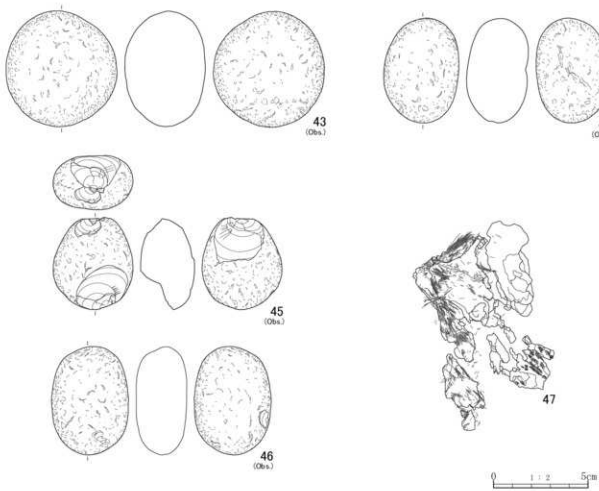
図Ⅱ-16 ⅢGP-05出土遺物(2)



図Ⅱ-17 ⅢGP-05 出土遺物(3)



図Ⅱ-18 ⅢGP-05 出土遺物(4)



図Ⅱ-19　ⅢGP-05 出土遺物（5）

れるもので非常に薄く放射状に不明瞭な文様が認められる。17～19 は筒状銅製品で板状素材を丸めて製作しており、内側が 2 重となる部分もある。17 の端部に樹皮または木質の一部が付着しているが詳細は不明。19 は端部に平織布と考えられる有機質が付着する（第Ⅳ章第 7 節）。20 は和鏡の鏡面側に付着していた板状銅製品。21～23 は縫い針で 21 は接合する。22、23 は針孔も確認でき、いずれも紐状の痕跡が認められる。24～42 はガラス玉でいずれも表面の風化が著しく、規格についても明瞭な分類に至らないが、38 のように直径 18mm ある大型のもの、41、42 の滴玉と少なくとも 3 種類認められる。色調は風化による白濁を前提として僅かに観察できる箇所から 24～30、42 は透明、31、32、40、41 は青色系（31、32 は透明度有）、33 は茶系、34～39 は白～乳白色を呈する。ガラス玉の製作技法については 27、28 が表面に横方向の線状痕、30、32、41 が風化による横方向の剥落が顕著であることから巻き付け技法であると思われる。36、37、39、40 はほぼ軸心だけ残り遺存状態は特に悪い。成分は X 線に写り込むことから鉛ガラスと思われる。ガラス玉については掲載以外に首飾りに少なくとも 6 点が癒着している状態である。43～46 は黒曜石転礫で 45 のみ両端を打ち欠いており、産地同定では上士幌系という結果を得ている（第Ⅳ章第 5 節）。47 は和鏡下に出土した毛皮製品としたものである。獣毛は互いに直行する部分も認められるが遺存状態が悪く詳細な形状は不明。獣毛は電子顕微鏡

観察の結果ヒグマの可能性が示唆される（第Ⅳ章第７節）。本資料は和鏡と首飾りに狭在していたため下位にはコイル状装飾品１点を包括しており、環状鍚製品も一部付着している（カラー15-2）。

性別・年齢　女性・壮年（20才代）（第Ⅳ章第２節参照）

時期　上位掘り下げのため、封土に被覆する黒色土の層厚は不明であるが、頭位方向や副葬品から中世アイヌ文化期でも古い段階と思われる。

ⅢGP-03（図Ⅱ-20～23　カラー図版5･16-2 図版6･7･45･46）

位置：BL-32区　規模：〔造成部〕398×385㎝　〔主体部〕171×65×37cm

造成部平面形：円形　主体部平面形：長台形　長軸方向：N-73°E　頭位方向：東北東

検出層位：ⅢbU

確認・調査　火山灰除去の段階でTa-bテフラが環状に廻る範囲とその中心に溝状の窪みが認められた。同様の検出状態は町内の上幌内モイ遺跡でも確認されており（町教委2007）、調査前からアイヌ墓の存在を把握できた。調査は北側の土坑墓群と同様、窪みを中心に10m四方を２㎝コンターで記録した。この微地形の段階で造成範囲内に墓標穴の窪みを確認しているが、主体部の中心を優先して十字トレンチを設定した。

竪穴状造成範囲については、Ⅴ層上面までトレンチを掘削し断面確認している。主体部については人骨及び副葬品検出地点で一度断面の記録をとり、ベルトを外して面的に掘り下げている。人骨はトレンチの段階で良好な遺存状態であることが分かり、マスク、ゴム手袋、帽子を装着して慎重に精査している。墓標穴の半截と封土を残した状態で出土状態写真、平面の記録を行っている。人骨については、完掘後の劣化を考慮し、ⅢGP-01･02同様バインダー17を5%に希釈したものから段階的に30%の濃度まで硬化処理をし、取り上げを行っている。

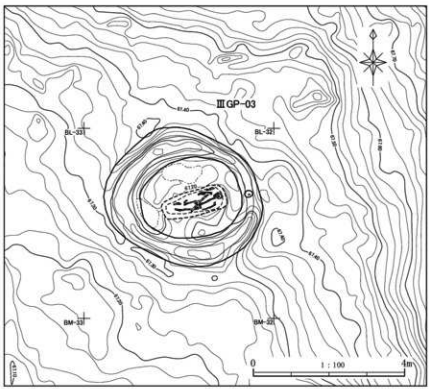
副葬品についても、脆弱資料となる骨鏃・中柄や漆椀塗膜片などは同様の薬品で硬化処理したものを土壌ごと取り上げ、室内でクリーニング処理している。人骨・副葬品を取り上げた後、造成範囲の封土を掘り下げ、構築面の記録をとって調査終了とした。

造成部形態　平面形は398×385㎝の円形であるが、北西側にやや歪な形状を呈している。造成範囲の外側には掘り上げ土は認められず、主体部を中心に封土としてマウンド状に盛り上げているため、あたかも溝を廻らしているような外観を呈している。

造成範囲の立ち上がりは緩やかでⅢb～Ⅲc層上面まで掘り込まれている。また主体部周囲の北西側に段差が認められ、北側の土坑墓群と共通要素が認められる。

主体部形態　短軸東側が55㎝、西側が45㎝の長台形を呈する。主体部長軸は171㎝と今回検出した中では最も規模が小さい。壁面の立ち上がりは短軸ではほぼ垂直、長軸ではやや外傾して立ち上がる。

堆積状態　1～3層はⅢ･Ⅳ層主体で主体部全体に被覆する封土で、3層は西側のみ見られる。4～6層は壁面にブロック状に埋め戻された層で、7･8層はⅢc層を主体として全体を被覆している。9層は遺体層で粘性が強い。10層は封土縁辺に堆積しており、造成範囲を埋め戻さない程度に浅く認められる。この10層は四方に認められるため、もともと1～3層上位に堆積していた封土が縁辺に流れ込んだ可能性も考えられる。人骨がほぼ原位置を保っていること、確認面



図Ⅱ-20　ⅢGP-03周辺地形測量図

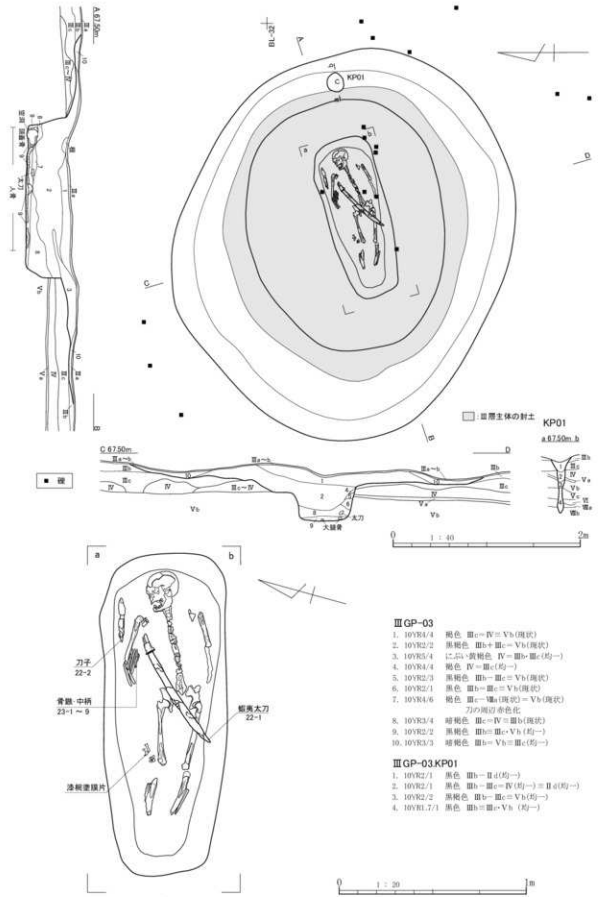
での窪みが顕著ではないことから充填環境と考えられる。

墓標穴　頭位方向の延長線上、造成範囲と封土の境界の溝状部分に認められる。深さは 54 ㎝、直径は約 10 ㎝の打込みタイプである。Ⅲb 層主体の堆積で掘り方は認められない。

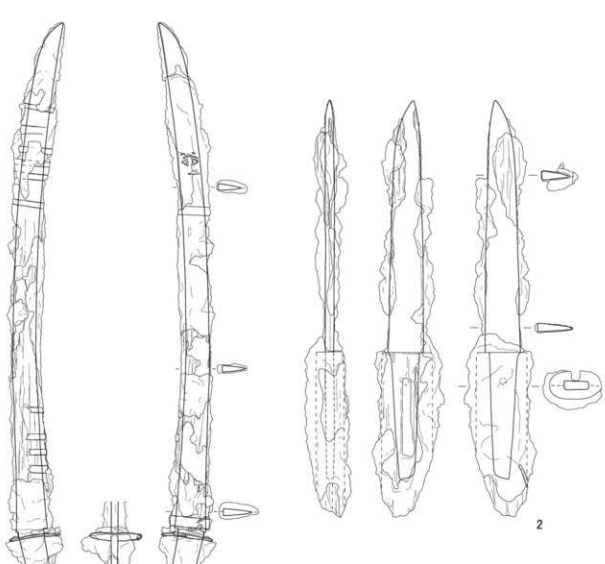
人骨・副葬品出土状態　頭位が東北東の仰臥伸展葬である。遺存状態は良好で、頭蓋骨から脊髄、上腕骨、大腿骨、脛骨とほぼ完全に残る。土坑墓は上幅 171 ㎝で、遺体は身長 130 ㎝前後と推定され、頭蓋骨が東側壁面に付くほど密着して埋葬されている。

副葬品は遺体の上にたすき掛け状に蝦夷太刀が 1 振、右ひじの内側に骨鏃・中柄の束、右肩付近に刀子が副葬されている。刀剣類はいずれも切先を西側(下)に向けている。足元には右膝のあたりに漆椀塗膜片が認められるが、状態が悪く表裏面も不明である。

出土遺物　1は両区で平棟平造りの蝦夷太刀で、刀身幅は中央で約 2.4㎝と身幅が狭くなる。鍔は銅製で薄く中央部まで割れており文様はない。鞘木表面には有機質、おそらく樹皮と思われる留具が数ヵ所確認できる。また、鞘木の中央からやや切先側に漆膜状の文様が僅かに認められ、鍔と鞘口の間には紐状の有機質が残存する。茎には単位不明であるが紐状（繊維状）の有機質を巻き付けた痕跡が認められる。2 は柄木が残る刀子で X 線では目釘孔が認められる。柄木には長さ約 40㎜、幅約 6㎜の溝が認められ、表面に別の有機質が付着しているため形状がやや歪である。棟区は明瞭だが刃区は不明瞭である。1～4 は骨鏃で 1、4 は比較的鏃身部が長い。1、3 は腹面に 4 は背面に金属利器による加工痕が残る。5～9 は端部不明瞭であるが明瞭な鏃身部がないことから中柄とした。いずれもシカの中手中足骨を素材とし基部は丁寧に面取りされているものが多い（3～7）。形状は取り上げ後の保存状況により変形が著しく湾曲しているが、本来は 3 のように直線状である。漆椀塗膜片については遺存状態が非常に悪く、形状



図Ⅱ-21 ⅢGP-03平面及び断面図

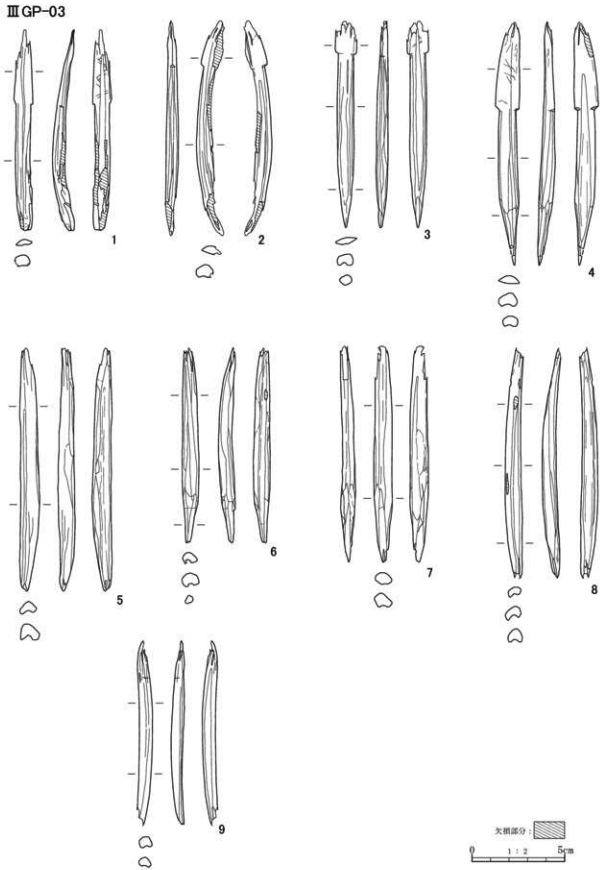


図Ⅱ-22　ⅢGP-03 出土遺物（1）

をとどめていないことから一部を年代測定用試料とし、遺物については図示していない。また、図Ⅱ-21 の平面図に分布している礫については、土坑墓構築の際に掘り上げられた下層（擦文文化期）の遺物であるため、実測図は掲載していない。

時期　封土に被覆する黒色土Ⅲa～b 層が約 1 ㎝堆積しており、頭位方向と、墓標穴が認められることから中世アイヌ文化期の中でも新しいと思われる。また、副葬品の漆椀塗膜片で AMS 測定を行った結果 16～17 世紀という結果で、他の土坑墓との関係を肯定する（第Ⅳ章第 1 節）。

性別・年齢　男性・熟年（第Ⅳ章第 2 節参照）。



図Ⅱ-23　ⅢGP-03 出土遺物（2）

第2節　集中区

本節で掲載する集中区は焼土、土器、礫などが同一層位から近接して出土し、周辺に比べ遺物分布密度が濃い範囲である。

今回の調査では、調査区南側の平坦面に焼土3ヵ所、土器集中1ヵ所、礫集中1ヵ所を含む集中区1と、上幌内1遺跡に面した北側斜面に棒状礫を主体とした遺物が集中する集中区2の合計2ヵ所検出している。以下に詳細を記載する。

集中区1(図Ⅱ-24～26　図版10・11-1・2・47)

位置：BH～BJ-32～34・BK-33・34区　規模：1,440×1,185㎝

立地：発掘調査区中央部よりやや南側の平坦面。

関連遺構：焼土　ⅢF-01～03　土器集中　ⅢPB-03　礫集中　ⅢSB-01

確認・調査　BHラインより南側のⅢb層下位掘削時に、礫集中(ⅢSB-01)とその西側に土器集中(ⅢPB-03)を検出した。集中遺物の精査と同時に周辺を同一レベルまで掘り下げると、礫集中の北東側に焼骨片が広がる範囲を確認した。トレンチによって下位に焼土を検出したため、ⅢF-01～03を付番した。これら集中遺物や棒状礫は焼土の南側に分布し、BKラインを境に殆ど遺物が出土しないことから、この範囲までを集中区1として調査している。

平面の記録は各遺構の精査が終了した段階で全体の撮影を行い、次に遺構単体の撮影、断面、平面記録、遺物の取り上げを行って調査終了とした。なお、焼土については燃焼面の土壌をフローテーションサンプルとして回収している。

焼土〔ⅢF-01〕(図Ⅱ-24)　位置：BH・BI-33区　規模：62×26×10㎝　検出層位：ⅢbL
〔ⅢF-02〕(図Ⅱ-24)　位置：BH-33区　規模：32×22×4㎝　検出層位：ⅢbL
〔ⅢF-03〕(図Ⅱ-24・25)　位置：BI-33区　規模：58×58×10㎝　検出層位：ⅢbL

Ⅲb層下位で、南北に細長く広がる焼骨片範囲を検出し、長軸方向にトレンチを設定し掘り下げたところ、焼土及び灰層を検出したため南側を01、北側を02と付番した。更にトレンチを南側へ延長したところ、Ⅲb層を被覆する形で被熱層を検出したためⅢF-03と付番して断面の記録を行った。

1層はⅢF-01、02の被熱層上位に認められる焼骨片を少量含むⅢb層。2層は色調が明るい被熱層で焼骨片を微量に含む。3層は灰層で、現代の根による影響により上層のⅢb黒色土がやや落ち窪む。7層はⅢF-02の弱い被熱層。8層はⅢF-03の被熱層で9層は付帯黒色土。ⅢF-03は上位に焼骨片が認められず、中央が窪むことから掻き出しを行った可能性が考えられる。

これら焼土群はN-4°-Wでほぼ南北軸を示し、検出層位から同時期と考えられる。礫集中との位置から平地式住居跡が想定されたため、焼土を台状に残しⅢc～Ⅳ層で柱穴確認を行ったが検出できなかった。

土器集中〔ⅢPB-03〕(図Ⅱ-25)　BI-34区を掘り下げたところ、Ⅲb層下位で擦文土器の細片が出土した。範囲を確認するために、精査を行ったところ、約75×65㎝の範囲でまとまって出土した。土器は全て細片のため、写真撮影後、座標点による記録で取り上げを行って調査終了した。

礫集中〔ⅢSB-01〕(図Ⅱ-25)　BI-33区で棒状礫が出土していたため、範囲を確認するため

全体を掘り下げたところ、Ⅲb 層下位でまとまりを検出した。分布はⅢF-03 の南西側に不整形な広がりを示し、構造物に沿うような痕跡は認められない。

出土遺物（図Ⅱ-26-1～18）　1～3 は同一個体片で、ⅢPB-03 から出土したⅧ群 B3c 類の擦文土器の甕である。1･2 は胴部からほぼ直立し、口縁部で大きく外傾して「く」の字状に立ち上がる。口縁部文様帯には浅い横走沈線文を施文後、2 段の矢羽根状の刻みが施される。胴部文様帯には、間隔が密な斜位沈線文と 1 条または 2 条 1 対の斜位沈線文を 2 段施文し、間を 2 条 1 対の横走沈線文と刻み列によって区画している。その下位には、馬蹄形押捺文を施す 2 段の貼付圏繞帯が廻る。また、口唇部直下、胴部文様帯の区画帯それぞれに馬蹄形押捺文を伴うボタン状貼付文が施される。3 は同一個体の底部で変換点は角状となり、立ち上がりはやや外反する。器表面には僅かにハケメ調整が認められる。

4 は台石に分類され、表面の稜部分は円形に窪むほど敲打が進んでいる。側縁に敲打痕が認められるためたたき石の可能性も考えられる。5 は台石で、厚みのある不整形な礫を素材として片面に敲打痕が認められる。6 は加工痕のある礫で、端部からの加圧により縦方向の剥離が認められる。石材は全て砂岩製である。7～18 はⅢSB-01 出土の完形礫の一部で、規模は平均で長軸 65.4 ㎜、短軸 33.7 ㎜、厚さ 22.3 ㎜で長短比は 2.0 である。完形 37 点の内、長軸の標準偏差が 15 ㎜を越える礫は 4 点と規格的に集められた構成礫と考えられる。石材は表Ⅱ-8 に記載しているが、欠損品も含めて殆どが砂岩製である。　（1～3：奈良　4～18：宮崎）

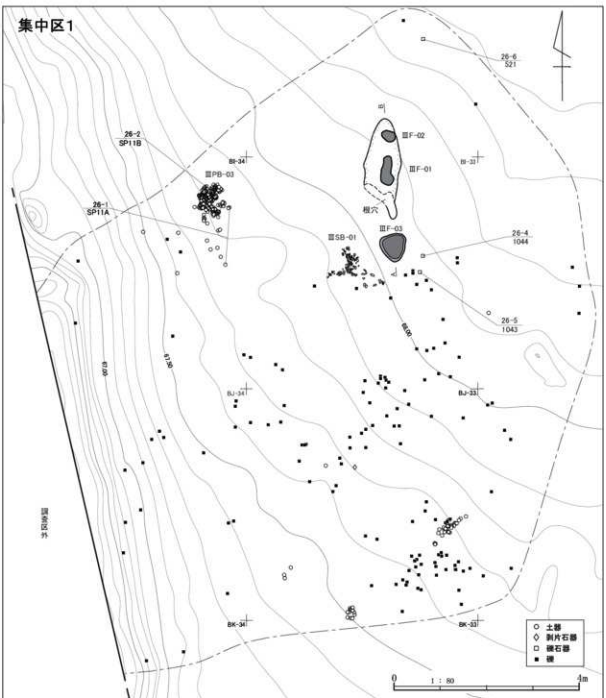
集中区 2（図Ⅱ-27～30　図版 11-3～5･12･48･49-1-1）

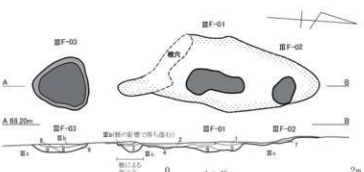
位置：AZ～BB-19～23 区　規模：1,850×1,080 ㎝　検出層位：ⅢbL

立地：調査区北側の小沢に面する急斜面。

確認・調査　本遺構に関しては、北側斜面の一定範囲に遺物がまとまって出土することから、捨て場の可能性を踏まえて集中区とした。遺物の構成は棒状礫が大多数を占めているが、中には擦文土器、金属製品を含み、時期を推定できる資料が出土している。このような出土状態から、本節で報告する。

調査は遺構確認範囲で平坦面の耕作土及びⅥ層を除去する際、北側斜面の地形･地質確認のため 1m程度斜面下まで掘り下げた。平坦面ではⅧ層まで削平を受けていたが、斜面では Ta-b テフラ下位にⅢ層黒色土が残存していたため、座標単点による地形測量を行い、Ⅲa 層から掘り下げたところ、Ⅲb 層中位から下位にかけて、擦文土器数点と棒状礫が多量に出土した。遺物の分布状態から斜面下、東側へ広がることがわかり、東西範囲を把握するため東側の表土を重機で除去した。その結果、東西は上記の範囲で分布が認められ、重機ですき取り可能な約 4 m下位まで一度に精査、写真撮影、遺物取り上げを行った。精査の際、遺物がさらにまとまる 21～23 ラインをフローテーションサンプルとして 1m幅に区切り、遺物出土と同一レベルのⅢb 層中位から下位の土壌回収を行った（図Ⅱ-27）。斜面上位をⅥ層～Ⅷ層まで掘り下げ、調査完了写真を撮影した後、重機で段丘面を掘削し、下位の調査に移った。斜面下には開析する小沢で谷底地形状を呈しており、遺物包含層の更なる広がりが想定された。このため、トレンチ①～③で断面確認した結果、水流による流出の影響で包含層が残存していないため、斜面の掘削完了をもって調査を終了した。

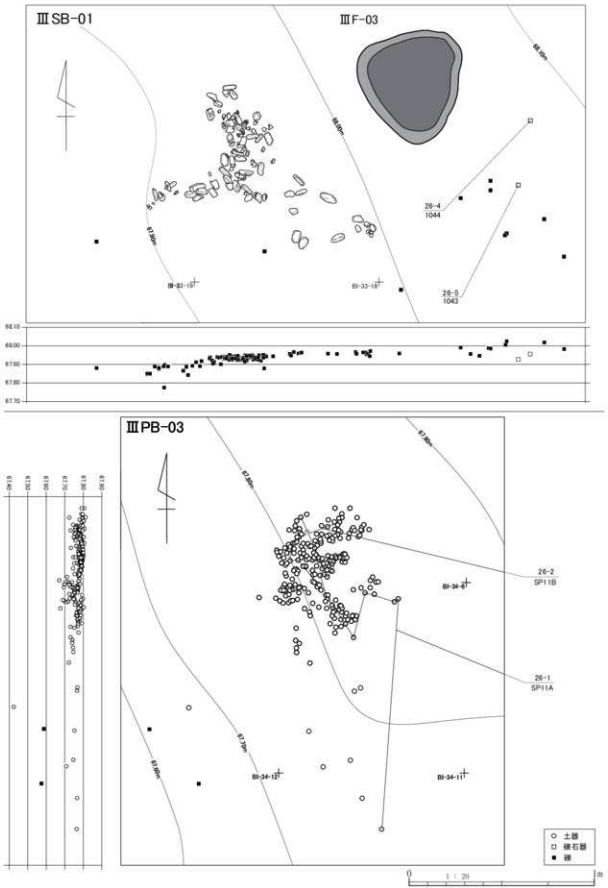




ⅢF-01～03

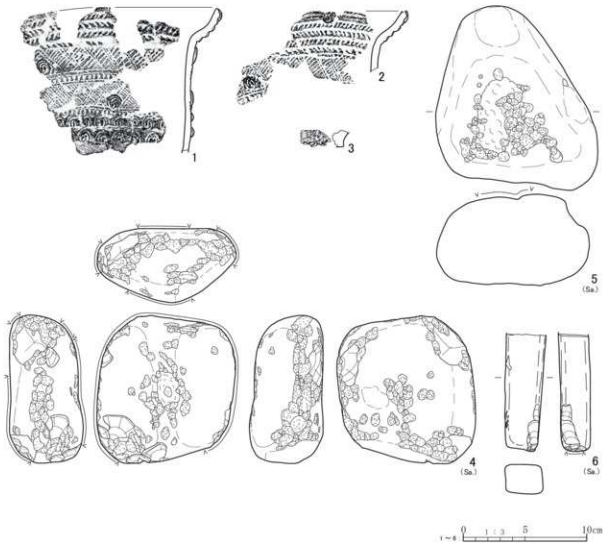
1. 10YR2/1　黒色　Ⅲb＝焼骨片(灼一)
2. 7.5YR5/6　明褐色　被熱層＝焼骨片(灼一)
3. 7.5YR6/3　にぶい褐色　灰層＝Ⅲc(斑状)
4. 10YR3/4　暗褐色　Ⅲc～Ⅲb(斑状)＝焼骨片
5. 7.5YR4/6　褐色　Ⅲc被熱層
6. 7.5YR4/4　褐色　Ⅲc～Ⅳ被熱層
7. 7.5YR3/4　暗褐色　弱い黒Ⅲc被熱層
8. 5YR6/8　橙色　Ⅲb～c被熱層
9. 7.5YR3/4　暗褐色　付着黒色土

図Ⅱ-24　集中区1平面図･焼土平面及び断面図

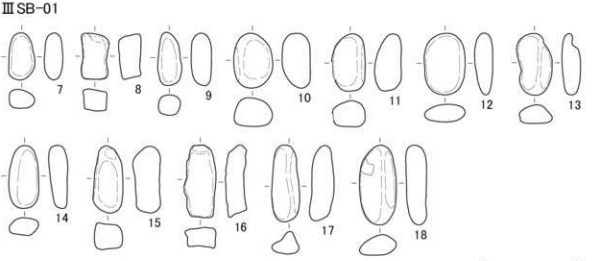


図Ⅱ-25 集中区1関連遺構

ⅢPB-03



ⅢSB-01



図Ⅱ-26　集中区1出土遺物

出土遺物（図Ⅱ-28～30）　1は口縁部の屈曲がない甕もしくは鉢形と思われる土器である。胴部は外傾し、口縁部でやや膨らみをもって立ち上がり、口唇部でやや内湾する。口唇部は外削ぎの尖状で、口縁部は平縁であるが、凹凸が目立ち粗雑な作りである。口唇部にはやや斜位の刻みが連続する。口縁部から胴部上半にかけては比較的細い工具の斜位沈線文で「X」字状と崩れた樹状文風を描き、最後に横位沈線文で２段に区画している。文様手順に統一性はなく、一部横位沈線後に斜位沈線も認められるが、おおよそ反時計回りに施文している。胴部は弱いナデ成形され、内面は横方向の粗い調整痕が残る。2 は口縁部から胴部下半までの資料で約半分復元している。胴部下半からやや膨らみをもって立ち上がり、胴部上半の文様帯でほぼ直立する。口縁部は直線状に大きく外反する。口唇部は縁に向かって薄くなる丸状を呈する。口縁部直下には馬蹄形押捺文が横環し、口縁部文様帯は浅い横走沈線に沿って、木口による矢羽根状の刻みが２段廻る。胴部文様帯は縦位、横位、刻みの規格的な２段構成で上段から施文される。胴部下半との区画帯には馬蹄形押捺文を施す貼付囲繞帯が２段廻る。一部貼付帯が剥がれた部分に横位の沈線文が認められることから、貼付前に下地を描いていたことが分かる。胴部下半、内面ともに入念なミガキ調整が成される。3 は口縁部片で外反している。口唇部は丸状で、斜位沈線文と口縁部直下の貼付囲繞帯と馬蹄形押捺が付される。4 は甕の口縁部片で口唇部形状が角状となり、浅い横走沈線文が２段認められる。屈曲部分には細く浅い工具による沈線文が僅かに認められる。内面は黒色処理が施される。5 は胴部片で横走沈線文の間に刻みが充填され、馬蹄形押捺文を施した貼付囲繞帯の後に縦位沈線文が認められる。6 は胴部片で 5 と同じく馬蹄形押捺文を施した貼付囲繞帯後に斜位沈線文と刻みが施される。貼付囲繞帯下側には横位沈線文が僅かに認められる。器表面は輪積みによる凹凸が顕著であるが、両面ミガキ調整で成形される。7 は底部で変換点が張り出す角状で、やや括れて膨らみをもって立ち上がる。器表面は弱いナデ調整でやや凹凸がある。

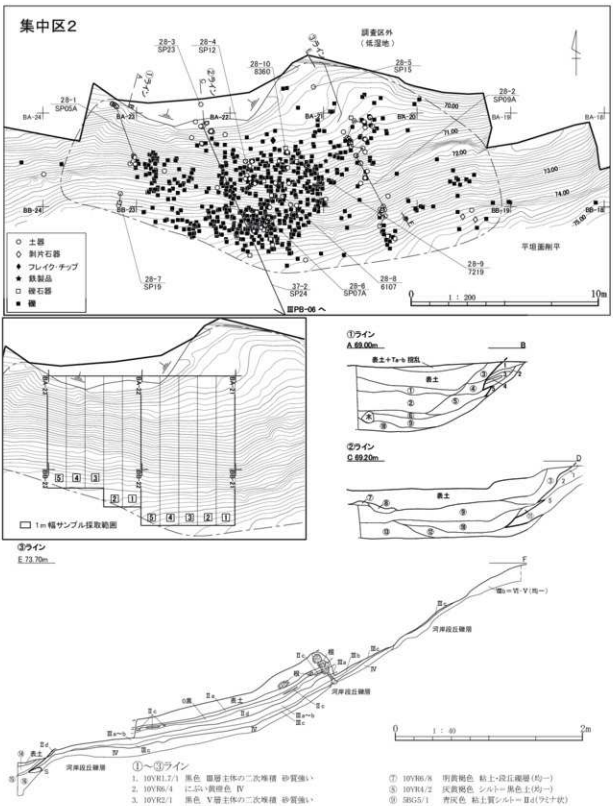
8～10 はたたき石で、8･9 は棒状礫を素材としている。8 は平面の敲打が浅く、端部は一部潰れが認められるが顕著ではない。9 は側縁の敲打が顕著で、正面下半分の剥離は敲打による影響と思われ、欠損後に被熱している。10 は不定形な厚みのある礫を素材とし、ほぼ全面に敲打痕が認められる。たたき石は全て砂岩製である。

11 は両区の刀子で、切先を欠損しており、先端付近がやや反る形状をしている。12a は刃区が不明瞭な刀子で、11 に比べ茎断面が厚い。12b は同地点から出土した板状の鉄製品で、錆の影響でやや膨らんでいるが、断面形状から刀子片と考えられ 12a と同一個体と思われる。13 はワイヤー状鉄製品としたもので両端を欠損している。鉄線状の細い素材を３本撚り合わせたものと思われる。町内の一里沢遺跡（町教委　2017 刊行）で同一形態資料が出土している。

14～82 は構成礫で、長軸平均は 65.8 ㎜、短軸平均は 34.8 ㎜であるが、最小は長軸 19.3 ㎜、最大は 269 ㎜で、形状も棒状、扁平、亜角礫が含まれ、規格性が認められない。被熱は少なく、砂岩が主体を占める。

集中区２の遺物群は黒色土の発達が弱い急傾斜地からの出土であり、一部では（斜面上位）Ⅳ層の流出も確認できている。

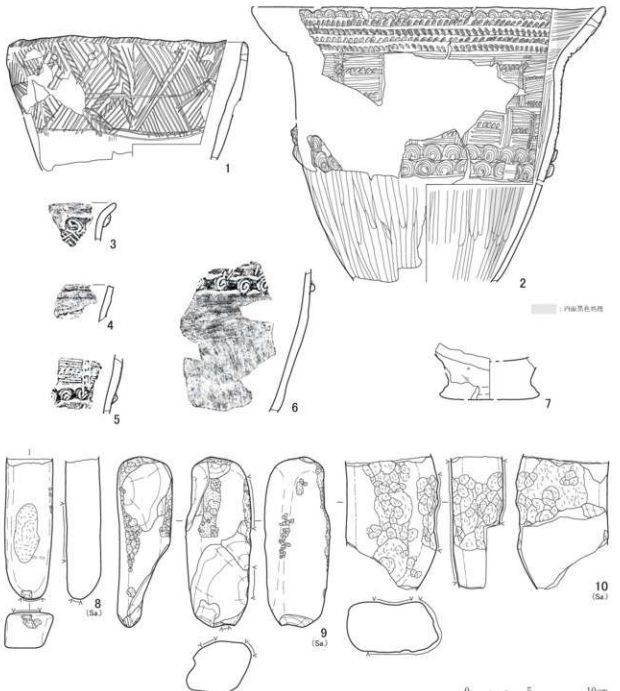
このため、縄文、続縄文など他時期の遺物が混入する可能性もあるが、縄文、続縄文土器、



①～③ライン

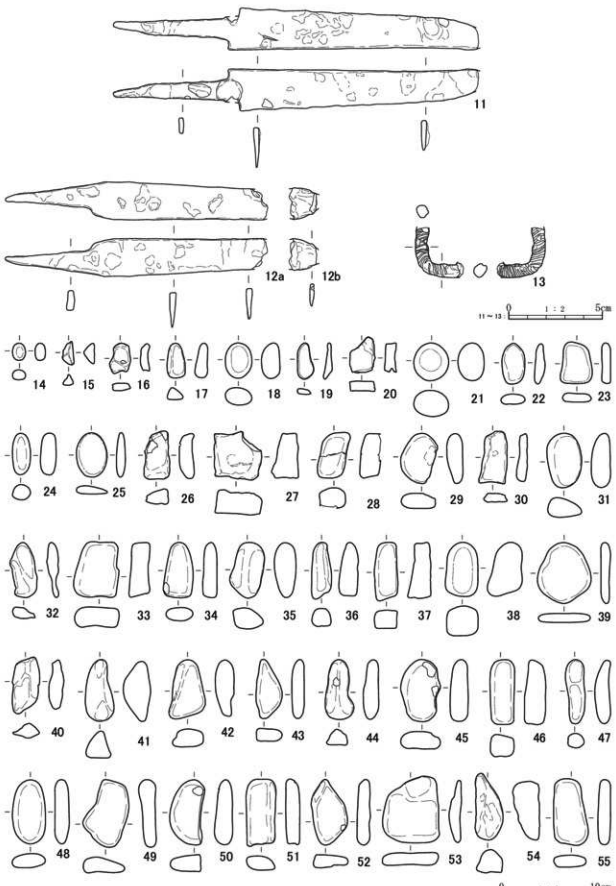
1. 10YR1.7/1　黒色　腐植土主体の二次堆積　砂質強い
2. 10YR6/4　にぶい黄橙色　Ⅳ
3. 10YR2/1　黒色　V層土体の二次堆積　砂質強い
4. 10YR4/4　褐色　Ⅳ-砂
5. 10YR5/4　にぶい黄褐色　段丘礫層
⑥ 2.5Y4/2　暗灰黄色　暗褐色粘土～Ⅱd(均一)
⑦ 7.5YR5/1　灰色　炭混・黒色土・Ⅱdブロックの混土(自然木など混入)
⑧ 10YR5/6　黄褐色　Ⅱd～砂
⑨ 10YR4/3　にぶい黄褐色　砂～シルト(混状)
⑩ 10YR3/4　暗褐色　砂～Ⅱdシルト(均一)
⑪ 5BG6/1　青灰色　粘土質シルト
⑫ 10YR6/6　明黄褐色　粘土-段丘礫層(均一)
⑬ 10YR4/2　灰黄褐色　シルト～黒色土(均一)
⑭ 5BG5/1　青灰色　粘土質シルト～Ⅱd(ラミナ状)
⑮ 7.5Y3/1　オリーブ黒色　粘土
⑯ 10YR5/4　にぶい黄橙色　Ⅳ≒Ⅴ(均一)　水成堆積
⑰ 10YR2/3　黒褐色　炭混＝腐植(均一)(混状)
⑱ 5BG5/1　青灰色　砂～粘土質シルト＝Ⅱd～段丘礫層(混状)
⑭ 10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト～表土(撹移層)
⑮ 10YR4/4　褐色　細砂
⑯ 5BG6/1　青灰色　粘土
①～⑤　腐植堆積
③～⑯　水成堆積物

図Ⅱ-27　集中区2平面及び断面図

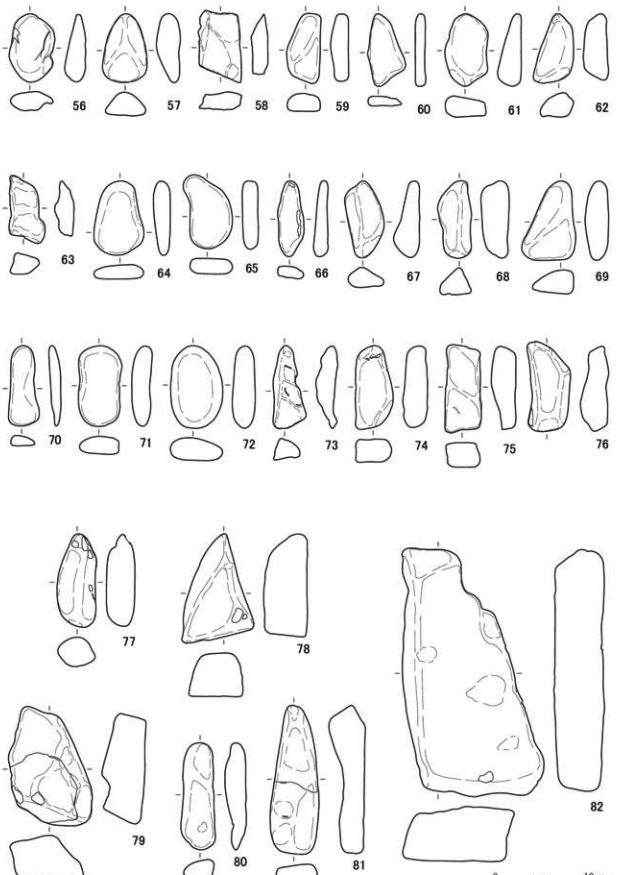


図Ⅱ-28 集中区2出土遺物(1)

黒曜石のフレイク・チップなどが一切出土していない。このことから、本集中区出土の礫石器も含めた遺物群は出土した擦文土器の時期に限定され、擦文後期前半に残された可能性が高いと思われる。（奈良）



図Ⅱ-29　集中区2出土遺物(2)



図Ⅱ-30 集中区2出土遺物(3)

第3節　焼土・獣骨集中

1. 焼土

集中区等に含まれず単独で検出された焼土は5ヵ所である。Ⅲb層中位で検出した焼土を擦文～中世アイヌ文化期、Ⅲb層下位で検出した焼土を擦文文化期と捉えて報告する。

ⅢF-04（図Ⅱ-31　図版13-1･2）

BA･BB-30区のⅢb層下位を調査中、焼骨片を含む焼土を確認した。規模は87×62㎝で平面は楕円形である。被熱層の厚さは5㎝で皿状を呈しており、1･2層には微量の焼骨片が含まれていた。回収した土壌サンプルからイノシシの骨が出土したが、同遺跡の縄文時代から多くのイノシシ骨が出土していることもあり、コンタミの可能性が考えられる。

ⅢF-05（図Ⅱ-31　図版13-3･4）

AZ-33区で検出した。Ⅲb層下位を調査中、焼骨片を検出したためサンプルを回収しながら範囲確認を行った。焼土を想定して焼骨片範囲の長軸方向に幅5㎝のベルトを設定し更に掘り下げたところ、焼土の短軸方向にベルトを設定していたことが判明したため、焼骨片の含まれている層の厚さを写真で記録後、長軸方向に再設定した。焼土の規模は110×46㎝、平面は長楕円形で厚さは15㎝である。1･2層は焼骨片を含む灰層で3･4層は被熱層である。各層の断面形状は乱れており、掻き出しもしくは根により撹乱されている可能性もある。フローテーションでブドウと種子、炭化材、礫1点が得られている。

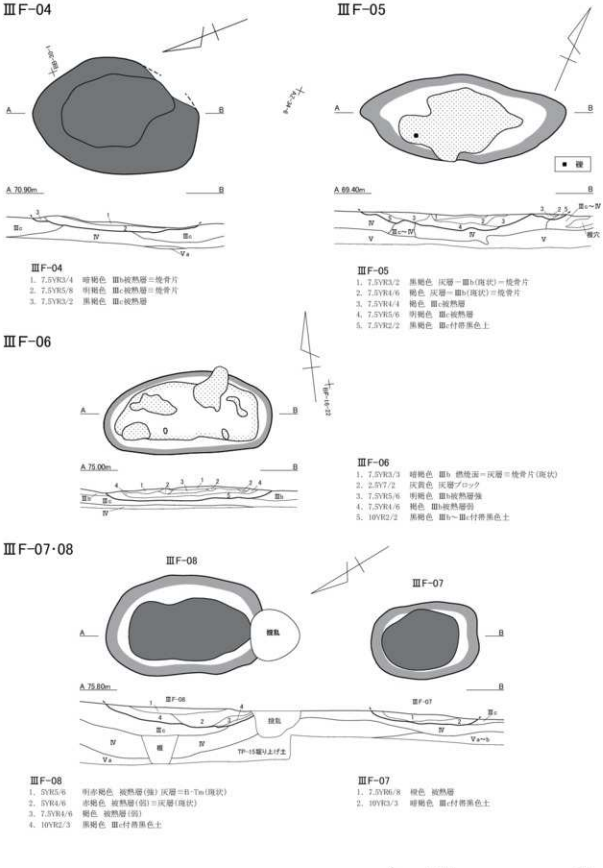
ⅢF-06（図Ⅱ-31　図版13-5･6･7）

発掘区東側段丘崖裾のBF-16区で検出した。Ⅲb層中位を調査中、焼骨片を含む灰層を確認した。灰層全体の検出に努め検出写真を撮影、平面形を記録した。灰層サンプルを回収しながらトレンチ調査を行い、焼土の断面を記録して調査を終了した。焼土の規模は89×43㎝で長楕円形の皿状を呈し、1層には焼骨片を含む灰層とその下位にブロック状の灰層が認められることから掻き出しを行っていたと思われる。フローテーションの結果、フレイク･チップ6点と種子、炭化材を回収した。

ⅢF-06は集中区を含め、他の焼土よりも検出面層位がⅢb層中においてもやや上位となる。本焼土出土地点は段丘崖裾で、周辺においてもⅢb層の発達が良好であることからⅢb層中位での検出となったが、帰属時期的にも他の焼土と同じく擦文文化期のものと思われる。

ⅢF-07･08（図Ⅱ-31　図版13-8･14-1･2）

BE-15区でⅢ層中位を調査中、南西-北東軸に並んだ焼土2基を検出した。2基の距離は撹乱を挟んで約56㎝離れており平面は共に楕円形である。ⅢF-07の規模は57×40㎝で被熱層は5㎝と薄いが、これは焼土上位が削平されてしまっているためと思われる。ⅢF-08は(76)×53㎝の規模で焼土全体の厚さは約10㎝、赤色化した被熱層の上に約3㎝の厚さで灰層が形成され、被熱層が窪み、灰層が斑状に混入することから掻き出しを行っていると思われる。この焼土は長軸方向で並んでいることから住居跡の可能性を考え焼土周辺の掘り下げ精査したが、柱穴等は確認出来なかった。フローテーションでⅢF-07からは種子と炭化材、ⅢF-08からは炭化材を回収している。　（宮崎）



図Ⅱ-31 焼土平面及び断面図

2. 獣骨集中

本節で掲載する獣骨集中は1ヵ所で、Ⅲb層下位から検出した焼骨片範囲である。集中区1の南側に位置するが、遺物分布と重ならないため単独で掲載する。

ⅢBB-01（図Ⅱ-32　図版14-5）

位置：BK-32区　規模：87×52㎝　検出層位：ⅢbL

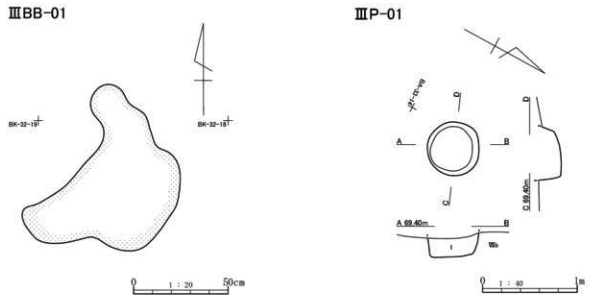
ⅢGP-03の調査終了後、包含層を掘り下げるとⅢb層下位で焼骨片を疎らに確認した。周辺の精査を行ったところ、遺物は伴わず、焼骨片が不整形に広がる範囲が認められたためⅢBB-01と付番して平面形の記録をした。その後、焼土の有無を確認するためトレンチで断面確認したが、焼骨片の堆積層が1㎝以下で薄く認められるのみであった。フローテーションサンプルの土壌を回収して調査終了とした。（奈良）

第4節　土坑

擦文文化期に帰属すると思われる土坑1基を検出している。

ⅢP-01（図Ⅱ-32　図版14-3･4）

BA-33区で検出した。縄文時代の調査終了間際、Ⅵ層を遺構確認のためジョレンで精査を行っていたところ、Ta-cテフラを含む円形プランを確認した。この区域は根穴等により包含層の堆積状態が乱れている地点が多く、このプランも当初は同様のものと捉えていた。縄文時代Ⅴ層の遺構確認調査の際にこの落ち込みを半截したところ、坑底面が平坦で両壁面はほぼ垂直に立ち上がったため土坑と判断した。規模は56×56㎝で確認面からの深さは20㎝、平面は円形である。覆土はⅢc層とTa-cテフラを主体としている。遺物は出土していない。（宮崎）



図Ⅱ-32　ⅢBB･ⅢP平面及び断面図

第５節　集中出土遺物

1．土器集中

今回の調査では擦文文化期の土器集中を６ヵ所検出しているが、ⅢPB-03 は集中区１に含まれるため本節では掲載しない。土器集中はⅢPB-01 を除いて、段丘縁辺部もしくは段丘崖裾に分布する傾向にある（図Ⅱ-39）。

ⅢPB-01（図Ⅱ-33･36-1　図版 14-6･49-2-1）

位置：BG-31 区　規模：170×96 ㎝　検出層位：ⅢbM･ⅢbL

確認・調査　発掘調査区のほぼ中央で、包含層掘削のため面的に掘り下げていると、Ⅲb 層中位から土器片が出土した。周辺の精査を行い、分布範囲を確認したところ口縁部から胴部にかけて比較的大きな破片が内面を上向きにして出土した。土器の基底面を確認するため、一部土器を台状に残しⅢb 層下位まで掘り下げた。写真撮影後、細片以外の土器片は微細図の記録をして、図面上に番号を記載しながら取り上げて調査終了とした。

出土遺物（図Ⅱ-36-1）１はⅦ群 B3 類の甕である。胴部下半からやや膨らみをもって外傾し、口縁部で大きく外反して「く」の字状に立ち上がる。口縁部はやや粗雑な造りである。

口唇部は丸状を呈し、口縁部直下は２段の浅い横走沈線文。胴部文様帯は細い工具で粗雑な斜格子状文を施し、正面左側はさらに斜位沈線文が加わり、２段の横位沈線文を部分的に廻らせて区画する

文様は右上→左下、左上→右下の順で、おおよそ時計回りに施文している傾向がある。器表面はハケメ調整が全体に成され、口縁部直下や文様帯の中に部分的に残る。胴部下半においては、ハケメが弧状に認められる。

ⅢPB-02（図Ⅱ-33･36-2･3　図版 14-7･8･49-2-2･3）

位置：AZ-34 区　規模：141×116 ㎝　検出層位：ⅢbM･ⅢbL

確認・調査　Ⅲa 層除去後、調査区北西側先端部付近を掘り下げると、板状の金属製品を検出した。金属製品にかかるようベルトを設定し、周囲を掘り下げると金属製品西側から擦文土器の集中を検出した。ベルトに沿ったトレンチで断面確認したところ、土器集中と金属製品はⅢb 層下位を基底面としていることが分かり、この範囲をⅢPB-02 とした。断面及び平面の記録をとって調査終了とした。土器細片については、座標点のみの記録で取り上げている。

出土遺物（図Ⅱ36-2･3）２はⅦ群 B3 類の甕である。底部変換点は隅丸角状で、底部は高台状の厚い底になり、底部側縁が張り出し、膨らみをもって立ち上がる。胴部上半は直立し、口縁部でやや外傾して立ち上る。

口唇部はミガキ調整が顕著で丸状を呈する。口縁部直下は２段の浅い横走沈線文が認められ、２段目は刻みが連続して施される。胴部文様帯は、細い工具で縦位に 10～14 本の沈線文を一つの単位として、その両側と上位に連続した刻み、下位に 4～5 本の横走沈線文が廻る。施文順序も上述した通りである。胴部下半は縦方向のミガキで、底部側面は横方向に調整される。内面は黒色処理が施される。３は刃部の方が体部より幅が広いU字形鏃先。風呂受け部は片側がやや開くＶ字状を呈している。刃部は幅 21 ㎜～25 ㎜と厚さが異なるため、一方が目減りしている可能性も考えられる。

ⅢPB-04（図Ⅱ-34･36-4･5　図版 15-1･2･50-4･5）

位置：AZ･BA-28 区　規模：229×105 ㎝　検出層位：ⅢbL

確認・調査　火山灰除去の段階で、北側斜面から擦文土器の破片が出土した。Ⅲ層包含層調査でⅢb 層を掘り下げたところ、斜面を中心に土器がまとまって出土したためⅢPB-04 と付番して調査した。土器の分布は、北側斜面へ連続していたことから、当初調査範囲よりも広がることがわかり、結果的に 180×190 ㎝拡張している。等高線については、70.50ｍより低位については急傾斜であるため地形測量を行わず、記号で図上に記している。写真撮影後、微細図、遺物の取り上げを行って調査終了とした。

出土遺物（図Ⅱ-36-4･5）4･5 はⅦ群 B3 類の甕で同一個体である。4 は外傾して立ち上がり、胴部上半にかけて直立から内湾し、頸部で強く屈曲し、口縁部は大きく外反する。口唇部は直立し丸状を呈する。口縁部直下には幅広の横走沈線文が 2 段廻る。口縁部文様帯には 2 条 1 対の鋸歯状文の後に矢羽根状の刻みが 1 段施される。胴部文様帯は 3 条 1 対の沈線文間に 2 条 1 対の沈線文を組み合わせた「C」字状、逆「C」字状の文様構成が認められる。沈線文の間には刻みが充填される。その下位には馬蹄形押捺文を施した貼付団繞帯と、2 条 1 対の鋸歯状沈線文が施される。胴部下半は目の粗い木口でハケメ調整を施しており、その後ミガキ調整しているが部分的にハケメが深く残る。5 は胴部下半から底部にかけての資料で、変換点は角状を呈し、やや内側にくびれた後、大きく外傾する。いずれも内面は黒色処理が施される。

ⅢPB-05（図Ⅱ-35･37-1　図版 15-3･4･50-6）

位置：AZ-32 区　規模：243×88 ㎝　検出層位：ⅢbM

確認・調査　Ⅲb 層を掘り下げたところ、発掘調査区の北西先端付近、ⅢPB-02 の北東側に土器のまとまりを確認した。分布範囲及び基底面を確認するため、土器を台状に残して周囲を掘り下げたところ、Ⅲb 層中位から下位に出土していることが分かりⅢPB-05 と付番して、平面の記録後、遺物を取り上げて調査終了とした。

出土遺物（図Ⅱ-37-1）1 はⅦ群 B3 類の甕である。胴部下半から膨らみをもって立ち上がり、上半はほぼ直立する。口縁部は僅かに外反して「く」の字状に立ち上がる。

口唇部はミガキ整形により丸状を呈する。口縁部直下は横方向のミガキで、その下位に矢羽根状の刻みが 1 段廻る。胴部文様帯は縦位沈線文の後、斜位、横位沈線文が施される。器表面には炭化物の付着が認められ、部分的に沈線文が不明瞭となる。器表面の上半にハケメが僅かに認められるが、下半はミガキ調整が成され、内面は黒色処理が施される。

ⅢPB-06（図Ⅱ-35･37-2　図版 15-5･6･50-7）

位置：BL-17 区　規模：257×190 ㎝　検出層位：ⅢbL

確認・調査　27 ラインから東側は、削平で撹乱を受けているため、遺構確認範囲としていたが、段丘崖裾に幅約 8ｍの範囲で Ta-b テフラから残存していた。

本集中は地形測量後、Ⅲb 層を掘り下げると、疎らではあるが同一個体の土器片が散在していた。周囲には遺物自体が殆ど出土していないため、土器集中としてⅢPB-06 を付番して調査した。範囲については分布が途切れるまで東側に広げ、一部土壌サンプルを回収している。また、本集中は、約 60ｍ北側の集中区 2 の土器片と接合関係にあり、一部を斜面に廃棄した資料である。平面の記録後、遺物を取り上げて調査終了した。

出土遺物（図Ⅱ-37-2）2はⅦ群 B3 類の甕である。胴部下半は膨らみをもち、上半から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。

口唇部は隅丸角状で、口縁部文様帯には2～3段の刻みと、その間に浅い馬蹄形押捺が廻る。胴部文様帯は、縦位、横位沈線文の文様構成を2段廻らせ、下位に4条の横走沈線文と3条1対の鋸歯状文が施される。施文順序は縦、横の順で1段目から反時計回りに新しくなり、次いで2段目に移行して施文している。最後に横位沈線文と鋸歯状文によって区画している。このような文様構成は、丁寧さは異なるが集中区 2 出土の土器(図Ⅱ-28-2)と類似している。胴部下半は縦方向のミガキ調整で、胴部文様帯付近では横方向に認められる。（奈良）

2. 礫集中

ⅢSB-02（図Ⅱ-35　37-3～5　図版 15-7　51-1-1～3）

位置：BA-30 区　規模：85×45cm　平面形：不整形　検出層位：ⅢbU

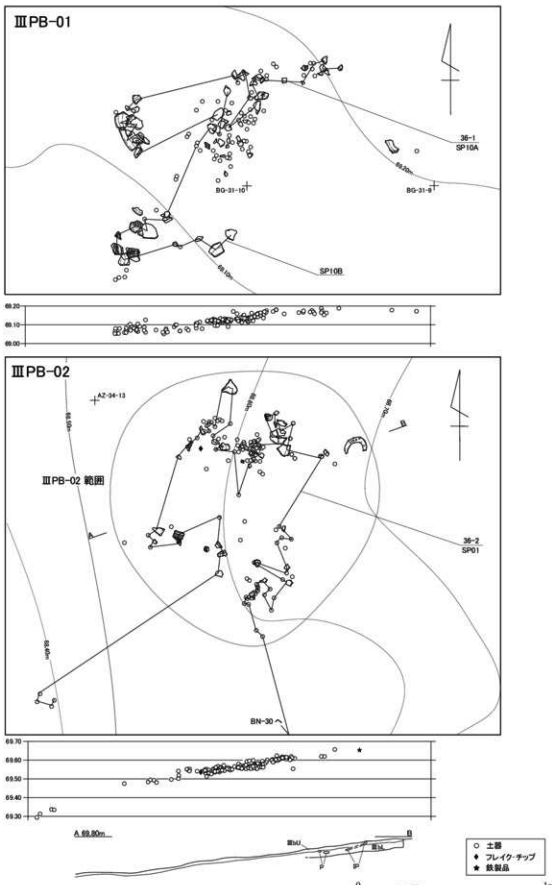
確認調査：Ⅲb 層上位を調査中、破砕したチャート片のまとまりを確認した。Ⅲb 層下位まで周辺を掘り下げ全体を検出。同一レベルで出土した金属製品も含めてⅢSB-02 を付番して写真撮影を行った後、遺物を取り上げて終了とした。約 180cm 南側にⅢF-04 を検出しているが、焼土からチャート片は出土しておらず、関連は不明である。

出土遺物：出土したチャート片は 112 点である。3はaブロックとした 70 点とbブロックとした 14 点が接合したもの。表面の大部分に転礫面が残る。4はそれ以外の 14 点が接合したもので3と同一個体と思われる。接合面で部分的に色調が異なり、被熱の影響と思われる。各破片には明瞭な打ち欠きや縁辺部の潰れが認められず、比較的接合率も高く復元に至っている。石材から火打石として遺跡内に持ち込まれた可能性が高い。5 は目釘穴の部分で折損した小刀の茎である。一部樹皮巻きの痕跡が残っている。

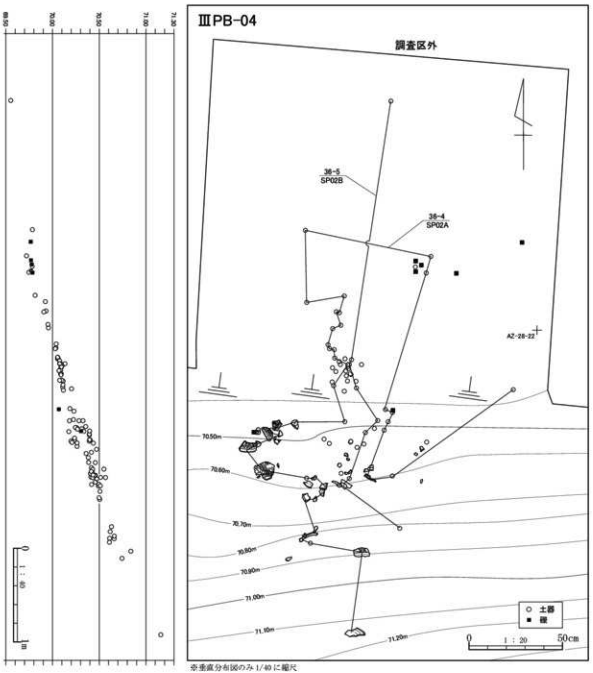
ⅢSB-03（図Ⅱ-35　37-6～11　図版 15-8　51-1-4）

位置：BJ-17 区　規模：152×60cm　検出層位：ⅢbL

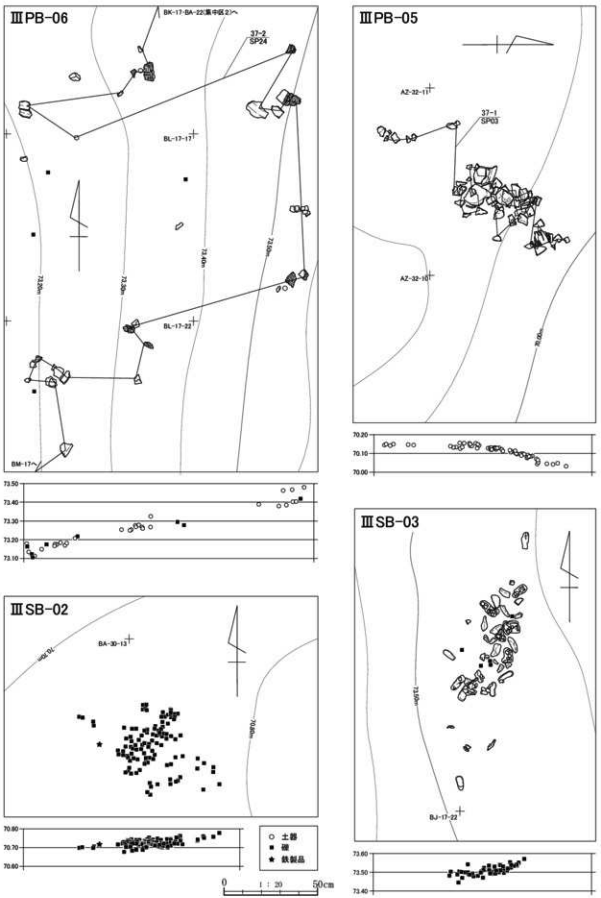
確認・調査：調査区東側斜面の裾で南西-北東軸方向に礫がまとまって出土した。総点数は 55 点である。礫の長短比は 1.7～3.2 で、完形礫は 18 点、そのうち被熱していたものは 4 点である。出土地点のすぐ西側は耕作地であったためⅤ層は削平されており、本集中が遺構に伴うものかは不明である。（宮崎）



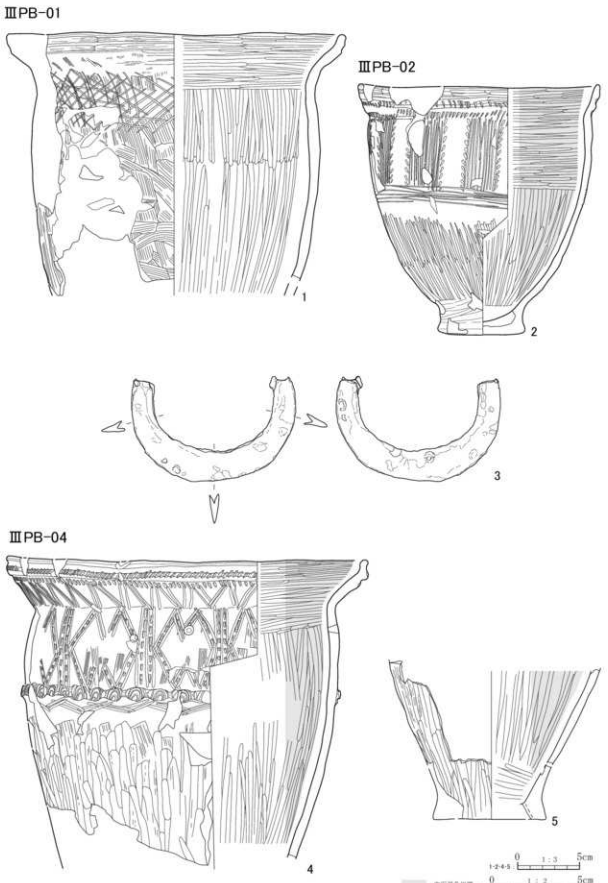
図Ⅱ-33　ⅢPB-01･02平面及び断面･垂直分布図



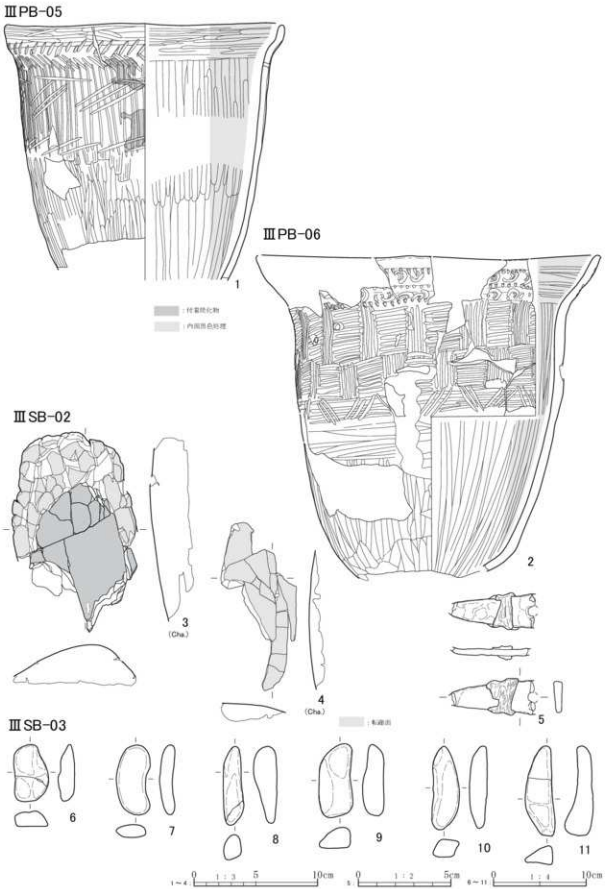
図Ⅱ-34 ⅢPB-04平面及び垂直分布図



図Ⅱ-35　ⅢPB-05·06·ⅢSB-02·03平面及び垂直分布図



図Ⅱ-36　ⅢPB出土遺物(1)

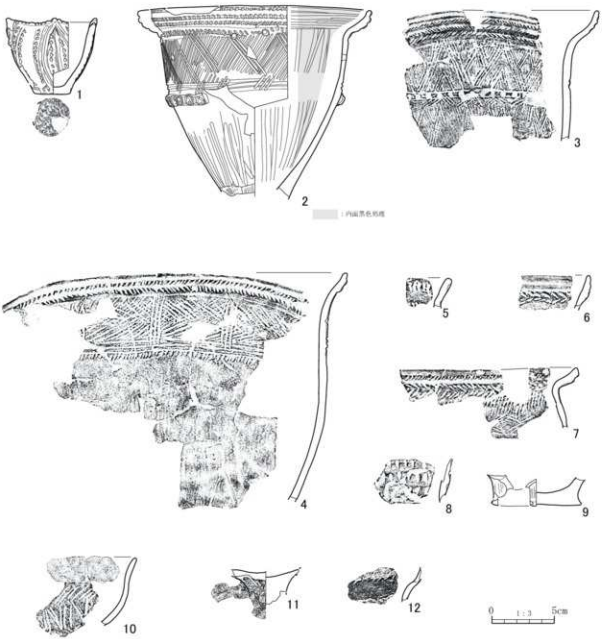


図Ⅱ-37　ⅢPB出土遺物(2)・ⅢSB出土遺物

第６節　Ⅲ層包含層出土遺物

1. 土器（図Ⅱ-38　図版 51-2-1～12）

1 はⅥ群 D4 類に分類したミニュチア土器である。口縁部を一部欠失しており、注口の有無は不明。平底で底部立ち上がりは角状を呈し、胴部中央で緩やかに屈曲して立ち上がる。口唇部は尖状を呈し、連続した刻みが施される。口縁部は波頂部が２ヵ所残存しているが、文様構成から４ヵ所あったと推定される。文様は対になる波頂部から縦方向に弧状の隆起線文が施され、これに沿って三角列点文が配されている。底側縁付近は横方向に三角列点文が、底面は浅い施文だが４列の三角列点文が施文される。続縄文時代の土器はこの１点のみである。2～9 はⅦ群 B3 類の甕で、10～12 はⅦ群 C 類の坏である。2 は胴部下半から外傾し、上半で直立気味になり、口縁部で外傾して「く」の字状に立ち上がる。口唇部は丸状を呈し、口縁部文様帯は３条の横走沈線文と４段の刻みが施される。胴部文様帯は右上から左下方向に斜位沈線文を密に施文した後、逆方向の斜位沈線文（2～3 条）と、下位に３条の横走沈線文を廻らす。横走沈線文上には3～4 条の短い斜位沈線文が疎らに施文され、最後に馬蹄形押捺文が施される貼付囲繞帯が廻る。貼付囲繞帯の剥落した面では割付の沈線等は認められなく、囲繞帯自体も水平ではない。胴部下半はミガキ調整が成される。3 は口縁部が「く」の字状に外傾して立ち上がり、口唇部に向かってやや薄くなり丸状を呈する。口縁部は４条の横走沈線文と矢羽根状の刻みが途中から方向を変えて施文される。胴部文様帯は大小の鋸歯状文を組み合わせ、２条１対の横走沈線文間に中空工具による刺突列を施す。その下位には鋸歯状文を施文している。器表面はナデ調整によって、殆どハケメは認められない。内面は入念なミガキ調整が施される。4 は胴部上半で膨らみを持って、口縁部で緩く外傾して立ち上がる。口唇部は丸状で、口縁部文様帯は２条の浅い横走沈線文と矢羽根状の刻みが施される。胴部文様帯は右上から左下と左上から右下の順で斜位沈線文、その下位に３条の横走沈線文と刻みを廻らす。３条１対の縦位沈線文は等間隔に配される。文様帯の一番下位に施文される刻みと、口縁部文様帯の刻みは木口痕から同一工具と思われる。文様帯直下はハケメがやや残り、下半と内面ははミガキ調整される。5 は口縁部片で、隅丸角状の口唇直下と頸部に刻み列が認められる。器表面が赤褐色で砂質が強く、他の土器とは胎土が異なる。6 は口唇部が尖状に近く、口縁部は浅い横走沈線文と矢羽根状の刻みが施文され、その下位には縦位沈線文の端部が僅かに認められる。口縁部直下は横方向にミガキ調整がなされ、器面が平滑に近くなる。7 は広口の壷形と考えられる口縁部である。肩部から内傾し、口縁部は大きく外反して「く」の字状に開く。口唇部は丸状を呈する。口縁部は横走沈線文の上に刻み、下位に矢羽根状の刻みが施される。肩部は斜位沈線文と菱形をモチーフとした沈線文、その下位に横位沈線文が認められる。菱形の中にはハケメ調整が残る。内面は丁寧にミガキ調整が成され、黒色処理が施される。8 は文様帯部分の剥落で、幅広の横走沈線文と刻みが３段認められる。9 は底部で側縁は強く張り出す。器表面はハケメとナデ調整が成される。底面は笹葉痕が残る。10 は坏の口縁部から体部にかけての資料で、口唇部は丸状を呈する。口縁部は横ミガキ、体部は斜位沈線文と鋸歯状沈線文が施される。内面は横ミガキ調整で黒色処理が施される。11、12 はⅢGP-02 掘り上げ土出土の資料。11 は高坏の脚部接合部分で細い斜位沈線文が、12 は坏の体部で割れ口付近に斜位沈線文がある。いずれも内面はミガキ調整が施される。（奈良）



図Ⅱ-38　Ⅲ層包含層出土土器

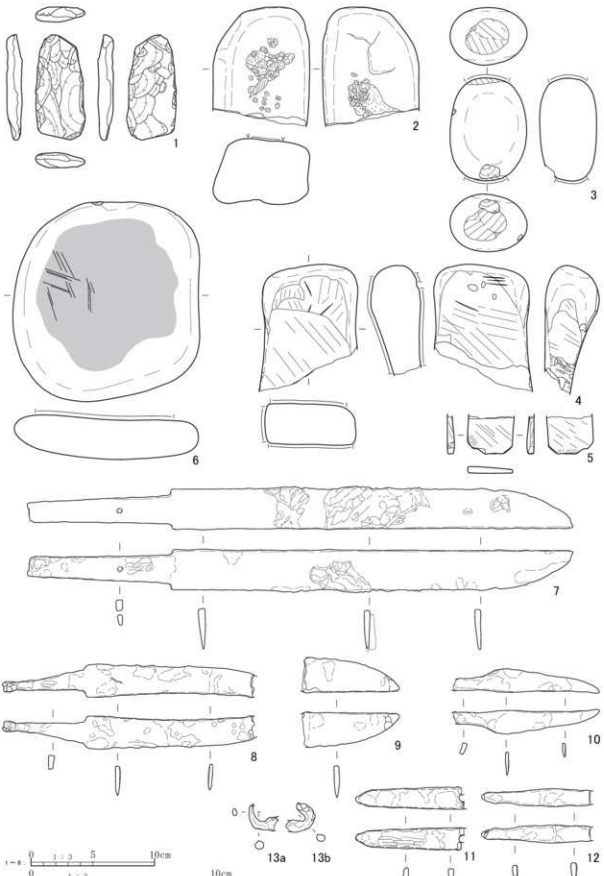
2. 礫石器(図Ⅱ-40-1～6　図版 52-1～6)

Ⅲ層からは破片を含めて礫石器 21 点と石製品 1 点が出土している。礫石器の内訳は石斧が 3 点、たたき石が 9 点、すり石 1 点、砥石が 2 点、滑沢面のある礫 1 点、線状痕のある礫 1 点、台石 2 点、加工痕のある礫が 2 点である。そのうち 5 点を図示した。1 は小型の石斧の未成品である。素材礫に大きな剥離調整を行った後、両側縁から上端部にかけて連続した剥離調整を施しているが、研磨はされていない。緑色泥岩製である。2 は破損したたたき石である。幅広で厚みのある礫の両面に密集した敲打痕がある。表面の敲打痕を切るように小さな擦痕が見られる。砂岩製である。3 は B 類のすり石。素材礫は円磨が進み平面形が楕円形で両端部に複数単位の擦痕がある。玄武岩製である。4、5 は凝灰岩製の砥石でいずれも欠損している。4 は 3 面を使用しており、特に表面は複数単位の使用面に明瞭な稜が形成されている。表面と裏面には短い線条痕が残る。5 は折損しているが方形から長方形を呈しており、厚さ約 5㎜ と薄く両面と両側縁に丁寧な研磨を施している。形状やサイズから台に嵌めて使用したものと思われる。6 は滑沢面のある礫である。扁平な方形状の礫の中心に不整形な滑沢面があり、左側には浅い擦痕が見られる。石材は玄武岩製である。　(宮崎)

3. 金属製品(図Ⅱ-40-7～13　図版 52-7～13)

7 は両区、平棟平造りの小刀で、茎に目釘穴が 1 ヵ所認められる。刀身中央付近に錆化した付着物が認められ、両面に及ぶことから鞘などの有機物と考えられる。8 は両区の刀子で切先を欠損している。刀身は若干緩い反りが認められ、刃部中央は緩く湾入する。9 は規模から小刀の切先としたもので、7 と刀身の身幅、厚さが類似している。10 は小型の刀子で、刃区が不明瞭である。茎の幅は断面角状を呈し、刀身の棟は切先に向かってやや薄くなる。刀身は緩く全体に湾曲する。11 は目釘穴が認められることから小刀の茎と考えられる。断面は角状を呈し一部、柄木と思われる木質が残る。12 は基部が尖状で刀子の茎と考えられる。13a、b は鉤状鉄製品とした資料で、13a は一端が尖る。13b は錆のため接合しないが同一個体と思われる。
(奈良)

図Ⅱ-39　Ⅲ層土器接合資図



図Ⅱ-40 Ⅲ層包含層出土遺物

表Ⅱ-1　アイヌ文化・擦文文化期遺構群一覧表

遺構名	帰属時期	規模(cm)		グリッド	検出層位	付属・関連遺構	備考
		長軸	短軸				
ⅢGP-01	中世アイヌ文化期	950	(520)	BA・BB-33・34・BC-34・35・BB-35	ⅢbM	－	古段階
		252	84				
ⅢGP-02	中世アイヌ文化期	732	(484)	BC-34・35・BD・BE-33・34・35	ⅢbL ⅢbM	－	古段階
		294	100				
ⅢGP-03	中世アイヌ文化期	398	385	BL-32	ⅢbU	－	新段階
		171	65				
ⅢGP-04	中世アイヌ文化期	(420)	(230)	BB・BC-34・35	ⅢbM	－	古段階
		173	59				
ⅢGP-05	中世アイヌ文化期	234	87	AZ・BA-34	Ⅵ	－	古段階
集中区1	擦文文化期	1440	1185	BH・BI-33	ⅢbL	ⅢF-01・02・03	
				BH～BJ-32～34	ⅢbM	ⅢSB-01	
				BK-33・34	ⅢbM	ⅢPB-03	
集中区2	擦文文化期	1850	1080	AZ～BB-19～23	ⅢbL	－	斜面捨て場跡
ⅢF-04	擦文文化期	87	62	BA・BB-30	ⅢbL	－	
ⅢF-05	擦文文化期	110	46	AZ-33	ⅢbL	－	
ⅢF-06	擦文～中世アイヌ文化期	89	43	BF-16	ⅢbM	－	
ⅢF-07	擦文～中世アイヌ文化期	57	40	BE-15	ⅢbM	－	
ⅢF-08	擦文～中世アイヌ文化期	(76)	53	BE-15	ⅢbM	－	
ⅢP-01	擦文文化期	56	56	BA-33	Ⅵ	－	
ⅢPB-01	擦文文化期	170	96	BG-31	ⅢbL ⅢbM	－	
ⅢPB-02	擦文文化期	141	116	AZ-34	ⅢbL ⅢbM	－	
ⅢPB-04	擦文文化期	229	105	AZ・BA-28	ⅢbL	－	
ⅢPB-05	擦文文化期	243	88	AZ-32	ⅢbM	－	
ⅢPB-06	擦文文化期	257	190	BL-17	ⅢbL	－	
ⅢSB-02	擦文文化期	85	45	BA-30	ⅢbU	－	
ⅢSB-03	擦文文化期	152	60	BJ-17	ⅢbL	－	
ⅢBB-01	擦文文化期	87	52	BK-32	ⅢbL	－	

表Ⅱ-2　ⅢGP属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	調査層位	平面形		調査面規模(cm)				坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	調査面長短比	坑底面長短比	備考
							造成範囲		主体部								
					調査面/坑底面	整穴状造成	長軸	短軸	長軸	短軸	長軸	短軸					
Ⅱ-2～5	2・3	ⅢGP-01	BA・BB-33・34・BC-34・35・BB-35	ⅢbM	隅丸長方形/隅丸長方形	方形状	950	(520)	252	(84)	210	－	12	N-20° E	(3.0)	－	
Ⅱ-2・6～10	4・5	ⅢGP-02	BC-34・35 BD・BE-33・34・35	ⅢbL ⅢbM	長台形/長台形	方形状	732	(484)	294	100	270	73	38	N-4° E	2.9	3.7	
Ⅱ-20～23	6・7	ⅢGP-03	BL-32	ⅢbU	長台形/長台形	円形	398	385	171	65	154	57	37	N-73° E	2.6	2.7	
Ⅱ-2・11～13	8	ⅢGP-04	BB・BC-34・35	ⅢbM	長台形/長台形	方形状	(420)	(230)	173	59	154	55	38	N-10° E	2.9	2.8	
Ⅱ-2・14～19	9	ⅢGP-05	AZ・BA-34	Ⅵ	楕円形/楕円形	－	－	－	234	87	215	75	45	N-4° W	2.7	2.9	Ⅵ層検出

表Ⅱ-3　ⅢGP出土遺物属性表(1)

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-4-1	36-1	476	日本刀	-	ⅢBM	ⅢGP-01	BA-34	787.0	38.0	7.0	925.0	Irn.	表採
Ⅱ-4-2	36-2	1299	蝦夷太刀	-	8			532.0	36.0	7.0	330.0	Irn.	
Ⅱ-5-3	37-1-3	1300	刀子	-	8			134.0	14.0	3.0	20.0	Irn.	
Ⅱ-5-4	37-1-4	1301	刀子	-	8			(179.0)	15.0	3.0	(30.0)	Irn.	
Ⅱ-5-5	37-1-5	632	象嵌装飾製品	-	8			(8.2)	(5.5)	0.5	(0.06)	Ag.	円板状
Ⅱ-5-6	37-1-6	1302	象嵌装飾製品	-	8			10.0	9.8	0.5	0.16	Ag.	円板状
Ⅱ-5-7	カラー図版9-2	1720	漆塗椀	-	8		BB-34	152.0	102.0	-	-	Jp.	
Ⅱ-5-8	カラー図版9-3	1865	漆塗丸盆	-	8			310.0	300.0	-	-	Jp.	
-	37-7	25323	骨鏃・中柄	-	8		BA-34	(31.3)	(8.7)	(6.3)	(0.48)	B.	
-	37-8	25324	骨鏃・中柄	-	8			(45.7)	(6.5)	(5.2)	(0.51)	B.	
-	37-9	25325	骨鏃・中柄	-	8			(45.0)	(9.2)	(5.8)	(0.65)	B.	
-	37-10	25326	骨鏃・中柄	-	8			(38.5)	(7.3)	(4.3)	(0.43)	B.	
-	-	1363 他	鉄片	-	8			-	-	-	-	Irn.	細片　未掲載
Ⅱ-8-1	37-2-1	1866	腰刀	-	6	ⅢGP-02	BD-34	449.0	46.0	7.0	470.0	Irn.	
Ⅱ-8-2	37-2-2	1867	蝦夷太刀	-	6			586.0	50.0	8.0	540.0	Irn.	
Ⅱ-8-3	37-2-3	1768	腰刀	-	6			581.0	43.0	8.0	620.0	Irn.	
Ⅱ-8-4	38-4	1769	腰刀	-	6			492.0	48.0	21.0	660.0	Irn.	1772含む重量
Ⅱ-9-5	39-5	1767	刀子	-	6			177.0	22.0	3.0	35.0	Irn.	
Ⅱ-9-6	39-6	1770	刀子	-	6			182.0	24.0	4.0	35.0	Irn.	
Ⅱ-9-7	39-7	25327	刀子	-	6			170.0	20.0	4.0	30.0	Irn.	
Ⅱ-9-8	39-8	1766	薙刀	-	6			307.0	32.0	4.0	105.0	Irn.	
Ⅱ-10-9	39-9	480	鉤状製品	-	3			(45.0)	17.0	5.5	(6.57)	Irn.	
Ⅱ-10-10	39-10	881	鉤状製品	-	3			(45.0)	5.5	4.0	(2.67)	Irn.	
Ⅱ-10-14	39-14	564	象嵌装飾銅製品	-	4			(27.0)	26.0	0.5	(1.87)	Cu.	円板状
Ⅱ-10-15	39-15	565	象嵌装飾銅製品	-	4			(27.0)	(22.5)	0.5	(0.83)	Cu.	板状
Ⅱ-10-13	39-13	580	象嵌装飾銅製品	-	4			42.0	31.0	0.5	1.82	Cu.	板状
Ⅱ-10-11	39-11	701	象嵌装飾銅製品	-	6			39.0	(38.5)	0.5	(1.97)	Cu.	円板状
Ⅱ-10-12	39-12	702	象嵌装飾銅製品	-	6			40.0	(28.5)	0.5	(3.64)	Cu.	円板状
Ⅱ-10-16	39-16	25328	象嵌装飾銅製品	-	6			(26.0)	(23.0)	1.0	(2.76)	Cu.	円板状
Ⅱ-10-18	39-18	582	象嵌装飾銅製品	-	4			(11.0)	8.0	0.5	(0.15)	Cu.	円板状
Ⅱ-10-19	39-19	999	象嵌装飾銅製品	-	6			23.0	15.5	0.5	0.53	Cu.	円板状
Ⅱ-10-17	39-17	1000 1170	象嵌装飾銅製品	-	6			(26.0)	(21.0)	0.5	(1.38)	Cu.	円板状
Ⅱ-10-20	39-20	1346	象嵌装飾銅製品	-	6			24.5	20.0	0.5	0.66	Cu.	円板状
-	-	882	銅片	-	5			-	-	-	-	Cu.	細片　未掲載
-	-	2055	漆塗膜片	-	2			-	-	-	-	Jp.	AMS　試料
Ⅱ-10-21	40-21	1771	骨鏃・中柄	-	6			(100.0)	34.0	16.0	(25.0)	B.	束
Ⅱ-8-4	38-4	1772	骨鏃・中柄	-	6			(122.0)	(80.0)	23.0	-	B.	1769に付着
-	-	25329	漆塗膜片	-	2			-	-	-	-	Jp.	造成範囲内
Ⅱ-22-1	45-1	1948	蝦夷太刀	-	6	ⅢGP-03	BL-32	641.0	45.0	7.0	755.0	Irn.	
Ⅱ-22-2	45-2	1947	刀子	-	6			220.0	35.0	4.0	75.0	Irn.	
-	-	2082	漆椀塗膜片	-	6			-	-	-	-	Jp.	細片　未掲載
Ⅱ-23-1	46-3	2739	骨鏃	-	6			(109)	11.0	6.0	(3.2)	B.	
Ⅱ-23-2	46-4	2741-1	骨鏃	-	6			(115.0)	9.0	6.5	(3.4)	B.	
Ⅱ-23-3	46-5	2741-2	骨鏃	-	6			(111.0)	11.0	6.0	(3.8)	B.	
Ⅱ-23-4	46-6	2741-6	骨鏃	-	6			(129.0)	13.0	7.0	(6.3)	B.	
Ⅱ-23-5	46-7	2741-4	中柄	-	6			129.0	10.0	7.0	5.9	B.	
Ⅱ-23-6	46-8	2741-5	中柄	-	6			(104.0)	8.4	7.0	(3.9)	B.	
Ⅱ-23-7	46-9	2741-3	中柄	-	6			(115.0)	10.0	6.5	(4.1)	B.	
Ⅱ-23-8	46-10	2741-7	中柄	-	6			(122.0)	9.5	6.0	(4.0)	B.	
Ⅱ-23-9	46-11	2741-8	中柄	-	6			(98.0)	7.0	6.0	(2.1)	B.	
-	-	2738a	骨鏃・中柄	-	6			(42.7)	(6.9)	(4.6)	(1.89)	B.	未掲載
-	-	2738b	骨鏃・中柄	-	6			(82.4)	(7.3)	(5.4)	(2.16)	B.	未掲載
-	-	2740	骨鏃・中柄	-	6			(85.4)	(10.0)	(2.7)	(2.73)	B.	未掲載
Ⅱ-12-1	40-1	6802	蝦夷太刀	-	4	ⅢGP-04	BC-34	535.0	40.0	8.0	515.0	Irn.	
Ⅱ-12-2	40-2	6801	小刀	-	4		BC-35	284.0	32.0	7.0	130.0	Irn.	
Ⅱ-12-3	40-3	6804	小刀	-	4		BC-34	322.0	41.0	5.0	200.0	Irn.	
Ⅱ-13-4	40-4	6803	刀子	-	4			174.0	23.0	3.0	40.0	Irn.	+4789
Ⅱ-13-5	41-1-5	4789a	象嵌装飾製品	-	4			(16.0)	(6.5)	(4.0)	(0.2)	Ag.	木質有

表Ⅱ-3　ⅢGP出土遺物属性表(2)

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-13-6	41-1-6	4789b	象嵌装飾製品	−	4			(19.0)	(6.0)	(7.0)	(0.2)	Ag.	木質有
Ⅱ-13-7	41-1-7	6805	鍔製品	−	4			42.0	18.0	3.0	15.0	Pb.	骨製品付着
Ⅱ-13-8	41-1-8	4388	栗形	−	4			26.0	12.0	10.0	11.2	Cu.	鍍金
Ⅱ-13-9	41-1-9	5123	目貫	−	4			16.0	16.0	12.0	2.7	Cu.	鍍金
Ⅱ-13-10	41-1-10	5124	飾り金具	−	4			(26.0)	21.0	1.5	(3.4)	Cu.	
Ⅱ-13-11	41-1-11	4387	釣り針	−	4			36.0	14.0	8.5	2.8	Irn.	
Ⅱ-13-12	41-1-12	5128-4a	骨鏃・中柄	−	4			(42.0)	(6.8)	4.9	(0.4)	B.	
Ⅱ-13-13	41-1-13	5128-5	骨鏃・中柄	−	4			(91.0)	(8.0)	5.5	(1.3)	B.	
Ⅱ-13-14	41-1-14	5128-1a	骨鏃・中柄	−	4			(79.0)	12.0	6.0	(1.4)	B.	
Ⅱ-13-15	41-1-15	5128-2	骨鏃・中柄	−	4		BC-34	(94.0)	8.5	8.5	(2.2)	B.	
−	−	5128-4b	骨鏃・中柄	−	4			(23.3)	(3.6)	(3.4)	(0.15)	B.	未掲載
−	−	5128-6	骨鏃・中柄	−	4			(7.9)	(3.6)	(3.4)	(0.04)	B.	未掲載
−	−	5128-7	骨鏃・中柄	−	4	ⅢGP-04		(15.8)	(4.2)	(3.1)	(0.05)	B.	未掲載
−	−	5128-9	骨鏃・中柄	−	4			(51.9)	(7.0)	(3.6)	(0.43)	B.	未掲載
−	−	5128-10	骨鏃・中柄	−	4			(46.5)	(17.9)	(10.3)	(1.80)	B.	未掲載
−	−	5127-1	骨鏃・中柄	−	4			−	−	−	(0.17)	B.	未掲載
−	−	5127-2	骨鏃・中柄	−	4			(30.0)	(9.4)	(5.3)	(0.34)	B.	未掲載
−	−	5127-3	骨鏃・中柄	−	4			(28.7)	(8.1)	(4.2)	(0.30)	B.	未掲載
−	−	4786	漆塗膜？	−	4		BC-35	−	−	−	−	Jp.	未掲載
−	−	4787	漆塗膜？	−	4			−	−	−	−	Jp.	未掲載
−	−	4788	漆塗膜？	−	4		BC-34	−	−	−	−	Jp.	未掲載
−	−	4850	漆塗膜？	−	4			−	−	−	−	Jp.	未掲載
−	−	5125	漆塗膜？	−	4		BC-35	−	−	−	−	Jp.	未掲載
−	−	5126	漆塗膜？	−	4		BC-34	−	−	−	−	Jp.	未掲載
Ⅱ-15-1	41-2-1	9319	刀子	−	7			228.0	24.0	3.0	65.0	Irn.	
Ⅱ-15-2	41-2-2	9320	刀子	−	7			(238.0)	25.0	5.0	(55.0)	Irn.	
Ⅱ-15-3	41-2-3	9313	板状鉄製品	−	7			78.0	50.0	1.0	45.0	Irn.	
Ⅱ-15-4	41-2-4	9315	板状鉄製品	−	7			80.0	49.0	1.0	75.0	Irn.	
Ⅱ-15-5	41-2-5	9314	板状鉄製品	−	7			(50.0)	15.0	2.0	(5.0)	Irn.	
Ⅱ-16-6	42-6	9327-1	腕輪	−	7			80.0	41.0	11.0	150.0	Irn.	右腕
Ⅱ-16-7	42-7	9327-2	腕輪	−	7			80.0	39.0	10.0	110.0	Irn.	右腕
Ⅱ-16-8	42-8	9328	腕輪	−	7			121.0	69.0	8.0	455.0	Irn.	左腕
Ⅱ-17-9	43-9	9353	コイル状装飾品	−	7			323.0	176.0	27.0	1450.0	Irn.	首飾り
Ⅱ-17-10	43-10	9358	環状鋼製品	−	7			154.0	(117.0)	10.0	(105.0)	Sn.	大
Ⅱ-17-11	43-11	9359	環状鋼製品	−	7			81.0	(83.0)	8.0	(45.0)	Sn.	小
Ⅱ-17-12	43-12	9357	環状鋼製品	−	7			123.0	106.0	7.0	140.0	Sn.	一部首飾り付着
Ⅱ-18-13	44-13	9326	和鏡	−	7			110.0	109.0	1.0	85.0	Cu.	
Ⅱ-18-14	44-14	9325	古銭	−	7			24.0	24.0	1.0	3.39	Cu.	
Ⅱ-18-15	44-15	25322	古銭	−	7			25.0	25.0	1.9	4.09	Cu.	
Ⅱ-18-16	44-16	9322	環状銅製品	−	7	ⅢGP-05	AZ-34	(26.0)	7.0	0.7	(2.69)	Cu.	
Ⅱ-18-17	44-17	9321	筒状銅製品	−	7			50.0	16.0	11.5	2.48	Cu.	
Ⅱ-18-18	44-18	9323	筒状銅製品	−	7			49.0	10.0	0.8	6.99	Cu.	
Ⅱ-18-19	44-19	9324	筒状銅製品	−	7			21.8	8.0	0.5	1.69	Cu.	
Ⅱ-18-20	44-20	9360	板状銅製品	−	7			14.0	8.0	0.5	0.31	Cu.	
Ⅱ-18-21	44-21	9316	縫い針	−	7			(62.0)	3.0	3.0	(1.07)	Irn.	
Ⅱ-18-22	44-22	9317	縫い針	−	7			(45.5)	1.8	1.8	(0.90)	Irn.	
Ⅱ-18-23	44-23	9318	縫い針	−	7			30.5	2.0	2.5	0.36	Irn.	
Ⅱ-18-24	44-24	9330	ガラス玉	−	7			(10.0)	(7.0)	9.0	(0.6)	GP.	
Ⅱ-18-25	44-25	9354A	ガラス玉	−	7			10.5	10.0	8.5	4.4	GP.	
Ⅱ-18-26	44-26	25316	ガラス玉	−	7			9.0	9.0	7.7	0.9	GP.	
Ⅱ-18-27	44-27	9331	ガラス玉	−	7			10.0	8.6	8.9	1.2	GP.	
Ⅱ-18-28	44-28	9332	ガラス玉	−	7			(8.5)	(8.6)	(5.0)	(0.5)	GP.	
Ⅱ-18-29	44-29	9335	ガラス玉	−	7			12.9	12.4	10.8	3.1	GP.	
Ⅱ-18-30	44-30	9356	ガラス玉	−	7			10.5	9.3	8.2	1.7	GP.	
Ⅱ-18-31	44-31	9334	ガラス玉	−	7			10.2	10.0	8.1	1.4	GP.	

表Ⅱ-3　ⅢGP出土遺物属性表(3)

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-18-32	44-32	9355	ガラス玉	-	7	ⅢGP-05	AZ-34	10.5	9.6	9.4	1.8	GP.	
Ⅱ-18-33	44-33	25317	ガラス玉	-	7			9.0	8.0	8.0	1.0	GP.	
Ⅱ-18-34	44-34	9329	ガラス玉	-	7			9.0	(8.0)	7.0	(0.2)	GP.	
Ⅱ-18-35	44-35	25313	ガラス玉	-	7			7.0	7.0	4.8	0.4	GP.	
Ⅱ-18-36	44-36	25312	ガラス玉	-	7			(6.5)	(5.5)	(3.7)	(0.1)	GP.	
Ⅱ-18-37	44-37	9333	ガラス玉	-	7			(5.9)	(6.0)	(7.0)	(0.2)	GP.	
Ⅱ-18-38	44-38	9336	ガラス玉	-	7			18.0	18.0	18.5	(4.2)	GP.	
Ⅱ-18-39	44-39	25314	ガラス玉	-	7			(5.7)	(4.0)	(4.0)	(0.1)	GP.	
Ⅱ-18-40	44-40	25315	ガラス玉	-	7			(6.4)	(3.3)	(4.0)	(0.1)	GP.	
Ⅱ-18-41	44-41	25321	ガラス玉	-	7			12.0	11.0	(20.5)	(1.5)	GP.	
Ⅱ-18-42	44-42	25318	ガラス玉	-	7			(11.8)	(11.0)	(10.5)	(1.5)	GP.	
Ⅱ-19-43	44-43	9309	黒曜石転礫	-	7			60.0	57.9	44.0	194.3	Obs.	
Ⅱ-19-44	44-44	9310	黒曜石転礫	-	7			54.9	40.2	33.0	92.5	Obs.	
Ⅱ-19-45	44-45	9311	黒曜石転礫	-	7			(47.7)	42.1	28.6	(66.4)	Obs.	
Ⅱ-19-46	44-46	9312	黒曜石転礫	-	7			56.8	40.6	27.1	85.1	Obs.	
Ⅱ-19-47	カラー図版19-2	25320	毛皮製品	-	7			(10.0)	(6.4)	-	-	-	

表Ⅱ-4　ⅢF・ⅢBB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm) 長軸	短軸	厚さ	炭・骨片の有無	備考
Ⅱ-24	10-3・4	ⅢF-01	BH・BI-33	ⅢbL	不整形	62	26	10	有	
Ⅱ-24	10-3	ⅢF-02	BH-33	ⅢbL	楕円形	32	22	4	有	集中区1
Ⅱ-24・25	10-3・5	ⅢF-03	BI-33	ⅢbL	不整形	58	58	10	無	
Ⅱ-31	13-1・2	ⅢF-04	BA・BB-30	ⅢbL	楕円形	87	62	5	有	
Ⅱ-31	13-3・4	ⅢF-05	AZ-33	ⅢbL	長楕円形	110	46	15	有	
Ⅱ-31	13-5・6・7	ⅢF-06	BF-16	ⅢbM	長楕円形	89	43	7	有	
Ⅱ-31	13-8・14-1	ⅢF-07	BE-15	ⅢbM	楕円形	57	40	5	有	
Ⅱ-31	13-8・14-2	ⅢF-08	BE-15	ⅢbM	楕円形	(76)	53	10	無	
Ⅱ-32	14-5	ⅢBB-01	BK-32	ⅢbL	不整形	87	52	-	有	

表Ⅱ-5　ⅢP属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/坑底面	調査面規模(cm) 長軸	短軸	坑底面規模(cm) 長軸	短軸	深さ(cm)	長軸方向	調査面長短比	坑底面長短比	備考
Ⅱ-32	14-3・4	ⅢP-01	BA-33	Ⅵ	円形/円形	56	56	47	44	20	N-69° E	1.0	1.1	

表Ⅱ-6　ⅢPB・ⅢSB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	規模(cm) 長軸	短軸	被熱の有無	備考
Ⅱ-33	14-6	ⅢPB-01	BG-31	ⅢbL ⅢbM	170	96	無	
Ⅱ-33	14-7・8	ⅢPB-02	AZ-34	ⅢbL ⅢbM	141	116	無	
Ⅱ-24・25	11-2	ⅢPB-03	BI-34	ⅢbM	75	65	無	集中区1
Ⅱ-34	15-1・2	ⅢPB-04	AZ・BA-28	ⅢbL	229	105	無	
Ⅱ-35	15-3・4	ⅢPB-05	AZ-32	ⅢbM	243	88	無	
Ⅱ-35	15-5・6	ⅢPB-06	BL-17	ⅢbL	257	190	無	
Ⅱ-24・25	11-1	ⅢSB-01	BI-33	ⅢbM	120	80	有	集中区1
Ⅱ-35	15-7	ⅢSB-02	BA-30	ⅢbU	85	45	無	チャート集中
Ⅱ-35	15-8	ⅢSB-03	BJ-17	ⅢbL	152	60	有	

表Ⅱ-7　集中区出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	遺構名/グリッド	層位	器種	部位	器面調整 内側	器面調整 外側	文様 口縁部/文様帯	点数	備考
Ⅱ-26-1	47-1	SP11A	ⅧB3c	950 842他	集中区1/ BI-34	ⅢbM	甕	口縁部～胴部	ミガキ	ナデ	横走沈線文・矢羽根状刻み・馬蹄形押捺文＋ボタン状貼付文 /斜位・横走沈線文・刻み・馬蹄形押捺文＋ボタン状貼付文・馬蹄形押捺文＋貼付圏線帯	18	
Ⅱ-26-2	47-2	SP11B	ⅧB3c	804 805他	集中区1/ BI-34	ⅢbM	甕	口縁部～胴部	ミガキ	ナデ	横走沈線文・矢羽根状刻み・馬蹄形押捺文＋ボタン状貼付文/斜位・横走沈線文・刻み・馬蹄形押捺文＋ボタン状貼付文	7	
Ⅱ-26-3	47-3	SP11F	ⅧB3c	11127	集中区1/ BJ-33	ⅢbM	甕	底部	－	ハケメ	－	1	
Ⅱ-28-1	48-1	SP05A	ⅧB3c	8753 8755他	集中区2/ AZ・BA-23	ⅢbL	甕	口縁部～胴部	－	ナデ	斜位刻み（口唇）・斜位・横位沈線文/斜位・横位沈線文	8	
Ⅱ-28-2	48-2	SP09A	ⅧB3c	8473 8461他	集中区2/ BA・BB-20	ⅢbL	甕	口縁部～胴部	ミガキ	ミガキ	横走沈線文・矢羽根状刻み・馬蹄形押捺文/縦位＋横位沈線文＋刻み・馬蹄形押捺文＋貼付圏線帯	23	内面黒色処理
Ⅱ-28-3	48-3	SP23	ⅧB3c	8387	集中区2/ AZ-22	KR	甕	口縁部	ミガキ	弱いミガキ	馬蹄形押捺文＋貼付圏線帯 ・斜位沈線文	1	
Ⅱ-28-4	48-4	SP12	ⅧB3c	6116	集中区2/ BA-21	ⅢbL	甕	口縁部	ミガキ	ミガキ	横走沈線文	1	内面黒色処理
Ⅱ-28-5	48-5	SP15	ⅧB3c	8393	集中区2/ AZ-21	ⅢbL	甕	胴部	ミガキ	ミガキ	縦位・横走沈線文・刻み・馬蹄形押捺文＋貼付圏線帯	1	
Ⅱ-28-6	48-6	SP07A	ⅧB3c	6423 6416 6418	集中区2/ BB-21	ⅢbL	甕	胴部	ミガキ	ミガキ	斜位・横位沈線文・刻み・馬蹄形押捺文＋貼付圏線帯	3	
Ⅱ-28-7	48-7	SP19	ⅧB3c	5017 5018	集中区2/ BA-23	ⅢbL	甕	底部	弱いナデ	弱いミガキ	－	2	

表Ⅱ-8　集中区出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名/グリッド		計測値(mm) 長軸	計測値(mm) 短軸	計測値(mm) 厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-26-4	47-4	－	1044	台石	－	Ⅲc	集中区1	BI-33	116.8	102.6	60.7	1025.0	Sa.	被熱完形
Ⅱ-26-5	47-5	－	1043	台石	－	Ⅲc		BI-33	166.0	120.4	71.7	1840.0	Sa.	被熱略完形
Ⅱ-26-6	47-6	－	521	加工痕のある礫	－	ⅢbL		BH-33	(93.7)	32.2	23.8	(140.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-28-8	48-8	－	6107	たたき石	ⅠB3	ⅢbL	集中区2	BA-21	(113.0)	39.0	35.6	(230.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-28-9	48-9	－	7219	たたき石	ⅠB3	ⅢbL		BA-21	133.9	56.8	41.4	(350.0)	Sa.	被熱完形
Ⅱ-28-10	48-10	－	8360	たたき石	Ⅳ	ⅢbL		BA-21	(106.5)	72.8	40.2	(401.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-29-11	48-11	－	7095	刀子	－	ⅢbL		BB-22	(195.0)	22.0	2.8	26.0	Irn.	
Ⅱ-29-12a	48-12a	－	7096-1	刀子	－	ⅢbL		BA-21	(140.0)	20.0	3.0	(23.6)	Irn.	
Ⅱ-29-12b	48-12b	－	7096-2	刀子	－	ⅢbL		BA-21	(14.5)	16.5	2.0	1.1	Irn.	切先付近
Ⅱ-29-13	48-13	－	7097a	ワイヤー状鉄製品	－	ⅢbL		BA-21	(24.0)	7.0	7.0	(6.3)	Irn.	

集中区2　北側斜面出土礫(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
－		－	8412	ⅢbL	完形	52.2	(13.6)	33.0	(1.8)	14.5	(6.2)	1.6	(0.3)	39.0		Sa.	
－		－	6021	ⅢbL	完形	52.5	(13.3)	31.0	(3.8)	14.3	(6.4)	1.7	(0.2)	32.8	○	Sa.	
－		－	7109	ⅢbL	完形	52.5	(13.3)	36.3	1.5	24.2	3.5	1.4	(0.5)	57.3		Sa.	
－		－	7294	ⅢbL	略完形	52.7	(13.1)	50.5	15.7	9.4	(11.3)	1.0	(0.9)	38.8		Qu.	
－		－	7306	ⅢbL	略完形	52.9	(12.9)	45.6	10.8	20.5	(0.2)	1.2	(0.7)	57.0		Sa.	
Ⅱ-29-29		－	6368	ⅢbL	略完形	53.3	(12.5)	34.8	0.0	17.3	(3.4)	1.5	(0.4)	42.5		Sa.	実測
－		－	6373	ⅢbL	完形	53.6	(12.2)	24.0	(10.8)	23.8	3.1	2.2	0.3	38.2	○	Sa.	
－		－	7260	ⅢbL	略完形	54.2	(11.6)	36.2	1.4	33.2	12.5	1.5	(0.4)	73.5		Sa.	
－		－	6358-1	ⅢbL	完形	54.3	(11.5)	18.2	(16.6)	11.1	(9.6)	3.0	1.1	16.1		Mud.	
Ⅱ-29-30		－	6213	ⅢbL	略完形	55.7	(10.1)	27.8	(7.0)	11.1	(9.6)	2.0	0.1	22.9		Sa.	実測
－		－	7235	ⅢbL	略完形	55.7	(10.1)	29.3	(5.5)	20.5	(0.2)	1.9	0.0	51.1		Sa.	
－		－	6410	ⅢbL	完形	55.9	(9.9)	36.5	1.7	17.3	(3.4)	1.5	(0.4)	46.9		Sa.	
－		－	5982	ⅢbL	完形	56.2	(9.6)	24.5	(10.3)	10.5	(10.2)	2.3	0.4	19.6		Sa.	
－		－	8424	ⅢbL	略完形	56.2	(9.6)	33.1	(1.7)	28.4	7.7	1.7	(0.2)	65.2		Sa.	
Ⅱ-29-31		－	6043	ⅢbL	完形	56.6	(9.2)	36.7	1.9	21.5	0.8	1.5	(0.4)	57.8		Sa.	実測
－		－	7107	ⅢbL	完形	56.9	(8.9)	35.7	0.9	14.0	(6.7)	1.6	(0.3)	35.6	○	Sa.	
－		－	8359	ⅢbL	完形	57.3	(8.5)	27.0	(7.8)	18.0	(2.7)	2.1	0.2	28.9		Sa.	
－		－	6374	ⅢbL	完形	57.9	(7.9)	15.7	(19.1)	15.9	(4.8)	3.7	1.8	25.7		Sa.	
－		－	6068	ⅢbL	完形	58.0	(7.8)	30.7	(4.1)	29.8	9.1	1.9	(0.0)	66.2		Sa.	
Ⅱ-29-32		－	7117	ⅢbL	略完形	58.0	(7.8)	21.6	(13.2)	12.3	(8.4)	2.7	0.8	19.9		Sa.	実測
Ⅱ-29-33		－	6004	ⅢbL	完形	58.2	(7.6)	47.1	12.3	22.8	2.1	1.2	(0.7)	106.0	○	Sa.	実測
Ⅱ-29-34		－	6243	ⅢbL	完形	58.3	(7.5)	31.1	(3.7)	15.7	(5.0)	1.9	(0.0)	38.3	○	Sa.	実測
－		－	8404	ⅢbL	略完形	58.7	(7.1)	32.5	(2.3)	14.6	(6.1)	1.8	(0.1)	33.0		Sa.	
－		－	6158	ⅢbL	略完形	58.7	(7.1)	38.0	3.2	20.0	(0.7)	1.5	(0.4)	60.0		Sa.	
Ⅱ-29-35		－	7133	ⅢbL	略完形	58.7	(7.1)	34.1	(0.7)	23.1	2.4	1.7	(0.2)	54.2	○	Sa.	実測
－		－	7318	ⅢbL	完形	58.9	(6.9)	29.2	(5.6)	9.1	(11.6)	2.0	0.1	21.6		Sa.	
－		Ⅲ S056	6059 6368	ⅢbL	完形	58.9	(6.9)	26.7	(8.1)	13.0	(7.7)	2.2	0.3	26.1		Sa.	
－		－	5019	ⅢbL	略完形	60.0	(5.8)	49.3	14.5	12.0	(8.7)	1.2	(0.7)	51.0	○	Sa.	
－		－	7238	ⅢbL	略完形	60.3	(5.5)	24.7	(10.1)	22.7	2.0	2.4	0.5	38.1		Sa.	
Ⅱ-29-36		－	6179	ⅢbL	完形	60.5	(5.3)	21.1	(13.7)	20.5	(0.2)	2.9	1.0	33.0		Sa.	実測
Ⅱ-29-37		－	6244	ⅢbL	完形	60.6	(5.2)	24.0	(10.8)	24.0	3.3	2.5	0.6	60.0		Sa.	実測
－	49-1-	－	7264	ⅢbL	完形	60.9	(4.9)	26.7	(8.1)	15.9	(4.8)	2.3	0.4	28.0		Sa.	
－	14	－	7244	ⅢbL	完形	60.9	(4.9)	33.2	(1.6)	19.6	(1.1)	1.8	(0.1)	53.0		Sa.	
－		－	6087	ⅢbL	略完形	61.0	(4.8)	27.5	(7.3)	13.4	(7.3)	2.2	0.3	31.0		Sa.	
Ⅱ-29-38		－	7248	ⅢbL	完形	61.0	(4.8)	35.5	0.7	33.1	12.4	1.7	(0.2)	97.0		Sa.	実測
－		－	6119	ⅢbL	完形	61.4	(4.4)	27.6	(7.2)	27.1	6.4	2.2	0.3	60.0	○	Sa.	
－		－	6282	ⅢbL	完形	61.4	(4.4)	29.8	(5.0)	20.8	0.1	2.1	0.2	48.0	○	Sa.	
Ⅱ-29-39		－	7384	ⅢbL	完形	61.8	(4.0)	50.2	21.4	10.0	(10.7)	1.1	(0.8)	51.0	○	Sa.	実測
－		－	6149	ⅢbL	完形	61.9	(3.9)	33.0	(1.8)	19.2	(1.5)	1.9	(0.0)	51.0		Sa.	
－		－	3363	ⅢbL	完形	62.0	(3.8)	37.2	2.4	24.8	4.1	1.7	(0.2)	54.0		Sa.	
Ⅱ-29-40		－	6381	ⅢbL	略完形	62.3	(3.5)	29.0	(5.8)	14.9	(5.8)	2.1	0.2	24.0		Mud.	実測
－		－	6241	ⅢbL	略完形	62.5	(3.3)	27.4	(7.4)	18.7	(2.0)	2.3	0.4	29.0		Sa.	
Ⅱ-29-41		－	6005	ⅢbL	完形	63.0	(2.8)	29.7	(5.1)	28.9	8.2	2.1	0.2	56.0		Sa.	実測
－		－	6268	ⅢbL	略完形	63.3	(2.5)	27.3	(7.5)	19.8	(0.9)	2.3	0.4	44.0		Mud.	
－		－	5987	ⅢbL	完形	63.4	(2.4)	24.3	(10.5)	14.7	(6.0)	2.6	0.7	28.0		Sa.	
Ⅱ-29-42		－	6096	ⅢbL	完形	63.5	(2.3)	36.8	2.0	20.1	(0.6)	1.7	(0.2)	45.0		Sa.	実測
－		－	6161	ⅢbL	完形	63.6	(2.2)	30.2	(4.6)	9.5	(11.2)	2.1	0.2	24.0		Sa.	
－		－	7252	ⅢbL	完形	63.6	(2.2)	33.9	(0.9)	24.3	3.6	1.9	(0.0)	57.0		Sa.	
－		－	7202	ⅢbL	略完形	63.6	(2.2)	38.9	4.1	25.9	5.2	1.6	(0.3)	64.0		Sa.	
Ⅱ-29-43		－	7222	ⅢbL	完形	63.7	(2.1)	28.2	(6.6)	14.1	(6.6)	2.3	0.4	31.0		Sa.	実測
－		－	7100	ⅢbL	完形	63.9	(1.9)	28.5	(6.3)	15.4	(5.3)	2.2	0.3	43.0		Sa.	
－		－	7233	ⅢbL	完形	64.0	(1.8)	44.5	9.7	29.8	9.1	1.4	(0.5)	121.0		Sa.	
Ⅱ-29-44		－	6174	ⅢbL	完形	64.2	(1.6)	30.3	(4.5)	17.3	(3.4)	2.1	0.2	36.0	○	Sa.	実測
－		－	6403	ⅢbL	略完形	64.2	(1.6)	36.0	1.2	34.3	13.6	1.8	(0.1)	72.0		Mud.	
－		－	7338	ⅢbL	完形	65.0	(0.8)	26.0	(8.8)	17.7	(3.0)	2.5	0.6	36.0		Sa.	
－		－	6016	ⅢbL	略完形	65.9	0.1	32.4	(2.4)	25.4	4.7	2.0	0.1	63.0		Sa.	
Ⅱ-29-45		－	7195	ⅢbL	略完形	65.9	0.1	42.3	7.5	19.6	(1.1)	1.6	(0.3)	72.0	○	Sa.	実測
－		－	7207	ⅢbL	略完形	66.0	0.2	38.9	4.1	11.0	(9.7)	1.7	(0.2)	31.0		Sa.	
－		－	7142	ⅢbL	完形	66.0	0.2	34.2	(0.6)	19.0	(1.7)	1.9	0.0	56.0		Sa.	
－		－	6364	ⅢbL	略完形	66.8	1.0	25.6	(9.2)	21.9	1.2	2.6	0.7	40.0		Mud.	
－		Ⅲ S061	6128 6129	ⅢbL	略完形	67.0	1.2	47.0	12.2	23.3	2.6	1.4	(0.5)	80.0	○	Sa.	
－		－	6118	ⅢbL	完形	67.7	1.9	33.4	(1.4)	24.5	3.8	2.0	0.1	66.0	○	Sa.	
Ⅱ-29-46		－	7139	ⅢbL	完形	67.7	1.9	24.4	(10.4)	25.7	5.0	2.8	0.9	70.0	○	Sa.	実測
－		－	7305	ⅢbL	完形	67.8	2.0	47.6	12.8	27.2	6.5	1.4	(0.5)	116.0	○	Sa.	

集中区2　北側斜面出土礫(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-29-14		−	6245	ⅢbL	完形	19.3	(37.5)	13.7	(21.1)	11.1	(9.6)	1.4	(0.5)	3.8	○	Sa.	実測
−		−	6314	ⅢbL	完形	19.9	(36.9)	17.0	(17.8)	9.2	(11.5)	1.2	(0.7)	3.4		Sa.	
−		−	6347	ⅢbL	完形	20.7	(36.1)	13.9	(20.9)	6.0	(14.7)	1.5	(0.4)	2.4	○	Sa.	
−		−	6356	ⅢbL	完形	20.8	(36.0)	18.2	(16.6)	11.9	(8.8)	1.1	(0.8)	5.3		Sa.	
−		−	8485	ⅢbL	略完形	22.3	(34.5)	23.9	(10.9)	10.5	(10.2)	0.9	(1.0)	6.0		Mud.	
Ⅱ-29-15		−	7146	ⅢbL	略完形	24.7	(32.1)	11.8	(23.0)	11.4	(9.3)	2.1	0.2	2.5	○	Sa.	実測
−		−	6038	ⅢbL	略完形	25.0	(31.8)	23.6	(11.2)	17.4	(3.3)	1.1	(0.8)	7.9		Sa.	
−		−	6188	ⅢbL	完形	26.5	(30.3)	19.0	(15.8)	10.7	(10.0)	1.4	(0.5)	6.8		Sa.	
−		−	6012	ⅢbL	完形	27.7	(29.1)	18.1	(16.7)	11.0	(9.7)	1.5	(0.4)	6.8		Cha.	
−		−	6414	ⅢbL	略完形	27.9	(28.9)	21.7	(13.1)	11.0	(9.7)	1.3	(0.6)	8.7		Mud.	
−		−	7354	ⅢbL	完形	28.4	(28.4)	27.4	(7.4)	14.7	(6.0)	1.0	(0.9)	11.7		Sa.	
−		−	8423	ⅢbL	略完形	29.0	(27.8)	26.1	(8.7)	10.8	(9.9)	1.1	(0.8)	10.6		Sa.	
−		−	6171	ⅢbL	完形	29.8	(27.0)	27.1	(7.7)	18.0	(2.7)	1.1	(0.8)	16.9		Sa.	
−		−	7362	ⅢbL	略完形	29.8	(27.0)	28.4	(6.4)	25.3	4.6	1.0	(0.9)	24.1		Sa.	
−		−	9104	ⅢbL	略完形	30.0	(26.8)	15.1	(19.7)	12.9	(7.8)	2.0	0.1	7.8		Sa.	
−		−	9131	ⅢbL	完形	30.1	(26.7)	21.9	(12.9)	12.1	(8.6)	1.4	(0.5)	7.7		Sa.	
Ⅱ-29-16		−	7358	ⅢbL	略完形	30.3	(26.5)	22.0	(12.8)	10.4	(10.3)	1.4	(0.5)	7.4	○	Sa.	実測
−		−	6196	ⅢbL	完形	31.0	(25.8)	26.7	(8.1)	10.2	(10.5)	1.2	(0.7)	7.6		Sa.	
−		−	6176	ⅢbL	略完形	31.3	(25.5)	25.5	(9.3)	17.6	(3.1)	1.2	(0.7)	15.7		Sa.	
−		−	6376	ⅢbL	完形	31.8	(25.0)	20.6	(14.2)	14.2	(6.5)	1.5	(0.4)	11.0		Sa.	
−		−	6074	ⅢbL	略完形	32.3	(24.5)	26.2	(8.6)	19.7	(1.0)	1.2	(0.7)	12.9		Sa.	
−		−	6184	ⅢbL	略完形	36.3	(20.5)	22.9	(11.9)	10.6	(10.1)	1.6	(0.3)	8.0	○	Sa.	
−		−	6336	ⅢbL	完形	36.6	(20.2)	26.8	(8.0)	8.3	(12.4)	1.4	(0.5)	10.3		Sa.	
Ⅱ-29-17		−	6363	ⅢbL	完形	37.3	(19.5)	18.5	(16.3)	15.0	(5.7)	2.0	0.1	11.4		Sa.	実測
Ⅱ-29-18		−	6200	ⅢbL	完形	37.4	(19.4)	28.4	(6.4)	19.7	(1.0)	1.3	(0.6)	25.4		Sa.	実測
−		−	6345	ⅢbL	完形	38.3	(18.5)	24.6	(10.2)	12.5	(8.2)	1.6	(0.3)	14.4		Sa.	
Ⅱ-29-19		−	6028	ⅢbL	完形	39.0	(17.8)	17.0	(17.8)	8.0	(12.7)	2.3	0.4	5.2		Sa.	実測
−		−	6394	ⅢbL	略完形	39.0	(17.8)	23.0	(11.8)	19.0	(1.7)	1.7	(0.2)	20.7		Sa.	
−		−	9130	ⅢbL	完形	39.2	(17.6)	28.7	(6.1)	15.3	(5.4)	1.4	(0.5)	20.0		Sa.	
Ⅱ-29-20		−	8375	ⅢbL	略完形	39.5	(17.3)	28.7	(6.1)	12.0	(8.7)	1.4	(0.5)	15.9		Qu.	実測
−		−	6115	ⅢbL	略完形	39.9	(16.9)	20.8	(14.0)	20.4	(0.3)	1.9	0.0	18.2		Sa.	
−		−	6144	ⅢbL	略完形	40.2	(16.6)	31.2	(3.6)	28.5	7.8	1.3	(0.6)	46.6	○	Sa.	
Ⅱ-29-21	49-1-	−	7329	ⅢbL	完形	40.4	(16.4)	37.0	2.2	28.4	7.7	1.1	(0.8)	50.4	○	Sa.	実測
−	14	−	7247	ⅢbL	略完形	40.7	(16.1)	27.1	(7.7)	11.2	(9.5)	1.5	(0.4)	11.3		Mud.	
−		−	6372	ⅢbL	略完形	40.8	(16.0)	24.0	(10.8)	19.2	(1.5)	1.7	(0.2)	18.8		Mud.	
−		−	6069	ⅢbL	略完形	42.6	(14.2)	31.0	(3.8)	11.8	(8.9)	1.4	(0.5)	17.0	○	Sa.	
−		−	7125	ⅢbL	完形	42.6	(14.2)	33.5	(1.3)	13.1	(7.6)	1.3	(0.6)	24.9		Sa.	
−		−	7111	ⅢbL	略完形	42.8	(14.0)	22.0	(12.8)	21.3	0.6	1.9	0.0	22.0	○	Sa.	
−		−	7231	ⅢbL	完形	43.3	(13.5)	36.5	1.7	13.8	(6.9)	1.2	(0.7)	24.3		Sa.	
Ⅱ-29-22		−	7189	ⅢbL	完形	43.5	(13.3)	24.9	(9.9)	11.2	(9.5)	1.7	(0.2)	13.3		Mud.	実測
−		−	7303	ⅢbL	完形	43.6	(13.2)	23.6	(13.2)	20.2	(0.5)	2.0	0.1	24.3		Sa.	
Ⅱ-29-23		−	7155	ⅢbL	完形	43.8	(13.0)	33.6	(1.2)	10.2	(10.5)	1.3	(0.6)	19.3	○	Sa.	実測
−		−	6404	ⅢbL	略完形	43.9	(12.9)	36.1	1.3	18.4	(2.3)	1.2	(0.7)	27.5		Sa.	
Ⅱ-29-24		−	7207	ⅢbL	完形	44.4	(12.4)	19.0	(15.8)	17.0	(3.7)	2.3	0.4	19.1		Sa.	実測
−		−	5973	ⅢbL	完形	46.0	(10.8)	17.5	(17.3)	13.4	(7.3)	2.6	0.7	12.9		Sa.	
−		−	7168	ⅢbL	完形	46.5	(10.3)	23.1	(11.7)	18.3	(2.4)	2.0	0.1	24.8		Sa.	
−		−	6156	ⅢbL	略完形	46.6	(10.2)	32.5	(2.3)	11.4	(9.3)	1.4	(0.5)	16.5		Sa.	
−		−	3361	ⅢbL	略完形	46.9	(9.9)	24.2	(10.6)	27.2	6.5	1.9	0.0	38.7		Sa.	
−		−	8366	ⅢbL	完形	47.2	(9.6)	20.3	(14.5)	12.4	(8.3)	2.3	0.4	17.2		Sa.	
Ⅱ-29-25		−	6168	ⅢbL	完形	47.2	(9.6)	32.3	(2.5)	10.5	(10.2)	1.5	(0.4)	15.7		Sa.	実測
−		−	6401	ⅢbL	完形	48.0	(8.8)	30.0	(4.8)	21.0	0.3	1.6	(0.3)	33.3		Con.	
−		−	6009	ⅢbL	略完形	48.5	(8.3)	17.8	(17.0)	18.3	(2.4)	2.7	0.8	18.0		Sa.	
−		−	7108	ⅢbL	完形	48.5	(8.3)	21.6	(13.2)	15.7	(5.0)	2.2	0.3	21.6		Sa.	
−		Ⅲ S059	6388 6389	ⅢbL	略完形	48.5	(17.3)	31.6	(3.2)	11.1	(9.6)	1.5	(0.4)	22.9		Sa.	
−		−	7254	ⅢbL	略完形	49.1	(16.7)	37.7	2.9	34.0	13.3	1.3	(0.6)	47.8		Sa.	
−		−	7249	ⅢbL	完形	49.7	(16.1)	27.0	(7.8)	11.8	(8.9)	1.8	(0.1)	22.4		Sa.	
−		−	8349	ⅢbL	略完形	50.0	(15.8)	49.4	14.6	45.2	24.5	1.0	(0.9)	146.2		Bs.	
−		−	7167	ⅢbL	完形	50.1	(15.7)	26.4	(8.4)	15.1	(5.6)	1.9	(0.0)	27.4		Sa.	
Ⅱ-29-26		−	7319	ⅢbL	略完形	50.2	(15.6)	26.6	(8.2)	17.2	(3.5)	1.9	(0.0)	28.7		Sa.	実測
−		−	8447	ⅢbL	略完形	50.3	(15.5)	38.0	3.2	21.0	0.3	1.3	(0.6)	48.9		Sa.	
Ⅱ-29-27		−	7226	ⅢbL	略完形	50.5	(15.3)	48.0	13.2	29.4	8.7	1.1	(0.8)	109.8		Qu.	実測
−		−	7149	ⅢbL	完形	50.6	(15.2)	27.0	(7.8)	12.7	(8.0)	1.9	(0.0)	20.7		Sa.	
Ⅱ-29-28		Ⅲ S060	6130 7386	ⅢbL	略完形	51.2	(14.6)	27.9	(6.9)	21.1	0.4	1.8	(0.1)	46.2	○	Sa.	実測
−		−	8403	ⅢbL	完形	52.0	(13.8)	32.0	(2.8)	14.9	(5.8)	1.6	(0.3)	26.2		Sa.	

集中区2　北側斜面出土礫(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比 標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
－		－	8412	ⅢbL	完形	52.2	(13.6)	33.0	(1.8)	14.5	(6.2)	1.6	(0.3)	39.0		Sa.	
－		－	6021	ⅢbL	完形	52.5	(13.3)	31.0	(3.8)	14.3	(6.4)	1.7	(0.2)	32.8	○	Sa.	
－		－	7109	ⅢbL	完形	52.5	(13.3)	36.3	1.5	24.2	3.5	1.4	(0.5)	57.3		Sa.	
－		－	7294	ⅢbL	略完形	52.7	(13.1)	50.5	15.7	9.4	(11.3)	1.0	(0.9)	38.8		Qu.	
－		－	7306	ⅢbL	略完形	52.9	(12.9)	45.6	10.8	20.5	(0.2)	1.2	(0.7)	57.0		Sa.	
Ⅱ-29-29		－	6398	ⅢbL	略完形	53.3	(12.5)	34.8	0.0	17.3	(3.4)	1.5	(0.4)	42.5		Sa.	実測
－		－	6373	ⅢbL	完形	53.6	(12.2)	24.0	(10.8)	23.8	3.1	2.2	0.3	38.2	○	Sa.	
－		－	7260	ⅢbL	略完形	54.2	(11.6)	36.2	1.4	33.2	12.5	1.5	(0.4)	73.5		Sa.	
－		－	6358-1	ⅢbL	完形	54.3	(11.5)	18.2	(16.6)	11.1	(9.6)	3.0	1.1	16.1		Mud.	
Ⅱ-29-30		－	6213	ⅢbL	略完形	55.7	(10.1)	27.8	(7.0)	11.1	(9.6)	2.0	0.1	22.9		Sa.	実測
－		－	7235	ⅢbL	略完形	55.7	(10.1)	29.3	(5.5)	20.5	(0.2)	1.9	0.0	51.1		Sa.	
－		－	6410	ⅢbL	完形	55.9	(9.9)	36.5	1.7	17.3	(3.4)	1.5	(0.4)	46.9		Sa.	
－		－	5982	ⅢbL	完形	56.2	(9.6)	24.5	(10.3)	10.5	(10.2)	2.3	0.4	19.6		Sa.	
－		－	8424	ⅢbL	略完形	56.2	(9.6)	33.1	(1.7)	28.4	7.7	1.7	(0.2)	65.2		Sa.	
Ⅱ-29-31		－	6043	ⅢbL	完形	56.6	(9.2)	36.7	1.9	21.5	0.8	1.5	(0.4)	57.8		Sa.	実測
－		－	7107	ⅢbL	完形	56.9	(8.9)	35.7	0.9	14.0	(6.7)	1.6	(0.3)	35.6	○	Sa.	
－		－	8359	ⅢbL	完形	57.3	(8.5)	27.0	(7.8)	18.0	(2.7)	2.1	0.2	28.9		Sa.	
－		－	6374	ⅢbL	完形	57.9	(7.9)	15.7	(19.1)	15.9	(4.8)	3.7	1.8	25.7		Sa.	
－		－	6068	ⅢbL	完形	58.0	(7.8)	30.7	(4.1)	29.8	9.1	1.9	(0.0)	66.2		Sa.	
Ⅱ-29-32		－	7117	ⅢbL	略完形	58.0	(7.8)	21.6	(13.2)	12.3	(8.4)	2.7	0.8	19.9		Sa.	実測
Ⅱ-29-33		－	6004	ⅢbL	完形	58.2	(7.6)	47.1	12.3	22.8	2.1	1.2	(0.7)	106.0	○	Sa.	実測
Ⅱ-29-34		－	6243	ⅢbL	完形	58.3	(7.5)	31.1	(3.7)	15.7	(5.0)	1.9	(0.0)	38.3	○	Sa.	実測
－		－	8404	ⅢbL	略完形	58.7	(7.1)	32.5	(2.3)	14.6	(6.1)	1.8	(0.1)	33.0		Sa.	
－		－	6158	ⅢbL	略完形	58.7	(7.1)	38.0	3.2	20.0	(0.7)	1.5	(0.4)	60.0		Sa.	
Ⅱ-29-35		－	7133	ⅢbL	略完形	58.7	(7.1)	34.1	(0.7)	23.1	2.4	1.7	(0.2)	54.2	○	Sa.	実測
－		－	7318	ⅢbL	完形	58.9	(6.9)	29.2	(5.6)	9.1	(11.6)	2.0	0.1	21.6		Sa.	
－		Ⅲ S056	6059 6368	ⅢbL	完形	58.9	(6.9)	26.7	(8.1)	13.0	(7.7)	2.2	0.3	26.1		Sa.	
－		－	5019	ⅢbL	略完形	60.0	(5.8)	49.3	14.5	12.0	(8.7)	1.2	(0.7)	51.0	○	Sa.	
－		－	7238	ⅢbL	略完形	60.3	(5.5)	24.7	(10.1)	22.7	2.0	2.4	0.5	38.1		Sa.	
Ⅱ-29-36		－	6179	ⅢbL	完形	60.5	(5.3)	21.1	(13.7)	20.5	(0.2)	2.9	1.0	33.0		Sa.	実測
Ⅱ-29-37		－	6244	ⅢbL	完形	60.6	(5.2)	24.0	(10.8)	24.0	3.3	2.5	0.6	60.0		Sa.	実測
－	49-1-	－	7264	ⅢbL	完形	60.9	(4.9)	26.7	(8.1)	15.9	(4.8)	2.3	0.4	28.0		Sa.	
－	14	－	7244	ⅢbL	完形	60.9	(4.9)	33.2	(1.6)	19.6	(1.1)	1.8	(0.1)	53.0		Sa.	
－		－	6087	ⅢbL	略完形	61.0	(4.8)	27.5	(7.3)	13.4	(7.3)	2.2	0.3	31.0		Sa.	
Ⅱ-29-38		－	7248	ⅢbL	完形	61.0	(4.8)	35.5	0.7	33.1	12.4	1.7	(0.2)	97.0		Sa.	実測
－		－	6119	ⅢbL	完形	61.4	(4.4)	27.6	(7.2)	27.1	6.4	2.2	0.3	60.0	○	Sa.	
－		－	6282	ⅢbL	完形	61.4	(4.4)	29.8	(5.0)	20.8	0.1	2.1	0.2	48.0	○	Sa.	
Ⅱ-29-39		－	7384	ⅢbL	完形	61.8	(4.0)	56.2	21.4	10.0	(10.7)	1.1	(0.8)	51.0	○	Sa.	実測
－		－	6149	ⅢbL	完形	61.9	(3.8)	35.0	(1.8)	19.2	(1.5)	1.9	(0.0)	51.0		Sa.	
－		－	3363	ⅢbL	完形	62.0	(3.8)	37.2	2.4	24.8	4.1	1.7	(0.2)	54.0		Sa.	
Ⅱ-29-40		－	6381	ⅢbL	略完形	62.3	(3.5)	29.0	(5.8)	14.9	(5.8)	2.1	0.2	24.0		Mud.	実測
－		－	6241	ⅢbL	略完形	62.5	(3.3)	27.4	(7.4)	18.7	(2.0)	2.3	0.4	29.0		Sa.	
Ⅱ-29-41		－	6005	ⅢbL	完形	63.0	(2.8)	29.7	(5.1)	28.9	8.2	2.1	0.2	56.0		Sa.	実測
－		－	6268	ⅢbL	略完形	63.3	(2.5)	27.3	(7.5)	19.8	(0.9)	2.3	0.4	44.0		Mud.	
－		－	5987	ⅢbL	完形	63.4	(2.4)	24.3	(10.5)	14.7	(6.0)	2.6	0.7	28.0		Sa.	
Ⅱ-29-42		－	6096	ⅢbL	完形	63.5	(2.3)	36.8	2.0	20.1	(0.6)	1.7	(0.2)	45.0		Sa.	実測
－		－	6161	ⅢbL	完形	63.6	(2.2)	30.2	(4.6)	9.5	(11.2)	2.1	0.2	24.0		Sa.	
－		－	7252	ⅢbL	完形	63.6	(2.2)	33.9	(0.9)	24.3	3.6	1.9	(0.0)	57.0		Sa.	
－		－	7202	ⅢbL	略完形	63.6	(2.2)	38.9	4.1	25.9	5.2	1.6	(0.3)	64.0		Sa.	
Ⅱ-29-43		－	7222	ⅢbL	完形	63.7	(2.1)	28.2	(6.6)	14.1	(6.6)	2.3	0.4	31.0		Sa.	実測
－		－	7100	ⅢbL	完形	63.9	(1.9)	28.5	(6.3)	15.4	(5.3)	2.2	0.3	43.0		Sa.	
－		－	7233	ⅢbL	完形	64.0	(1.8)	44.5	9.7	29.8	9.1	1.4	(0.5)	121.0		Sa.	
Ⅱ-29-44		－	6174	ⅢbL	完形	64.2	(1.6)	30.3	(4.5)	17.3	(3.4)	2.1	0.2	36.0	○	Sa.	実測
－		－	6403	ⅢbL	略完形	64.2	(1.6)	36.0	1.2	34.3	13.6	1.8	(0.1)	72.0		Mud.	
－		－	7338	ⅢbL	完形	65.0	(0.8)	26.0	(8.8)	17.7	(3.0)	2.5	0.6	36.0		Sa.	
－		－	6016	ⅢbL	略完形	65.9	0.1	32.4	(2.4)	25.4	4.7	2.0	0.1	63.0		Sa.	
Ⅱ-29-45		－	7195	ⅢbL	略完形	65.9	0.1	42.3	7.5	19.6	(1.1)	1.6	(0.3)	72.0	○	Sa.	実測
－		－	7307	ⅢbL	略完形	66.0	0.2	38.9	4.1	11.0	(9.7)	1.7	(0.2)	31.0		Sa.	
－		－	7142	ⅢbL	完形	66.0	0.2	34.2	(0.6)	19.0	(1.7)	1.9	0.0	56.0		Sa.	
－		－	6364	ⅢbL	略完形	66.8	1.0	25.6	(9.2)	21.9	1.2	2.6	0.7	40.0		Mud.	
－		Ⅲ S061	6128 6129	ⅢbL	略完形	67.0	1.2	47.0	12.2	23.3	2.6	1.4	(0.5)	80.0	○	Sa.	
Ⅱ-29-46		－	6118	ⅢbL	完形	67.7	1.9	33.4	(1.4)	24.5	3.8	2.0	0.1	66.0	○	Sa.	
－		－	7139	ⅢbL	完形	67.7	1.9	24.4	(10.4)	25.7	5.0	2.8	0.9	70.0	○	Sa.	実測
－		－	7305	ⅢbL	完形	67.8	2.0	47.6	12.8	27.2	6.5	1.4	(0.5)	116.0	○	Sa.	

集中区2　北側斜面出土礫(3)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比 標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-29-47		−	6428	Ⅲb上	完形	68.0	2.2	19.6	(15.2)	16.6	(4.1)	3.5	1.6	26.0	○	Sa.	実測
Ⅱ-29-48		−	6262	Ⅲb上	完形	68.1	2.3	34.7	(0.1)	15.2	(5.5)	2.0	0.1	50.0		Sa.	実測
−		−	6190	Ⅲb上	完形	68.2	2.4	36.6	1.8	19.8	(0.9)	1.9	(0.0)	52.0	○	Sa.	
−		−	7196	Ⅲb上	完形	68.4	2.6	36.6	1.8	17.8	(2.9)	1.9	(0.0)	58.0	○	Sa.	
−		−	7239	Ⅲb上	完形	69.0	3.2	28.8	(6.0)	19.5	(1.2)	2.4	0.5	49.0		Sa.	
Ⅱ-29-49		−	7176	Ⅲb上	完形	69.0	3.2	43.3	8.5	18.3	(2.4)	1.6	(0.3)	66.0		Sa.	実測
−		−	7193	Ⅲb上	完形	69.0	3.2	30.7	(4.1)	19.8	(0.9)	2.2	0.3	56.0		Sa.	
−		−	6091	Ⅲb上	略完形	69.5	3.7	37.6	2.8	25.1	4.4	1.8	(0.1)	59.0		Mud.	
Ⅱ-29-50		−	8444	Ⅲb上	略完形	69.5	3.7	32.8	(2.0)	19.5	(1.2)	2.1	0.2	62.0		Sa.	実測
−		−	6003	Ⅲb上	完形	69.6	3.8	34.4	(0.4)	16.2	(4.5)	2.0	0.1	46.0	○	Sa.	
Ⅱ-29-51		−	6276	Ⅲb上	略完形	69.9	4.1	31.1	(3.7)	15.0	(5.7)	2.2	0.3	56.0		Sa.	実測
−		−	7308	Ⅲb上	完形	70.0	4.2	37.4	2.6	23.3	2.6	1.9	(0.0)	80.0		Sa.	
−		−	3358	Ⅲb上	略完形	70.0	4.2	45.0	10.2	37.2	16.5	1.6	(0.3)	106.0		Sa.	
Ⅱ-29-52		−	7154	Ⅲb上	略完形	70.1	4.3	37.0	2.2	13.8	(6.9)	1.9	(0.0)	44.0		Sa.	実測
−		−	6133	Ⅲb上	完形	70.1	4.3	37.9	3.1	25.7	5.0	1.8	(0.1)	101.0	○	Sa.	
Ⅱ-29-53		−	8378	Ⅲb上	完形	70.4	4.6	60.0	25.2	13.7	(7.0)	1.2	(0.7)	66.0		Mud.	実測
−		−	6408	Ⅲb上	完形	70.5	4.7	24.8	(10.0)	21.3	0.6	2.8	0.9	50.0		Sa.	
−		−	6060	Ⅲb上	略完形	71.1	5.3	28.1	(6.7)	23.2	2.5	2.5	0.6	63.0		Sa.	
Ⅱ-29-54		−	6305	Ⅲb上	完形	71.8	6.0	28.2	(6.6)	29.0	8.3	2.5	0.6	50.0		Ser.	実測
−		−	7295	Ⅲb上	略完形	72.1	6.3	44.0	9.2	15.2	(5.5)	1.6	(0.3)	46.0		Mud.	
−		−	9123	Ⅲb上	略完形	72.1	6.3	31.0	(3.8)	23.0	2.3	2.3	0.4	75.0		Sa.	
−		−	7149	Ⅲb上	完形	72.1	6.3	38.3	3.5	20.9	0.2	1.9	(0.0)	76.0		Sa.	
Ⅱ-29-55		−	7348	Ⅲb上	完形	72.3	6.5	36.8	2.0	12.8	(7.9)	2.0	0.1	51.0	○	Sa.	実測
Ⅱ-30-56		−	8407	Ⅲb上	略完形	72.5	6.7	47.2	12.4	22.6	1.9	1.5	(0.4)	84.0		Sa.	実測
−		−	6225	Ⅲb上	略完形	73.0	7.2	62.7	27.9	25.1	4.4	1.2	(0.7)	109.0		Sa.	
−		Ⅲ S053	6386-2 6384	Ⅲb上	略完形	73.1	7.3	33.5	(1.3)	15.7	(5.0)	2.2	0.3	50.0		Sa.	
−		−	5969	Ⅲb上	完形	73.3	7.5	37.2	2.4	33.5	12.8	2.0	0.1	99.0		Sa.	
Ⅱ-30-57		−	7131	Ⅲb上	完形	73.6	7.8	48.6	13.8	25.4	4.7	1.5	(0.4)	93.0		Sa.	実測
−		−	8418	Ⅲb上	完形	74.0	8.2	25.0	(9.8)	21.7	1.0	3.0	1.1	43.0		Sa.	
−		−	9096	Ⅲb上	完形	74.1	8.3	46.0	11.2	27.5	6.8	1.6	(0.3)	109.0		Sa.	
−		−	7265	Ⅲb上	完形	74.1	8.3	33.3	(1.5)	33.8	13.1	2.2	0.3	80.0		Sa.	
−	49-1-14	−	6235	Ⅲb上	略完形	74.3	8.5	38.3	3.5	22.3	1.6	1.9	0.0	57.0		Sa.	
−		−	6238	Ⅲb上	完形	74.8	9.0	56.3	21.5	27.7	7.0	1.3	(0.6)	133.0		Sa.	
−		−	7388	Ⅲb上	完形	75.0	9.2	46.7	11.9	21.2	0.5	1.6	(0.3)	109.0	○	Sa.	
Ⅱ-30-58		−	6329	Ⅲb上	完形	75.0	9.2	42.2	7.4	19.0	(1.7)	1.8	(0.1)	72.0		Mud.	実測
Ⅱ-30-59		−	6207	Ⅲb上	完形	75.2	9.4	35.7	0.9	19.2	(1.5)	2.1	0.2	75.0	○	Sa.	実測
−		−	6088	Ⅲb上	完形	75.3	9.5	32.2	(2.6)	17.8	(2.9)	2.3	0.4	47.0		Sa.	
−		Ⅲ S048	6257 6263	Ⅲb上	完形	75.8	10.0	36.6	1.8	20.6	(0.1)	2.1	0.2	64.0		Sa.	
−		−	6052	Ⅲb上	完形	76.7	10.9	37.5	2.7	17.6	(3.1)	2.0	0.1	64.0		Sa.	
Ⅱ-30-60		−	6150	Ⅲb上	完形	76.8	11.0	38.0	3.2	11.0	(9.7)	2.0	0.1	42.0		Sa.	実測
−		−	6296	Ⅲb上	完形	76.8	11.0	34.6	(0.2)	29.8	9.1	2.2	0.3	77.0		Sa.	
−		−	6063	Ⅲb上	完形	77.0	11.2	29.4	(5.4)	24.3	3.6	2.6	0.7	53.0	○	Sa.	
−		−	6010	Ⅲb上	完形	77.2	11.4	31.8	(3.0)	15.7	(5.0)	2.4	0.5	52.0		Sa.	
−		−	8877	Ⅲb上	完形	77.2	11.4	32.6	(2.2)	33.3	12.6	2.4	0.5	98.0		Sa.	
Ⅱ-30-61		−	6324	Ⅲb上	完形	77.2	11.4	43.7	8.9	25.7	5.0	1.8	(0.1)	106.0		Sa.	実測
−		−	7201	Ⅲb上	略完形	77.4	11.6	29.3	(5.5)	28.1	7.4	2.6	0.7	86.0	○	Sa.	
−		Ⅲ S041	7137 7138	Ⅲb上	略完形	77.4	11.6	38.5	3.7	20.6	(0.1)	2.0	0.1	77.0		Sa.	
Ⅱ-30-62		−	6370	Ⅲb上	完形	77.5	11.7	39.5	4.7	29.1	8.4	2.0	0.1	90.0		Sa.	実測
−		−	7240	Ⅲb上	完形	77.6	11.8	54.9	20.1	16.5	(4.2)	1.4	(0.5)	71.0		Sa.	
−		−	8331	Ⅲb上	完形	77.6	11.8	44.0	9.2	17.0	(3.7)	1.8	(0.1)	80.0		Sa.	
−		−	7227	Ⅲb上	完形	77.9	12.1	29.1	(5.7)	21.4	0.7	2.7	0.8	41.0		Mud.	
Ⅱ-30-63		−	6117	Ⅲb上	完形	78.2	12.4	37.7	2.9	23.0	2.3	2.1	0.2	54.0	○	Sa.	実測
−		−	8367	Ⅲb上	完形	78.4	12.6	28.7	(6.1)	25.3	4.6	2.7	0.8	73.0		Sa.	
−		−	7171	Ⅲb上	完形	78.7	12.9	48.3	13.5	47.1	26.4	1.6	(0.3)	177.0		Sa.	
−		−	6260	Ⅲb上	略完形	78.8	13.0	41.0	6.2	20.5	(0.2)	1.9	0.0	84.0	○	Sa.	
Ⅱ-30-64		−	7229	Ⅲb上	完形	79.0	13.2	53.5	18.7	17.8	(2.9)	1.5	(0.4)	94.0		Sa.	実測
−		−	6275	Ⅲb上	完形	79.1	13.3	28.7	(6.1)	19.6	(1.1)	2.8	0.9	46.0		Sa.	
−		−	5181	Ⅲb上	完形	79.2	13.4	51.8	17.0	25.5	4.8	1.5	(0.4)	147.0	○	Sa.	
Ⅱ-30-65		−	6256	Ⅲb上	完形	79.7	13.9	44.9	10.1	16.7	(4.0)	1.8	(0.1)	92.0	○	Sa.	実測
−		−	6126	Ⅲb上	完形	79.8	14.0	44.7	9.9	24.5	3.8	1.8	(0.1)	110.0	○	Sa.	
−		−	6359	Ⅲb上	略完形	80.8	15.0	45.3	10.5	25.2	4.5	1.8	(0.1)	60.0		Mud.	
−		−	7118	Ⅲb上	略完形	80.9	15.1	32.0	(2.8)	23.2	2.5	2.5	0.6	53.0		Sa.	
Ⅱ-30-66		−	6103	Ⅲb上	略完形	81.3	15.5	27.0	(7.8)	14.3	(6.4)	3.0	1.1	40.0		Sa.	実測

集中区2　北側斜面出土礫(4)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比 標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-30-67		－	6393	Ⅲb	完形	81.4	15.6	37.9	3.1	28.0	7.3	2.1	0.2	78.0		Sa.	実測
－		－	7204	Ⅲb	完形	82.0	16.2	40.8	6.0	32.4	11.7	2.0	0.1	129.0		Con.	
－		－	10053	Ⅲb	完形	82.5	16.7	41.3	6.5	36.2	15.5	2.0	0.1	173.0		Bs.	
－		－	6226	Ⅲb	略完形	82.5	16.7	40.6	5.8	22.5	1.8	2.0	0.1	84.0		Sa.	
Ⅱ-30-68		－	6173	Ⅲb	完形	82.7	16.9	35.2	0.4	30.8	10.1	2.3	0.4	108.0	○	Sa.	実測
－		－	8392	Ⅲb	略完形	82.9	17.1	33.7	(1.1)	22.5	1.8	2.5	0.6	80.0		Sa.	
－		－	6212	Ⅲb	略完形	83.9	18.1	30.7	(4.1)	28.5	7.8	2.7	0.8	93.0		Sa.	
－		－	7143	Ⅲb	略完形	84.1	18.3	33.5	(1.3)	20.5	(0.2)	2.5	0.6	55.0		Sa.	
－		－	6013	Ⅲb	完形	84.3	18.5	44.2	9.4	21.8	1.1	1.9	0.0	92.0		Sa.	
Ⅱ-30-69		－	6135	Ⅲb	完形	84.3	18.5	51.3	16.5	25.3	4.6	1.6	(0.3)	125.0	○	Sa.	実測
－		－	8422	Ⅲb	略完形	84.7	18.9	47.0	12.2	18.7	(2.0)	1.8	(0.1)	71.0		Sa.	
－		－	6335	Ⅲb	略完形	84.7	18.9	29.3	(5.5)	21.3	0.6	2.9	1.0	65.0		Sa.	
－		ⅢS067	6395 7236	Ⅲb	略完形	85.1	19.3	33.4	(1.4)	25.9	5.2	2.5	0.6	91.0		Sa.	
Ⅱ-30-70		－	6042	Ⅲb	完形	86.1	20.3	33.3	(1.5)	11.4	(9.3)	2.6	(4.5)	33.0	○	Sa.	実測
Ⅱ-30-71		－	7339	Ⅲb	完形	86.2	20.4	45.7	10.9	20.0	(0.7)	1.9	(3.8)	120.0	○	Sa.	実測
－		ⅢS044	7174 9113	Ⅲb	完形	86.3	20.5	33.1	(1.7)	15.3	(5.4)	2.6	0.7	38.0		Tu.	
－		－	9112	Ⅲb	完形	87.3	21.5	42.0	7.2	26.2	5.5	2.1	0.2	137.0		Sa.	
－		－	7241	Ⅲb	略完形	87.4	21.6	77.7	42.9	19.5	(1.2)	1.1	(0.8)	199.0		Con.	
－		－	6400	Ⅲb	完形	87.7	21.9	32.5	(2.3)	28.5	7.8	2.7	0.8	115.0		Sa.	
Ⅱ-30-72		－	7290	Ⅲb	完形	87.7	21.9	55.5	20.7	24.0	3.3	1.6	(0.3)	157.0	○	Sa.	実測
Ⅱ-30-73		－	8399	Ⅲb	完形	88.0	22.2	34.8	0.0	23.5	2.8	2.5	0.6	64.0	○	Sa.	実測
－		－	7309	Ⅲb	略完形	89.0	23.2	35.4	0.6	23.1	2.4	2.5	0.6	89.0		Sa.	
－	49-1-14	－	6237	Ⅲb	完形	89.9	24.1	42.3	7.5	19.1	(1.6)	2.1	0.2	78.0		Sa.	
－		－	7293	Ⅲb	略完形	90.6	24.8	43.5	8.7	25.4	4.7	2.1	0.2	107.0	○	Sa.	
Ⅱ-30-74		－	6323	Ⅲb	完形	90.9	25.1	39.8	5.0	26.8	6.1	2.3	0.4	144.0		Sa.	実測
－		－	6192	Ⅲb	完形	91.2	25.4	37.2	2.4	35.8	15.1	2.5	0.6	127.0		Sa.	
－		－	6338	Ⅲb	完形	92.2	26.4	49.5	14.7	30.4	9.7	1.9	(0.0)	151.0		Sa.	
Ⅱ-30-75		－	5180	Ⅲb	完形	93.4	27.6	37.9	3.1	26.3	5.6	2.5	0.6	147.0		Sa.	実測
－		－	6215	Ⅲb	完形	94.1	28.3	39.4	4.6	21.3	0.6	2.4	0.5	95.0		Sa.	
－		－	6259	Ⅲb	略完形	94.2	28.4	38.7	3.9	26.2	5.5	2.4	0.5	101.0		Sa.	
－		－	6066	Ⅲb	略完形	95.4	29.6	32.7	(2.1)	18.7	(2.0)	2.9	1.0	72.0		Sa.	
Ⅱ-30-76		－	8362	Ⅲb	完形	95.5	29.7	42.2	7.4	29.6	8.9	2.3	0.4	153.0		Sa.	実測
－		－	3364	Ⅲb	略完形	96.9	31.1	38.0	3.2	24.7	4.0	2.6	0.7	111.0		Sa.	
－		－	7098	Ⅲb	完形	97.1	31.3	39.3	4.5	19.6	(1.1)	2.5	0.6	113.0	○	Sa.	
－		－	7262	Ⅲb	完形	99.0	33.2	45.9	11.1	19.2	(1.5)	2.2	0.3	114.0		Sa.	
－		－	8384	Ⅲb	略完形	99.5	33.7	44.0	9.2	30.0	9.3	2.3	0.4	125.0	○	Sa.	
Ⅱ-30-77		－	7161	Ⅲb	略完形	99.9	34.1	40.1	5.3	32.2	11.5	2.5	0.6	159.0		Sa.	実測
－		－	6211	Ⅲb	完形	102.2	36.4	28.9	(5.9)	24.7	4.0	3.5	1.6	74.0		Sa.	
－		－	6178	Ⅲb	完形	104.1	38.3	55.8	21.0	25.4	4.7	1.9	(0.0)	204.0	○	Sa.	
Ⅱ-30-78		－	8379	Ⅲb	完形	105.4	39.6	79.3	44.5	47.5	26.8	1.3	(0.6)	481.0		Sa.	実測
－		－	8395	Ⅲb	完形	110.5	44.7	75.0	40.2	31.6	10.9	1.5	(0.4)	237.0		Qu.	
Ⅱ-30-79		ⅢS069	6172 7355	Ⅲb	完形	113.4	47.6	86.0	51.2	56.0	35.3	1.3	(0.6)	549.0		Sa.	実測
Ⅱ-30-80		－	6387	Ⅲb	完形	114.2	48.4	36.3	1.5	22.7	2.0	3.1	1.2	123.0		Sa.	実測
－		－	7175	Ⅲb	完形	134.2	68.4	26.1	(8.7)	24.8	4.1	5.1	3.2	97.0		Sa.	
－		－	6425	Ⅲb	完形	134.9	69.1	56.3	21.5	28.7	8.0	2.4	0.5	239.0		Sa.	
Ⅱ-30-81		ⅢS054	6210 7246	Ⅲb	完形	159.0	93.2	49.1	14.3	39.8	19.1	3.2	1.3	330.0	○	Sa.	実測
Ⅱ-30-82		－	6427	Ⅲb	完形	269.0	203.2	132.3	97.5	58.9	38.2	2.0	0.1	2850.0		Sa.	実測

完形合計										238	
完形平均値				65.8		34.8		20.7	1.9	76.9	
遺物総重量										18290.5	

表Ⅱ-10　ⅢPB出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	遺構名/グリッド	層位	器種	部位	器面調整		文様	点数	備考
									内側	外側	口縁部/文様帯		
Ⅱ-36-1	49-2-1	SP10A	ⅦB3c	166 188他	ⅢPB-01/ BG-31	ⅢbM	甕	口縁部～胴部	ミガキ	ハケメ	横走沈線文/斜位沈線文（斜格子状）	33	補修孔
Ⅱ-36-2	49-2-2	SP01	ⅦB3c	1577 1572他	ⅢPB-02/ AZ-34他	ⅢbL	甕	口縁部～底部	ミガキ	ハケメ ミガキ	浅い横走沈線文＋刻み/縦位・横走沈線文 ・刻み	105	補修孔 内面黒色処理
Ⅱ-36-4	50-4	SP02A	ⅦB3c	3312 1370他	ⅢPB-04/ AZ-28	ⅢbL	甕	口縁部～胴部	ミガキ	ミガキ ハケメ	横走沈線文＋矢羽根状刻み・斜位沈線文/縦位・斜位沈線文・刻み・馬蹄形押捺文＋貼付圏礫帯	46	補修孔 内面黒色処理
Ⅱ-36-5	50-5	SP02B	ⅦB3c	3320 3300他	ⅢPB-04/ AZ-28	ⅢbL	甕	胴部下～底部	ミガキ	ミガキ ハケメ	－	10	内面黒色処理
Ⅱ-37-1	50-6	SP03	ⅦB3c	1403 1406他	ⅢPB-05/ AZ-32	ⅢbM	甕	口縁部～胴部	ミガキ	ハケメ ミガキ	矢羽根状刻み/縦位・斜位沈線文	57	補修孔 炭化物付着 内面黒色処理
Ⅱ-37-2	50-7	SP24	ⅦB3c	8157 8159他	ⅢPB-06/ BA-22 BL-17	ⅢbL	甕	口縁部～胴部	ミガキ	ミガキ	馬蹄形押捺文・刻み/縦位・横位・斜位沈線文	24	内面黒色処理

表Ⅱ-11　ⅢPB・ⅢSB出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺物名	層位	遺構名	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
						長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-36-3	49-2-3	1546	鏃先	ⅢbM	ⅢPB-02	130.0	28.0	6.5	98.6	Irn.	
Ⅱ-37-5	51-1-3	1159	小刀　茎	ⅢbL	ⅢSB-02	(43.5)	18.0	4.5	(11.4)	Irn.	樹皮巻

表Ⅱ-12　ⅢSB出土礫属性表

ⅢSB-02

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比 標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-37-3	51-1-1	ⅢS118	1117他	Ⅲb	欠損	(129.7)	−	(95.3)	−	(27.3)	−	−	−	(340.0)	○	Cha.	
		ⅢS119	1057他	Ⅲb	破片	(119.8)	−	(78.3)	−	(21.7)	−	−	−	(168.1)	○	Cha.	
Ⅱ-37-4	51-1-2	ⅢS120	1145他	Ⅲb	破片	(113.0)	−	(61.5)	−	(14.6)	−	−	−	(76.3)	○	Cha.	
完形合計														3			
完形平均値						(120.8)	−	(78.4)	−	(21.2)	−	−	−	(194.8)			
遺物総重量														(584.4)			

ⅢSB-03

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比 標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-37-6		ⅢS020	5271 5269 5275	Ⅲb	完形	61.4	−19.6	37.2	4.2	17.8	−2.2	1.7	−0.8	45.3		Sa.	実測
−		−	5290	Ⅲb	完形	72.3	−8.7	25.8	−7.2	11.2	−8.8	2.8	0.3	35.6		Sa.	
−		−	5287	Ⅲb	略完形	73.9	−7.1	40.9	7.9	20.1	0.1	1.8	−0.7	62.1		Sa.	
−		−	5300	Ⅲb	完形	72.3	−8.7	41.7	8.7	21.0	1.0	1.7	−0.8	63.2		Sa.	
−		ⅢS030	5303 5304	Ⅲb	略完形	73.6	−7.4	23.7	−9.3	19.4	−0.6	3.1	0.6	45.5		Mud.	
−		ⅢS024	5317 5299-2	Ⅲb	完形	75.4	−5.6	23.4	−9.6	19.0	−1.0	3.2	0.7	46.2	○	Sa.	
Ⅱ-37-7		−	5278	Ⅲb	完形	75.2	−5.8	34.4	1.4	14.2	−5.8	2.2	−0.3	49.8		Sa.	実測
−		−	5292	Ⅲb	完形	78.9	−2.1	33.3	0.3	18.9	−1.1	2.4	−0.1	36.6		Mud.	
−		ⅢS032	5297 5299-4 5294 5397	Ⅲb	略完形	79.3	−1.7	32.5	−0.5	21.4	1.4	2.4	−0.1	59.3	○	Sa.	
Ⅱ-37-8	51-1-4	ⅢS029	5301 5299-3	Ⅲb	完形	85.2	4.2	27.3	−5.7	19.3	−0.7	3.1	0.6	52.7		Sa.	実測
Ⅱ-37-9		−	5298	Ⅲb	完形	73.5	−7.5	36.1	3.1	23.3	3.3	2.0	−0.5	88.1	○	Sa.	実測
−		ⅢS028	5285 5284 5283	Ⅲb	略完形	85.3	4.3	28.0	−5.0	27.9	7.9	3.0	0.5	76.7		Sa.	
−		ⅢS027	5270 5273 5279	Ⅲb	略完形	88.9	7.9	35.0	2.0	19.5	−0.5	2.5	0.0	69.1		Sa.	
−		−	5280	Ⅲb	完形	88.4	7.4	39.2	6.2	24.2	4.2	2.3	−0.2	88.8		Sa.	
−		−	5309	Ⅲb	略完形	91.5	10.5	38.9	5.9	10.7	−9.3	2.4	−0.1	37.6		Sa.	
Ⅱ-37-10		−	5296	Ⅲb	完形	89.9	8.9	31.1	−1.9	20.7	0.7	2.9	0.4	56.5		Mud.	実測
Ⅱ-37-11		ⅢS026	5305 5302	Ⅲb	完形	97.7	16.7	31.4	−1.6	27.4	7.4	3.1	0.6	73.9	○	Sa.	実測
−		−	5268	Ⅲb	完形	95.4	14.4	34.5	1.5	23.6	3.6	2.8	0.3	68.7		Mud.	
完形合計														18			
完形平均値						81.0		33.0		20.0		2.5		58.7			
遺物総重量														1055.7			

表Ⅱ-13　Ⅲ層包含層出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	グリッド	層位	器種	部位	器面調整 内側	器面調整 外側	文様 口縁部/文様帯	点数	備考
Ⅱ-38-1	51-2-1	ZP01	VID4	635 636他	BF-34	Ⅲc	鉢	口縁部～底部	-	-	刻み(口唇)・隆起線文・三角列点文/三角列点文(底面)	11	ミニチュア
Ⅱ-38-2	51-2-2	SP04	ⅧB3c	9013 9011他	BB-15	ⅢbL	甕	口縁部～底部	ミガキ	ミガキ	横走沈線文+刻み/斜位・横走沈線文・馬蹄形押捺文+貼付隆帯	9	内面黒色処理
Ⅱ-38-3	51-2-3	SP06A	ⅧB3c	1334 5581他	BC-34	ⅢbM	甕	口縁部～胴部	ミガキ	ハケメ ミガキ	横走沈線文・矢羽根状刻み/斜位・横走沈線文・刺突文	7	
Ⅱ-38-4	51-2-4	SP08	ⅧB3c	7462 7465他	BC-34	ⅢbL	甕	口縁部～胴部下半	ミガキ	ハケメ ミガキ	横走沈線文+矢羽根状刻み/斜位・縦位・横走沈線文・刻み	24	
Ⅱ-38-5	51-2-5	SP13	ⅧB3c	84	BE-29	ⅢbL	甕	口縁部	ミガキ	ナデ	刻み	1	
Ⅱ-38-6	51-2-6	SP14	ⅧB3c	5145	BN-18	Ⅲc	甕	口縁部	ミガキ	ミガキ	横走沈線文・矢羽根状刻み/縦位沈線文	1	
Ⅱ-38-7	51-2-7	SP20	ⅧB3c	1360 1329他	BC-34	ⅢbL	壺	口縁部～肩部	ミガキ	ミガキ ハケメ	横走沈線文・刻み・矢羽根状刻み/斜位・横位沈線文	6	内面黒色処理
Ⅱ-38-8	51-2-8	SP21A	ⅧB3c	5207	BH-16	ⅢbL	甕	胴部	ミガキ	ミガキ	横走沈線文・刻み	1	
Ⅱ-38-9	51-2-9	SP18	ⅧB3c	7469 1339他	BC-34	ⅢbL	甕	底部	ミガキ	ハケメ ミガキ	-	5	
Ⅱ-38-10	51-2-10	SP16	ⅧC4	8826 7477 8827	BC-35	Ⅲc	坏	口縁部～体部	ミガキ	ミガキ	斜位沈線文	3	内面黒色処理
Ⅱ-38-11	51-2-11	SP17	ⅧC4	1789	ⅢGP-02/BD-35	ⅢbM	高坏	脚部接合部	ミガキ	ミガキ	斜位沈線文	1	
Ⅱ-38-12	51-2-12	SP25	ⅧC4	1777	ⅢGP-02/BD-35	ⅢbM	坏	体部	ミガキ	弱いミガキ	斜位沈線文	1	

表Ⅱ-14　Ⅲ層包含層出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド	計測値(mm) 長軸	計測値(mm) 短軸	計測値(mm) 厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-40-1	52-1	-	270	石斧	B	ⅢbU	AZ-33	86.1	37.0	10.9	60.0	Gr-Mud.	石成品 完形
Ⅱ-40-2	52-2	-	555	たたき石	Ⅳ	ⅢbL	BK-33	(94.5)	76.5	50.0	(625.0)	Sa.	欠損
Ⅱ-40-3	52-3	-	5214	すり石	B	ⅢbL	BK-17	83.6	62.1	45.7	425.0	Bs.	被熱 略完形
Ⅱ-40-4	52-4	-	5572	砥石	-	ⅢbU	BF-16	(97.6)	(83.3)	40.5	(345.0)	Tu.	欠損
Ⅱ-40-5	52-5	-	8006	砥石	-	ⅢbU	BF-16	(30.0)	36.7	5.4	(15.0)	Tu.	欠損
Ⅱ-40-6	52-6	-	5218	滑沢面のある礫	-	ⅢbL	BK-17	180.0	169.0	32.1	1590.0	Bs.	完形
Ⅱ-40-7	52-7	-	8118	小刀	-	ⅢbU	BE-15	(294.0)	22.5	3.5	78.0	Irn.	目釘孔
Ⅱ-40-8	52-8	-	1719	刀子	-	ⅢbU	BA-22	(135.0)	18.0	2.0	(22.1)	Irn.	
Ⅱ-40-9	52-9	-	112	小刀 切先	-	ⅢbM	BH-33	(52.5)	19.0	2.8	(7.8)	Irn.	
Ⅱ-40-10	52-10	-	111	刀子	-	ⅢbM	BI-33	(79.0)	12.5	1.5	(5.1)	Irn.	
Ⅱ-40-11	52-11	-	8132	小刀 茎	-	ⅢbM	BI-16	(58.5)	12.0	3.0	(6.0)	Irn.	
Ⅱ-40-12	52-12	-	7446	刀子 茎	-	ⅢbM	BD-33	(57.0)	10.0	3.0	(6.0)	Irn.	
Ⅱ-40-13a	52-13a	-	8398-1	鉤状鉄製品	-	ⅢbM	BA-20	(15.5)	7.0	4.5	(0.9)	Irn.	
Ⅱ-40-13b	52-13b	-	8398-2	鉤状鉄製品	-	ⅢbU	BA-20	(16.0)	6.5	4.0	(1.2)	Irn.	